平成２５（２０１３）年度

講義計画と内容

教 育 学 研 究 科

【注意事項】
UT-mate（https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus）の内容と相違がある場合には、UT-mateの内容を正としてください。

目　　次

Ⅰ．平成２５（２０１３）年度大学院教育学研究科授業日程 …… 1

Ⅱ．教育学研究科の成績評価基準について …… 2

Ⅲ．試験時の不正行為について …… 3

Ⅳ．レポート作成時の留意点について …… 4

Ⅴ．授業科目表 …… 5

Ⅵ．講義内容（シラバス）

総合教育科学専攻

基礎教育学専修

基礎教育学コース …… 17

教育社会科学専修

比較教育社会学コース …… 36

生涯学習基盤経営コース …… 51

大学経営・政策コース …… 63

心身発達科学専修

教育心理学コース …… 77

臨床心理学コース …… 91

身体教育学コース …… 115

学校教育高度化専攻

教職開発コース …… 123

教育内容開発コース …… 146

学校開発政策コース …… 169

ⅶ．教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧 …… 186

ⅷ．事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧 …… 196

ⅸ．地図 …… 197

平成２５（２０１３）年度　大学院教育学研究科授業日程

進入学ガイダンス	４月　４日（木）

【夏学期】

授業	４月　５日（金）～　７月２２日（月）
夏学期修了試験	授業の最終日に行う。
授業(集中講義・補講)	７月２３日（火）～　７月３１日（水）
夏季休業	８月　１日（木）～　９月３０日（月）
授業休止	４月１２日（金）　（大学院入学式）
	５月１７日（金）午後　（五月祭準備）
	５月１８日（土）全日　（五月祭）
履修登録期間	４月２２日（月）～　４月２６日（金）

【冬学期】

授業	１０月　１日（火）～１２月１６日（月）
授業(集中講義・補講)	１２月１７日（火）～１２月２０日（金）
冬季休業	１２月２１日（土）～　１月　５日（日）
授業	１月　６日（月）～　２月　３日（月）
学年末修了試験	授業の最終日に行う。
授業休止	１月１７日（金）午後　（大学入試センター試験準備）
	１月１８日（土）全日　（大学入試センター試験）
履修登録期間	１０月２１日（月）～１０月２５日（金）

※授業(補講・集中講義)の期間中は、通常の授業は行わない。

〔授業時間帯〕

第１時限	８：４０～１０：２０	（午前）
第２時限	１０：３０～１２：１０	
第３時限	１３：００～１４：４０	
第４時限	１４：５０～１６：３０	
第５時限	１６：４０～１８：２０	（午後）
第６時限	１８：３０～２０：１０	
第７時限	２０：２０～２２：００	

〔修士論文日程〕

修士論文題目届提出期間	１１月２８日（木）～１２月　４日（水）
修士論文提出期間	１月　６日（月）～　１月１０日（金）１６：３０
修士論文要旨提出期間	１月　６日（月）～　１月１４日（火）１６：３０

教育学研究科の成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基　　準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習･研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

１．筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

２．平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

３．レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけではなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

レポート作成時の留意点について

レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他者の文章やデータ、Web 上の情報等を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効となるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点が無効とされ、学生処分の対象となる。また、レポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も同様に取り扱われる。

教育学研究科授業科目表

（自　2013年4月
　至　2014年3月）

総合教育科学専攻　基礎教育学専修

基礎教育学コース　　【備考欄の＊印は、基礎教育学コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
211-01	教育哲学基本研究	知識論・学問論	2	夏	教　授	金森　修	合併科目（学際情報学府）
211-02	教育人間学基本研究	教育思想演習	2	夏	教　授	小玉　重夫	
211-03	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	2	夏	准教授	片山　勝茂	
211-04	教育史基本研究	西洋教育史演習Ⅰ	2	夏	教　授	川本　隆史	合併科目（教育内容開発コース）
211-05	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	2	夏	教　授	小国　喜弘	
211-06	教育臨床学基本研究	教育臨床学基本演習	2	夏	教　授	田中　智志	
211-07	教育哲学特殊研究	知識論・学問論演習	2	冬	教　授	金森　修	合併科目（学際情報学府）
211-08	教育哲学特殊研究	教育的＜囲い＞の思想ーシステム理論的教育学の視点を中心に	2	夏	非常勤講師	山名　淳	集中講義
211-09	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	2	冬	教　授	小玉　重夫	
211-10	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	2	冬	准教授	片山　勝茂	
211-11	教育史特殊研究	西洋教育史演習Ⅱ	2	冬	教　授	川本　隆史	
211-12	教育史特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	2	冬	教　授	小国　喜弘	
211-13	教育臨床学特殊研究	教育臨床学演習	2	冬	教　授	田中　智志	
211-14	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	2	夏冬	教　授 教　授 教　授 教　授 教　授 准教授	川本　隆史 金森　修 小玉　重夫 田中　智志 小国　喜弘 片山　勝茂	＊　隔週
211-15	教育哲学論文指導	知識論・学問論論文指導	2	夏冬	教　授	金森　修	＊　隔週
211-16	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	2	夏冬	客員教授	今井　康雄	＊　隔週

211-17	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	2	夏冬	教 授	小玉 重夫	＊ 隔週
211-18	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	2	夏冬	准教授	片山 勝茂	＊ 隔週
211-19	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	2	夏冬	教 授	川本 隆史	＊ 隔週
211-20	教育史論文指導	日本教育史論文指導	2	夏冬	教 授	小国 喜弘	＊ 隔週
211-21	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	2	夏冬	教 授	田中 智志	＊ 隔週

総合教育科学専攻　教育社会科学専修

比較教育社会学コース　　【備考欄の＊印は、比較教育社会学コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
212-01	比較教育学基本研究	質的方法論研究Ⅰ	2	夏	教 授	恒吉 僚子	
212-02	比較教育システム論基本研究	教育社会学方法論研究	2	冬	教 授	中村 高康	
212-03	比較教育システム論特殊研究	教育と選抜の諸問題	2	夏	教 授	中村 高康	
212-04	高等教育論基本研究	高等教育の社会学Ⅰ	2	夏	教 授	橋本 鉱市	
212-05	高等教育論特殊研究	高等教育の社会学Ⅱ	2	冬	教 授	橋本 鉱市	
212-06	教育社会学基本研究	現代日本社会における教育・仕事・家族	2	夏	教 授	本田 由紀	
212-07	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	2	冬	教 授	本田 由紀	
212-08	教育社会学特殊研究	教育社会の計量分析	2	夏	准教授	佐藤 香	
212-09	比較教育学特殊研究	質的方法論研究Ⅱ	2	夏	教 授	恒吉 僚子	
212-10	教育社会学特殊研究	社会調査法	2	夏	非常勤講師	石田 浩	合併科目（人文社会系研究科・法学政治学研究科・公共政策学教育部）
212-11	教育社会学特殊研究	比較教育政策論－アジアにおける高等教育政策と国際連携－	2	冬	非常勤講師	杉村 美紀	
212-12	教育社会学特殊研究	キャリア教育論	2	冬	非常勤講師	児美川 孝一郎	
212-13	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	2	夏冬	教 授	恒吉 僚子	＊ 隔週

212-14	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	2	夏冬	教 授	本田 由紀	＊ 隔週
212-15	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	2	夏冬	准教授	佐藤 香	＊ 隔週
212-16	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	2	夏冬	教 授	中村 高康	＊ 隔週
212-17	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	2	夏冬	教 授	橋本 鉱市	＊ 隔週
212-18	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	2	夏冬	客員教授	結城 恵	＊ 隔週

総合教育科学専攻　教育社会科学専修

生涯学習基盤経営コース　　【備考欄の＊印は、生涯学習基盤経営コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅲ	2	夏	教 授 准教授 講 師	牧野 篤 李 正連 新藤 浩伸	
213-02	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅳ	2	冬	教 授 准教授 講 師	牧野 篤 李 正連 新藤 浩伸	
213-03	図書館情報学基本研究	図書館情報学理論研究	2	夏	教 授	根本 彰	
213-04	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	2	夏	教 授	影浦 峡	
213-05	社会教育学特殊研究	プログラム評価論	2	冬	非常勤講師	安田 節之	
213-06	社会教育学特殊研究	アメリカ・モデルの福祉国家と生涯学習	2	夏	非常勤講師	藤村 好美	隔週
213-07	図書館情報学特殊研究	北欧の生涯学習と図書館	2	夏	非常勤講師	吉田 右子	
213-08	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅲ	2	夏	教 授 准教授 講 師	牧野 篤 李 正連 新藤 浩伸	
213-09	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅳ	2	冬	教 授 准教授 講 師	牧野 篤 李 正連 新藤 浩伸	
213-10	図書館情報学特殊研究	探究学習のための情報環境構築	2	冬	教 授	根本 彰	
213-11	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	2	冬	教 授	影浦 峡	合併科目（学際情報学府）
213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	2	夏冬	教 授 准教授 講 師	牧野 篤 李 正連 新藤 浩伸	＊ 隔週
213-13	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	2	夏冬	教 授	根本 彰	＊ 隔週

213-14	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	2	夏冬	教 授	影浦 峡	＊ 隔週

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

大学経営・政策コース 【備考欄の＊印は、大学経営・政策コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
214-01	大学経営政策基本研究	高等教育政策論	2	冬	准教授 非常勤講師 非常勤講師	小方 直幸 合田 哲雄 松坂 浩史	
214-02	大学経営政策基本研究	高等教育論	2	夏	准教授	小方 直幸	
214-03	大学経営政策基本研究	大学財務会計論	2	冬	教 授	山本 清	
214-04	大学経営政策基本研究	大学経営論	2	夏	准教授	両角 亜希子	
214-05	大学経営政策基本研究	比較大学経営論(1)	2	冬	准教授	福留 東土	＊ 集中講義
214-06	大学経営政策基本研究	大学経営政策演習(2)	2	夏冬	准教授 准教授	小方 直幸 両角 亜希子	＊ 隔週
214-07	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究	2	夏冬	教 授	山本 清	＊ 隔週
214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(1)	2	夏	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	荒井 克弘 大森 不二雄 小杉 礼子	
214-09	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(2)	2	冬	准教授 准教授 客員教授	小方 直幸 両角 亜希子 吉田 文	
214-10	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究(1)	2	夏	准教授	両角 亜希子	集中講義
214-11	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(1)	2	夏	非常勤講師	大多和 直樹	
214-12	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(2)	2	冬	教 授	小林 雅之	
214-13	大学経営政策特殊研究	大学財務会計特論	2	夏	教 授	山本 清	
214-14	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	2	夏冬	教 授 准教授 准教授 准教授 客員教授	山本 清 小方 直幸 福留 東土 両角 亜希子 吉田 文	＊ 隔週
214-15	大学経営政策特殊研究	比較大学論	2	冬	准教授	福留 東土	

総合教育科学専攻　心身発達科学専修

教育心理学コース　　【備考欄の＊印は、教育心理学コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
215-01	教授・学習心理学基本研究	認知と教育	2	夏	教　授	市川　伸一	
215-02	教育情報科学基本研究	心理統計学概論	2	夏	教　授	南風原　朝和	
215-03	教育情報科学基本研究	心理統計学の諸問題Ⅰ	2	夏	教　授	南風原　朝和	
215-04	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	2	夏	准教授	遠藤　利彦	
215-05	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達Ⅰ	2	夏	准教授	針生　悦子	
215-06	教育認知科学基本研究	生態心理学Ⅰ	2	夏	教　授	佐々木　正人	合併科目（学際情報学府）
215-07	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学Ⅰ	2	夏	教　授	岡田　猛	合併科目（学際情報学府）
215-08	教授・学習心理学特殊研究	保育学研究	2	夏	教　授	秋田　喜代美	合併科目（教職開発コース）
215-09	教授・学習心理学特殊研究	授業における学習研究	2	冬	教　授	秋田　喜代美	合併科目（教職開発コース）
215-10	教授・学習心理学特殊研究	教授・学習過程	2	冬	教　授	市川　伸一	
215-11	教育情報科学特殊研究	心理統計学の諸問題Ⅱ	2	冬	教　授	南風原　朝和	
215-12	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情緒的発達	2	冬	准教授	遠藤　利彦	
215-13	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達Ⅱ	2	冬	准教授	針生　悦子	
215-14	教育認知科学特殊研究	生態心理学Ⅱ	2	冬	教　授	佐々木　正人	
215-15	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学Ⅱ	2	冬	教　授	岡田　猛	合併科目（学際情報学府）
215-16	教育情報科学特殊研究	項目応答理論による大規模言語試験の開発・運用・改定	2	夏	非常勤講師	野口　裕之	集中講義
215-17	教育情報科学特殊研究	頻度論的統計とベイズ統計	2	冬	非常勤講師	岡田　謙介	
215-18	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教　授	秋田　喜代美	＊　隔週
215-19	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教　授	市川　伸一	＊　隔週

215-20	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	南風原 朝和	＊ 隔週
215-21	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	准教授	遠藤 利彦	＊ 隔週
215-22	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	准教授	針生 悦子	＊ 隔週
215-23	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	佐々木 正人	＊ 隔週
215-24	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	岡田 猛	＊ 隔週

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

臨床心理学コース 【備考欄の＊印は、臨床心理学コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ	1	夏	教 授 准教授	下山 晴彦 高橋 美保	＊ 修士2年必須
216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ	1	冬	教 授 准教授	下山 晴彦 高橋 美保	＊ 修士2年必須
216-03	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	2	冬	准教授	高橋 美保	＊ 修士1年必須
216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	2	冬	教 授	能智 正博	＊ 修士1年必須
216-05	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理学特論Ⅰ	2	夏	教 授	下山 晴彦	＊ 修士1年必須
216-06	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理査定演習Ⅰ	2	夏	教 授 講 師	下山 晴彦 石丸 径一郎	＊ 修士1年必須
216-07	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	夏	教 授 准教授	下山 晴彦 高橋 美保	＊ 修士1年必須
216-08	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ	2	冬	准教授 講 師	高橋 美保 石丸 径一郎	＊ 修士1年必須
216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	2	冬	講 師 教 授	石丸 径一郎 能智 正博	＊ 修士1年必須
216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	冬	准教授 教 授	高橋 美保 下山 晴彦	＊ 修士1年必須
216-11	臨床心理システム論特殊研究	家族相談演習Ⅰ	2	夏	非常勤講師	北島 歩美	＊
216-12	臨床心理システム論特殊研究	家族相談演習Ⅱ	2	冬	非常勤講師	北島 歩美	＊
216-13	発達臨床心理学特殊研究	老年期の心理臨床Ⅰ	2	夏	非常勤講師	松澤 広和	＊ 隔週

216-14	発達臨床心理学特殊研究	老年期の心理臨床Ⅱ	2	冬	非常勤講師	松澤　広和	＊ 隔週
216-15	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎	2	夏	教　授 准教授	下山　晴彦 高橋　美保	＊
216-16	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用	2	冬	准教授 教　授	高橋　美保 下山　晴彦	＊
216-17	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法Ⅰ	2	夏	教　授	能智　正博	
216-18	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法Ⅱ	2	冬	講　師	石丸　径一郎	
216-19	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	教　授 講　師	下山　晴彦 星加　良司	＊ 隔週
216-20	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	教　授	能智　正博	＊ 隔週
216-21	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	准教授	高橋　美保	＊ 隔週
216-22	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	講　師	石丸　径一郎	＊ 隔週
216-23	発達臨床心理学特殊研究	障害学演習	2	冬	教　授	福島　智	
216-24	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	2	夏冬	教　授	福島　智	＊ 隔週
216-25	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	客員教授	中嶋　義文	＊ 隔週
216-26	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	客員教授	原田　誠一	＊ 隔週
216-27	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅠ	2	夏	非常勤講師	森田　慎一郎	＊
216-28	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅡ	2	冬	非常勤講師	森田　慎一郎	＊

総合教育科学専攻　心身発達科学専修

身体教育学コース　　【備考欄の＊印は、身体教育学コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
217-01	身体教育科学基本研究	身体教育科学の諸問題Ⅰ	2	夏	教　授	野崎　大地	
217-02	教育生理学基本研究	身体システム論Ⅰ	2	夏	教　授	山本　義春	合併科目(新領域創成科学研究科)
217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論Ⅰ	2	夏	教　授	多賀　厳太郎	

217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題Ⅰ	2	夏	教 授	佐々木 司	
217-05	身体教育科学特殊研究	身体教育科学の諸問題Ⅱ	2	冬	教 授	野崎 大地	
217-06	教育生理学特殊研究	身体システム論Ⅱ	2	冬	教 授	山本 義春	合併科目(新領域創成科学研究科)
217-07	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論Ⅱ	2	冬	教 授	多賀 厳太郎	
217-08	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題Ⅱ	2	冬	教 授	佐々木 司	
217-09	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	2	夏冬	教 授	野崎 大地	＊ 隔週
217-10	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	2	夏冬	教 授	山本 義春	＊ 隔週
217-11	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	2	夏冬	教 授	多賀 厳太郎	＊ 隔週
217-12	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	2	夏冬	教 授	佐々木 司	＊ 隔週
217-13	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	2	夏冬	准教授	東郷 史治	＊ 隔週
217-14	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	2	夏冬	講 師	森田 賢治	＊ 隔週
217-15	身体教育科学特殊研究	思春期の心身発達疫学	2	夏冬	客員准教授	西田 淳志	集中講義
217-16	身体教育科学特殊研究	日常生活下の心身相関調査の教育・健康科学応用	2	冬	客員准教授	菊地 裕絵	集中講義

学校教育高度化専攻

教職開発コース　　【備考欄の＊印は、教職開発コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
301-01	教職開発・理論研究(授業研究・基礎研究)	授業研究の理論と方法	2	夏	准教授	藤江 康彦	
301-02	教職開発・理論研究(教職開発・基礎研究)	教育実践の歴史的研究	2	夏	准教授	浅井 幸子	
301-03	教職開発・理論研究(教職開発・基礎研究)	ことばの教育と授業	2	夏	非常勤講師	髙木 展郎	合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-04	教職開発・理論研究(教職開発・基礎研究)	教育政策と教育法	2	夏	非常勤講師	中田 康彦	合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-05	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)	学習科学研究	2	夏冬	教 授	三宅 なほみ	隔週

301-06	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	保育学研究	2	夏	教 授	秋田 喜代美	合併科目(教育心理学コース)
301-07	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	質的方法による教育経験の研究	2	夏	非常勤講師	藤原 顕	集中講義 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-08	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	カリキュラム開発と教育評価	2	夏	非常勤講師	西岡 加名恵	集中講義 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-09	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり	2	夏	非常勤講師	鶴田 清司	集中講義 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-10	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	芸術教育の実践研究	2	冬	客員教授	佐野 靖	合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-11	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	学校経営とリーダーシップ	2	冬	非常勤講師	浜田 博文	集中講義 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-12	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育政策の公共政策学的分析	2	冬	非常勤講師	秋吉 貴雄	合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-13	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	授業における学習研究	2	冬	教 授	秋田 喜代美	合併科目(教育心理学コース)
301-14	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	2	夏	准教授	藤江 康彦	合併科目(教育内容開発コース)
301-15	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教職開発事例研究	2	冬	准教授	浅井 幸子	合併科目(教育内容開発コース)
301-16	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例研究	2	冬	教 授	藤村 宣之	合併科目(教育内容開発コース)
301-17	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	授業の実地研究	2	夏	教 授	秋田 喜代美	合併科目(教育内容開発コース)
301-18	教職開発・実践研究 (授業研究・実地研究)	教科学習の実地研究	2	冬	教 授	斎藤 兆史	合併科目(教育内容開発コース)
301-19	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	2	夏冬	教 授	秋田 喜代美	＊ 隔週 合併科目(教育内容開発コース)
301-20	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	2	夏冬	准教授	藤江 康彦	＊ 隔週
301-21	教職開発・論文指導 (教職開発・論文指導)	教職開発論文指導	2	夏冬	教 授	三宅 なほみ	＊ 隔週
301-22	教職開発・論文指導 (教職開発・論文指導)	教職開発論文指導	2	夏冬	准教授	浅井 幸子	＊ 隔週
301-23	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教育政策実地研究	2	冬	教 授	大桃 敏行	修士2年のみ履修可 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)
301-24	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教育行政実地研究	2	冬	准教授	村上 祐介	修士2年のみ履修可 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)

301-25	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	学校経営実地研究	2	冬	准教授	勝野　正章	修士2年のみ履修可 合併科目(教育内容開発コース・学校開発政策コース)

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース　　【備考欄の＊印は、教育内容開発コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
302-01	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語教授法	2	夏	教　授	斎藤　兆史	合併科目(総合文化研究科)
302-02	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	ことばの教育と授業	2	夏	非常勤講師	髙木　展郎	合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-03	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	市民性の教育理論	2	夏	教　授	川本　隆史	合併科目(基礎教育学コース)
302-04	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	グローバル化と学校教育	2	夏	准教授	北村　友人	
302-05	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	教育政策と教育法	2	夏	非常勤講師	中田　康彦	合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-06	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・発展研究)	数学的・科学的思考の発達と授業過程	2	夏	教　授	藤村　宣之	
302-07	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり	2	夏	非常勤講師	鶴田　清司	集中講義 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-08	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)	芸術教育の実践研究	2	冬	客員教授	佐野　靖	合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-09	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	グローバル時代における教育の公共性	2	冬	准教授	北村　友人	
302-10	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	質的方法による教育経験の研究	2	夏	非常勤講師	藤原　顕	集中講義 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-11	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	カリキュラム開発と教育評価	2	夏	非常勤講師	西岡　加名恵	集中講義 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-12	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	学校経営とリーダーシップ	2	冬	非常勤講師	浜田　博文	集中講義 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-13	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育政策の公共政策学的分析	2	冬	非常勤講師	秋吉　貴雄	合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-14	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例研究	2	冬	教　授	藤村　宣之	合併科目(教職開発コース)
302-15	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	2	夏	准教授	藤江　康彦	合併科目(教職開発コース)
302-16	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教職開発事例研究	2	冬	准教授	浅井　幸子	合併科目(教職開発コース)

302-17	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	2	夏	教 授	秋田 喜代美	合併科目(教職開発コース)
302-18	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教科学習の実地研究	2	冬	教 授	斎藤 兆史	合併科目(教職開発コース)
302-19	教育内容開発・論文指導 (数学・科学教育・論文指導)	科学技術教育論文指導	2	夏冬	教 授	金森 修	＊ 隔週
302-20	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	授業研究論文指導	2	夏冬	教 授	秋田 喜代美	＊ 隔週 合併科目(教職開発コース)
302-21	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	2	夏冬	教 授	斎藤 兆史	＊ 隔週
302-22	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	2	夏	教 授	川本 隆史	＊
302-23	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発・論文指導	2	夏冬	教 授	藤村 宣之	＊ 隔週
302-24	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	2	夏冬	客員教授	佐野 靖	＊ 隔週
302-25	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	2	夏冬	准教授	北村 友人	＊ 隔週
302-26	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教育政策実地研究	2	冬	教 授	大桃 敏行	修士2年のみ履修可 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-27	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教育行政実地研究	2	冬	准教授	村上 祐介	修士2年のみ履修可 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)
302-28	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	学校経営実地研究	2	冬	准教授	勝野 正章	修士2年のみ履修可 合併科目(教職開発コース・学校開発政策コース)

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース　　【備考欄の＊印は、学校開発政策コース所属学生のみ履修可】

科目番号	授業科目	講義題目	単位数	学期	担当教員		備考
					職名	氏名	
303-01	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策基礎論	2	夏	教 授	大桃 敏行	
303-02	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策と教育法	2	夏	非常勤講師	中田 康彦	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-03	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	2	夏	准教授	勝野 正章	
303-04	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	ことばの教育と授業	2	夏	非常勤講師	髙木 展郎	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策研究のための計量分析	2	夏	准教授	村上 祐介	

303-06	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	学校経営とリーダーシップ	2	冬	非常勤講師	浜田　博文	集中講義 合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-07	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策の公共政策学的分析	2	冬	非常勤講師	秋吉　貴雄	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-08	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	質的方法による教育経験の研究	2	夏	非常勤講師	藤原　顕	集中講義 合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-09	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	カリキュラム開発と教育評価	2	夏	非常勤講師	西岡　加名恵	集中講義 合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-10	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり	2	夏	非常勤講師	鶴田　清司	集中講義 合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-11	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・発展研究)	芸術教育の実践研究	2	冬	客員教授	佐野　靖	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-12	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育政策事例研究Ⅰ	2	冬	教　授	大桃　敏行	
303-13	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育行政事例研究Ⅱ	2	冬	准教授	村上　祐介	
303-14	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅰ	2	冬	准教授	勝野　正章	
303-15	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育政策実地研究	2	冬	教　授	大桃　敏行	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-16	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育行政実地研究	2	冬	准教授	村上　祐介	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-17	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)	学校経営実地研究	2	冬	准教授	勝野　正章	合併科目(教職開発コース・教育内容開発コース)
303-18	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	2	夏冬	教　授	大桃　敏行	＊　隔週
303-19	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	2	夏冬	准教授	村上　祐介	＊　隔週
303-20	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	2	夏冬	准教授	勝野　正章	＊　隔週

総合教育科学専攻　基礎教育学専修　基礎教育学コース

科目番号：211-01	**担当教員**：金森　修	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育哲学基本研究			
講義題目(和文)：知識論・学問論			
講義題目(英文)：Theory of Knowledge			

授業の目標・概要：カッシーラー「認識問題」（日本語既刊、４冊）を読み解くことを中心的な課題にする。
それは、カッシーラーによるヨーロッパ認識論史の独自の俯瞰なので、この本を精緻に読解しながら、同時に認識論史の概要が把握できるようになる。
各自は、カッシーラー自体を読むだけではなく、カッシーラーが取り上げているそれぞれの思想家を独自に調査すること。
付随的にカッシーラーの主著「シンボル形式の哲学」への言及も試みる。

授業のキーワード：カッシーラー、認識論、マールブルク学派、シンボル形式

授業計画：一年かけて「認識問題」を読む。
上記の通り、「認識問題」自体の記述と、そこで取り上げられている思想家たちの独自調査を二重に行うことを参加者に課す。
出席を重視するので、出席をとる。
担当者だけではなく、各自がテクストを熟読する作業を課す。

授業の方法：最初の回（４月５日）に、授業の方法を説明する。また分担を決めるので、最初の回には必ず出席すること。
それが可能でない場合には、予めメールで連絡を取ること。
あとは、分担に従い、各自が発表する。

成績評価方法：各自の発表の質並びに、今回は出席を重視するので出席をとる。８割以上出席できない学生は履修を避けること。

教科書：カッシーラー「認識問題」1
カッシーラー「認識問題」2-1
カッシーラー「認識問題」2-2
カッシーラー「認識問題」4
いずれもみすず書房、かなり高価だが、一年を通して使用するので、各自購入すること。

参考書：カッシーラー「シンボル形式の哲学」全四巻、岩波文庫
他に適宜、授業中に指定する。

履修上の注意：４月５日には必ず出席すること。
出席を重視する。

その他：連絡は下記の e-mail を使用すること。
教科書は東京大学本郷書籍部に一定冊数置いてあるのので、そこで買い求めることができます。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-02	**担当教員**：小玉　重夫	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育人間学基本研究			
講義題目(和文)：教育思想演習			
講義題目(英文)：Seminar in Educational Thought			

授業の目標・概要：教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ（市民性）をめぐる最近の研究動向に留意する。
夏学期は、ハンナ・アレント『人間の条件』と、柄谷行人『哲学の起源』を中心的に取り上げ、哲学的思考の起源をめぐるソクラテス以前とソクラテス以後をめぐる問題圏を掘り下げることをめざす。それによって、シティズンシップ教育における哲学や思考の占める位置を再検討していきたい。また、10 月に公開予定の映画『ハンナ・アレント』のプレイベント的なものも取り入れてみたい。
論文作成のための文献リスト作成管理サーバーRefWorks の使用方法についても講習を行う予定である。

授業のキーワード：公共性, シティズンシップ, ハンナ・アレント, 哲学, 都市, 政治

授業計画：詳細は、初回の授業時に決めるが、大まかには、以下のような流れを考えている。

１　ガイダンスと自己紹介
２　哲学の起源と近代教育に関する基調報告（小玉）
３　RefWorks の使用方法についての講習
４～５　柄谷行人『哲学の起源』の検討
６～８　『哲学の起源』に関する各論者による論評、先行研究等の検討
９～１４　アレント『人間の条件』の検討と、映画公開のプレイベント
１５　全体のまとめ

授業の方法：報告と討論を中心とする。

成績評価方法：ゼミでの報告等による平常点。

教科書：アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）は、各人で用意する。それ以外の文献は、こちらで用意し、配布するようにする。

関連ホームページ：http://homepage2.nifty.com/eduscikodama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-03	**担当教員**：片山　勝茂	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育人間学基本研究

講義題目(和文)：教育人間学基本演習

講義題目(英文)：Basic Seminar in Educational Anthropology

授業の目標・概要：「ジョン・デューイの倫理学と道徳教育論」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献（教科書）を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、倫理学と道徳教育に関する問題について、（他の人々とコミュニケーションをとりながら）批判的に考える力を身につけることを目標とする。

授業のキーワード：ジョン・デューイ,倫理学,道徳教育,プラグマティズム,問題解決型の道徳授業,慣習的道徳,反省的道徳

授業計画：授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。

授業の方法：文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読を行う。日本語文献については、報告者が概要と（疑問点や討論の論点を提示する）コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。

成績評価方法：毎回提出するコメントカードとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。

教科書：John Dewey (1893) Teaching Ethics in the High School, in Jo Ann Boydston ed. (1971) The Early Works of John Dewey, 1882-1898 (Carbondale: Southern Illinois University Press), Vol.4.
John Dewey (1894) The Chaos in Moral Training, in The Early Works of John Dewey, Vol.4.
柳沼良太 (2012)『「生きる力」を育む道徳教育：デューイ教育思想の継承と発展』慶應義塾大学出版会。

参考書：Molly Cochran (2010)The Cambridge Companion to Dewey (Cambridge: Cambridge University Press).
John Dewey & James Hayden Tufts (1932) Ethics, revised edition (New York: Henry Holt & Co.) Reprinted in Jo Ann Boydston ed.(1985) The Later Works of John Dewey, 1925-1953 (Carbondale: Southern Illinois University Press), Vol.7. [Ｊ．デューイ (2002)『デューイ＝ミード著作集 10 倫理学』河村望訳、人間の科学新社。]
David Hildebrand (2008) Dewey: A Beginner's Guide (Oxford: Oneworld Publications).
See Jenifer Welchman (1995) Dewey's Ethical Thought (Ithaca: Cornell University Press).
杉浦宏編 (2003)『現代デューイ思想の再評価』世界思想社。
日本デューイ学会編 (2010)『日本のデューイ研究と 21 世紀の課題』世界思想社。
行安茂 (1988)『デューイ倫理学の形成と展開』以文社。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-04	担当教員：川本　隆史	単位数：2	学期：夏

授業科目：教育史基本研究

講義題目(和文)：西洋教育史演習Ⅰ

講義題目(英文)：Seminar in Western Educational History Ⅰ

授業の目標・概要：　西洋近代の教育の制度と思想を支えてきた、複数の価値理念（自由、平等、福祉、人格など）を思想史的および規範理論的視座から点検するとともに、″homo sum；humani nihil a me alienum puto.″という箴言を協働して実践できる演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。

現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。John Rawls, A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith: With “On My Religion”, edited by Thomas Nagel, Harvard University Press, 2009.

【参考文献】John Rawls, Über Sünde, Glaube und Religion, Mit Kommentaren von Joshua Cohen, Thomas Nagel und Robert Merrihew Adams; Mit einem Nachwort von Jürgen Habermas ; Aus dem Amerikanischen von Sebastian Schwark, Suhrkamp Verlag, 2010.

授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロコトルも担当者を決めて残すことにしたい。

なお適宜５時限に延長してゼミ第二部を実施することがあるので、留意されたい。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-05	**担当教員**：小国　喜弘	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育史基本研究

講義題目(和文)：日本教育史演習Ⅰ

講義題目(英文)：Seminar in Japanese Educational History Ⅰ

授業の目標・概要：二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究方法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は特に 1970 年代から 80 年代にかけての教育実践史を対象にする。

授業のキーワード：日本教育史,学校教育,戦後,教育学

授業計画：第一回：はじめに（教育史研究の目的と方法）

第二回：実践史研究の方法に関する事例紹介（『戦後教育のなかの＜国民＞』）

第三回：総論（１９７０年代日本に関する全体像）

＜共通文献講読＞（修士課程の院生を中心とする発表）

第四回：教育史が描く１９７０年代

第五回：歴史学が描く１９７０年代

第六回：社会学が描く１９７０年代

第七回：経済学が描く１９７０年代

＜個別事例の報告＞（博士課程の院生を中心とする発表：受講者の興味に応じてテーマは組み替える。一案として以下に示す。各人が希望のテーマを立て、そのテーマに即した具体的実践事例についての報告が望ましい）

第九回：前史としての高校紛争と学習権

第十回：脱学校論と教育現場

第十一回：教育工学の展開

第十二回：心理学言説の浸透と実践の変容

第十三回：権利保障と教育（夜間中学など）

第十四回：教科教育学の挑戦と挫折

第十五回：民間教育史料研究会が教育史研究を通して目指したこと

授業の方法：予め指定した文献について各人の発表とそれに基づく集団討論を行う。

成績評価方法：個別の発表によって評価する。

３分の２以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。

教科書：適宜指示する。

参考書：適宜指示する。

履修上の注意：初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-06	**担当教員**：田中　智志	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育臨床学基本研究

講義題目(和文)：教育臨床学基本演習

講義題目(英文)：Basic Seminar in Clinical Approach to Education

授業の目標・概要：この授業の到達目標は、現代教育を規定している諸概念について、国際比較の見地や思想史の知見を踏まえつつ、教育臨床学的な考察を行うことである。教育臨床学は、人間一人ひとりのかけがえのない「一つの生」に応答することを教育の基本様態と位置づけつつ、存在論的な深みから、ひとがよりよく生きる方途としての教育を構想する試みである。教育を国家・社会を発展させる手段として位置づけることは、19 世紀以来、先進諸国の基本的な教育についての考え方だったが、かけがえのない一つの生に応答することを旨としつつ、よりよい教育を構想しようとするとき、教育を単純に国家・社会を発展させる手段と位置づけることは困難である。国家・社会の発展と人がよりよく生きることはかならずしも一致しないからである。この授業では、教育臨床学の基礎概念を国際的にまた歴史的に確認することで、よりよく生きるための教育の基礎づくりを試みる。

授業のキーワード：臨床哲学, 自己創出, 関係性, 存在論, 有用性, ハイデガー, デリダ, フーコー, ルーマン, ナンシー, 機能性, 有用性, 機能的分化, 位階的分化, リキッド化, 構造, 支配, かけがえのなさ, 固有性, 希望, 信頼, 倫理, 道徳, 自律, 協同, 存在論, 自己, 言語, 他者, 歓待, 愛, 愛他, 利他

授業計画：第１回　授業の概要（教育臨床学）
第２回　教育の臨床哲学
第３回　自律性と自己創出
第４回　ルーマンの自己創出論と教育
第５回　主体性と固有性
第６回　デリダの固有性論と教育
第７回　関係と関係性
第８回　デューイの社会性論と教育
第９回　近代社会と道徳性概念
第１０回　マルセルの存在論と教育
第１１回　道徳規範と倫理感覚
第１２回　フーコーの関係性論と教育
第１３回　リキッド化と有用性
第１４回　リキッド化論と教育
第１５回　授業のまとめと最終レポート

授業の方法：教育臨床学の基本的な方法は、私たちがよりよく生きるために、そしてよりよい教育を構想するために、私たち自身の思考様式を批判的に考察することである。そのために、現代社会における主要な教育概念を取りあげ、その前提命題を問い直しつつ、その機能・逆機能を把握する。授業は基本的に演習形態である。

成績評価方法：評価は平常点、小レポート点、最終レポート点の合計によって決定する。
1　毎回、出席状況を確認する。
2　毎回、小レポートを課す。評価の 40%に相当する。
3　学期末の授業最終日に最終レポートを課す。評価の 60%に相当する。

教科書：授業の初回に指示する。

参考書：授業中に指示する。また適宜、追加する。

履修上の注意：履修者は、教科書や参考書を適宜読み込み、報告・議論の準備をしてください。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-07	**担当教員**：金森　修	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育哲学特殊研究

講義題目(和文)：知識論・学問論演習

講義題目(英文)：Seminar in Theory of Knowledge

授業の目標・概要：カッシーラー「認識問題」（日本語既刊、４冊）を読み解くことを中心的な課題にする。
それは、カッシーラーによるヨーロッパ認識論史の独自の俯瞰なので、この本を精緻に読解しながら、同時に認識論史の概要が把握できるようになる。
各自は、カッシーラー自体を読むだけではなく、カッシーラーが取り上げているそれぞれの思想家を独自に調査すること。
付随的にカッシーラーの主著「シンボル形式の哲学」への言及も試みる。

授業のキーワード：カッシーラー、認識論、マールブルク学派、シンボル形式

授業計画：一年かけて「認識問題」を読む。
上記の通り、「認識問題」自体の記述と、そこで取り上げられている思想家たちの独自調査を二重に行うことを参加者に課す。
出席を重視するので、出席をとる。
担当者だけではなく、各自がテクストを熟読する作業を課す。

授業の方法：最初の回（４月５日）に、授業の方法を説明する。また分担を決めるので、最初の回には必ず酒席すること。
それが可能でない場合には、予めメールで連絡を取ること。
あとは、分担に従い、各自が発表する。

成績評価方法：各自の発表の質並びに、今回は出席を重視するので出席をとる。８割以上出席できない学生は履修を避けること。

教科書：カッシーラー「認識問題」1
カッシーラー「認識問題」2-1
カッシーラー「認識問題」2-2
カッシーラー「認識問題」4
いずれもみすず書房、かなり高価だが、一年を通して使用するので、各自購入すること。

参考書：カッシーラー「シンボル形式の哲学」全四巻、岩波文庫
他に適宜、授業中に指定する。

履修上の注意：４月５日には必ず出席すること。
出席を重視する。

その他：連絡は下記の e-mail を使用すること。
教科書は東京大学本郷書籍部に一定冊数置いてあるのので、そこで買い求めることができます

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-08	**担当教員**：山名　淳	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育哲学特殊研究

講義題目(和文)：教育的＜囲い＞の思想－システム理論的教育学の視点を中心に

講義題目(英文)：Thougt on Educational ″Fence″：From the Perspective of Systemtheory

授業の目標・概要：本講義においては、＜保護の防護柵＞をキーワードにして関連するテクストを読み解き、同時に具体的な考察対象（絵本、学校、ミュージアム、教師など）に言及しつつ、教育や人間形成をめぐる思想史の視点としての＜囲い＞を再検討する。理論的には、ニクラス・ルーマンのシステム理論を基盤とした教育思想史の可能性がどこにあるかを考察することを含む。

授業のキーワード：保護の防護柵, 暴力（ゲヴァルト）, 自律性, システム理論, 学校, 絵本, ミュージアム

授業計画：第１、２回　問題の所在－－保護と人間形成

第３、４回　システム理論と教育学

第５、６回　保護－－教育との関わりにおける再定義

第７、８回　ゲヴァルトを排除する営みとしての教育

第９、１０、１２回　ゲヴァルトを生み出す営みとしての教育

第１３、１４回　ゲヴァルトと折り合う営みとしての教育

第１５回　本授業のまとめ

授業の方法：【事前学習について】選定した教科書を授業が始まるまでに一読し、その概要（とくに「暴力」「文明化」などのキーワード）を押さえておくことが望ましい。

【授業時について】授業では、授業担当者によるレクチャー、関連テクストの読解、関連視聴覚教材の提示、ディスカッション、ミニッツペーパー（各テーマに対する感想文）の作成などによって構成される。教科書以外の関連テクストについては授業時に指示する。

成績評価方法：期末レポート（50%）と平常点（50%）の総合評価とする。平常点では、ミニッツペーパーの内容、そして議論における関与の度合いおよび貢献度を重視する。

教科書：山名淳『「もじゃペー」から＜しつけ＞を学ぶ－－日常の「文明化」という悩みごと』東京学芸大学出版会、2012 年

参考書：田中智志／山名淳『教育人間論のルーマン』勁草書房、2006 年

ルーマン，Ｎ．　村上淳一訳『社会の教育システム』東京大学出版会、2004 年

その他、適宜授業中に指示する。

履修上の注意：とくになし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-09	**担当教員**：小玉　重夫	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育人間学特殊研究

講義題目(和文)：教育政治学演習

講義題目(英文)：Seminar in Politics of Education

授業の目標・概要：教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ（市民性）をめぐる最近の研究動向に留意する。
冬学期は、シティズンシップ教育の可能性とその条件ついて、政治的判断力や政治的リテラシーとの関連を視野に入れて検討してみたい。具体的にはラクラウとムフの『民主主義の革命』やランシエールの「政治についての10のテーゼ」などを検討しながら、政治における対立や不合意、異質なもの同士の共存といった緒問題を考えていく。

授業のキーワード：公共性, シティズンシップ, 政治的リテラシー, 民主主義

授業計画：詳細は、初回の授業時に決めるが、大まかには以下のような流れを考えている。

１　ガイダンスと自己紹介

２　「シティズンシップと教育」に関する基調報告：近年の学会動向（教育哲学会、CitiZED「シティズンシップ教育」国際会議、「日本スポーツとジェンダー学会」など）をふまえて（小玉）

３～５　ランシエール「政治についての10のテーゼ」、およびそれをめぐる諸議論の検討

６～10　ラクラウ、ムフ『民主主義の革命』の検討

11～14　政治的リテラシーと民主主義に関する関連諸文献の検討

15　全体のまとめ

授業の方法：報告と討論を中心とする。

成績評価方法：ゼミでの報告等による平常点。

教科書：ラクラウとムフの『民主主義の革命』（ちくま学芸文庫）は各人で用意する。それ以外の使用文献は、こちらで用意して参加者に配布の予定。

関連ホームページ：http://homepage2.nifty.com/eduscikodama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-10	**担当教員**：片山　勝茂	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育人間学特殊研究

講義題目(和文)：教育人間学特殊研究

講義題目(英文)：Seminar in Educational Anthropology

授業の目標・概要：「教育人間学基本演習」に引き続き、「ジョン・デューイの倫理学と道徳教育論」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献（教科書）を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、倫理学と道徳教育に関する問題について、（他の人々とコミュニケーションをとりながら）批判的に考える力を身につけることを目標とする。

授業のキーワード：ジョン・デューイ,倫理学,道徳教育,プラグマティズム,問題解決型の道徳授業,慣習的道徳,反省的道徳

授業計画：授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。

授業の方法：文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読を行う。日本語文献については、報告者が概要と（疑問点や討論の論点を提示する）コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。

成績評価方法：毎回提出するコメントカードとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。

教科書：John Dewey (1893) Self-Realization as the Moral Ideal, in Jo Ann Boydston ed. (1971) The Early Works of John Dewey, 1882-1898 (Carbondale: Southern Illinois University Press), Vol.4.
John Dewey (1909) Moral Principles in Education, in Jo Ann Boydston ed. (1977) The Middle Works of John Dewey, 1899-1924 (Carbondale: Southern Illinois University Press), Vol.4.
Ｊ．デューイ (2002)『デューイ＝ミード著作集 10 倫理学』河村望訳、人間の科学新社。

参考書：Molly Cochran (2010)The Cambridge Companion to Dewey (Cambridge: Cambridge University Press).
John Dewey & James Hayden Tufts (1932) Ethics, revised edition (New York: Henry Holt & Co.) Reprinted in Jo Ann Boydston ed.(1985) The Later Works of John Dewey, 1925-1953 (Carbondale: Southern Illinois University Press), Vol.7. [Ｊ．デューイ (2002)『デューイ＝ミード著作集 10 倫理学』河村望訳、人間の科学新社。]
David Hildebrand (2008) Dewey: A Beginner's Guide (Oxford: Oneworld Publications).
See Jenifer Welchman (1995) Dewey's Ethical Thought (Ithaca: Cornell University Press).
杉浦宏編 (2003)『現代デューイ思想の再評価』世界思想社。
日本デューイ学会編 (2010)『日本のデューイ研究と 21 世紀の課題』世界思想社。
柳沼良太 (2012)『「生きる力」を育む道徳教育：デューイ教育思想の継承と発展』慶應義塾大学出版会。
行安茂 (1988)『デューイ倫理学の形成と展開』以文社。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-11	担当教員：川本　隆史	単位数：2	学期：冬
授業科目：教育史特殊研究			
講義題目(和文)：西洋教育史演習Ⅱ			
講義題目(英文)：Seminar in Western Educational History Ⅱ			

授業の目標・概要：西洋近代の教育の制度と思想を支えてきた、複数の価値理念（自由、平等、福祉、人格など）を思想史的および規範理論的視座から点検するとともに、″homo sum；humani nihil a me alienum puto.″という箴言を協働して実践できる演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。

現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。John Rawls, A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith: With “On My Religion”, edited by Thomas Nagel, Harvard University Press, 2009.

【参考文献】John Rawls, Über Sünde, Glaube und Religion, Mit Kommentaren von Joshua Cohen, Thomas Nagel und Robert Merrihew Adams; Mit einem Nachwort von Jürgen Habermas；Aus dem Amerikanischen von Sebastian Schwark, Suhrkamp Verlag, 2010.

授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロコトルも担当者を決めて残すことにしたい。

なお適宜５時限に延長してゼミ第二部を実施することがあるので、留意されたい。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-12	担当教員：小国　喜弘	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育史特殊研究

講義題目(和文)：日本教育史演習Ⅱ

講義題目(英文)：Seminar in Japanese Educational History Ⅱ

授業の目標・概要：二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究方法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。前期に引き続き、1970 年代から 80 年代にかけての教育実践史を対象にする。後期は具体的な事例についての個人発表を中心とする。

授業のキーワード：日本教育史,学校教育,戦後,教育学

授業計画：各自の問題関心に即した開講となるが、受講者とイメージを共有するために、現在、分析候補となる対象事例に即して、以下に展開例を示したい。

第一回：オリエンテーション

＜ナショナリズムの再編と「地域」＞

第二回：沖縄復帰闘争と社会科

第三回：地域に根ざす教育運動（例　渋谷忠男）

第四回：住民運動の展開と学校教育（例　若狭蔵之助）

第五回：部落解放教育の再編成

第六回：公民館運動と公害問題

＜混迷する学校問題をめぐって＞

第七回：高校紛争と「学習権宣言」

第八回：少年非行（例　若林繁夫）

第九回：不登校（例　「不就学人間権宣言」）

第十回：林竹二の問題提起

第十一回：斎藤喜博と武田常夫

＜1980 年代へ＞

第十二回：「学力の基礎をきたえ落ちこぼれをなくす研究会」が提起したこと

第十三回：脱学校論が提起したこと

第十四回：自由の森学園の挑戦

第十五回：まとめ

授業の方法：予め指定した文献について各人の発表とそれに基づく集団討論を行う。

成績評価方法：個別の発表によって評価する。

３分の２以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。

教科書：適宜指示する。

参考書：適宜指示する。

履修上の注意：初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。

前期受講者の参加が望ましい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-13	**担当教員**：田中　智志	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育臨床学特殊研究

講義題目(和文)：教育臨床学演習

講義題目(英文)：Seminar in Clinical Approach to Education

授業の目標・概要：この授業の到達目標は、具体的な事例を分析しながら教育臨床学の基礎概念（コア概念）を理解し、教育実践を存在論的な深みからとらえる方途（考え方）を学ぶことである。それは、第一に、子どもたちがよりよく生きるための必要条件として、探究（「わかろうとする努力」）としての学び、希望（「敢然への意志」）としての肯定性、関係性（「支えあうかかわり」）としての存在を確認することであり、第二に、それらの必要条件の生成を妨げているものを析出することである。そうした妨げとしては、日々の人間関係の荒れや齟齬、生育環境の荒みや貧困、社会構造全体の有用性への指向性や位階性への執着など、ミクロからマクロにいたるさまざまな情況が考えられる。

授業のキーワード：意味, 自己物語, 欲望, 希望, 予想, 理解, 洞察, 表象, 体験, 記号, 象徴, 探究, 自律性, 関係性, 機能, 一般的な生, 一つの生, 個体性, 存在論, 現象学, ハイデガー, デリダ, マルセル, マリオン, パウロ, ナンシー

授業計画：第１回　授業の概要（探究としての学び、希望としての肯定性、関係性としての存在）
第２回　教育臨床学の基礎カテゴリー――探究／希望／関係性
第３回　意味と物語　Ⅰ（自己物語と意味）
第４回　意味と物語　Ⅱ（欲望と希望）
第５回　表象と全体　Ⅰ（理解と洞察）
第６回　表象と全体　Ⅱ（表象と体験）
第７回　探究と文脈　Ⅰ（記号と象徴）
第８回　探究と文脈　Ⅱ（機能と存在）
第９回　一つの命と関係性　Ⅰ（一般的な生と一つの生）
第１０回　一つの命と関係性　Ⅱ（一つの命と関係性）
第１１回　自律性と関係性　Ⅰ（個体性と存在論的関係性）
第１２回　自律性と関係性　Ⅱ（自律性と存在論的関係性）
第１３回　希望と関係性　Ⅰ（希望と予想）
第１４回　希望と関係性　Ⅱ（希望と肯定性）
第１５回　授業のまとめと最終レポート

授業の方法：この授業では、上述の主要なテーマについて順次、取りあげ、教育臨床学の基礎概念（コア概念）について理解を深めていく（授業計画を参照）。授業は基本的に演習形態である。前半はテーマについての授業者の解説であり、後半は受講者による報告・討論である。

成績評価方法：評価は発言内容、最終レポート点の合計によって決定する。
1　毎回、発言内容を確認する。評価の 40%に相当する。
2　学期末の授業最終日に最終レポートを課す。評価の 60%に相当する。

教科書：　授業の初回に配布する文献リストによって指示する。

参考書：　適宜、紹介する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：211-14	**担当教員**：川本　隆史、金森　修、小玉　重夫、田中　智志、小国　喜弘、片山　勝茂	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：基礎教育学特殊研究			
講義題目(和文)：基礎教育学総合演習			
講義題目(英文)：Colloquium in Basic Theories of Education			
授業の目標・概要：基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。 とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。 **授業のキーワード**：教育哲学、教育人間学、教育史、教育臨床学 **授業計画**：それぞれの回の担当者は早めに決めて、充分な準備をしてもらう。そして当日、それぞれのコース内容に従った特定の研究対象について、系統的なプレゼンテーションをしてもらう。その後、教官全員、ならびに当日の参加者との間で質疑応答をする。 一年を通して、取り上げるのが特定のコースに集中しないように、適宜バランスをとる事に配慮する。 **授業の方法**：研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。		

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-15	**担当教員**：金森　修	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育哲学論文指導			
講義題目(和文)：知識論・学問論論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Theory of Knowledge			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。 **授業の方法**：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。		

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-16	**担当教員**：今井　康雄	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育哲学論文指導

講義題目(和文)：教育哲学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Philosophy of Education

授業の目標・概要：研究テーマの設定、先行研究の調べ方、引用の方法など、教育哲学論文の作成方法について指導する。

授業のキーワード：研究倫理,研究テーマ,先行研究,リサーチ・クエッション,アブストラクト,アウトライン,論証,引用,反対意見,まとめ,参考文献,投稿,査読,リライト

授業計画：１．研究倫理について
２．論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』
３．研究テーマの設定
４．先行研究の調べ方と検討方法
５．リサーチ・クエッションの立て方
６．アブストラクトに書くべきこと
７．アウトラインの作成
８．論証の妥当性
９．テキストの読み込み
１０．引用の方法
１１．反対意見の検討
１２．まとめの書き方
１３．参考文献の書き方
１４．投稿雑誌の選び方
１５．査読とリライトのプロセス

授業の方法：参加者の発表と討論によって行う。

成績評価方法：発表と討論への参加者の貢献によって評価する。

教科書：東京大学大学院教育学研究科学務委員会（2010)『信頼される論文を書くために』

参考書：授業時間中に提示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-17	**担当教員**：小玉　重夫	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育人間学論文指導

講義題目(和文)：教育思想論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Thought

授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。

なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。

授業のキーワード：研究倫理,研究テーマ,先行研究,リサーチ・クエッション,アブストラクト,アウトライン,論証,引用,反対意見,まとめ,参考文献,投稿,査読,リライト

授業計画：１．研究倫理について

２．論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』

３．研究テーマの設定

４．先行研究の調べ方と検討方法

５．リサーチ・クエッションの立て方

６．アブストラクトに書くべきこと

７．アウトラインの作成

８．論証の妥当性

９．テキストの読み込み

１０．引用の方法

１１．反対意見の検討

１２．まとめの書き方

１３．参考文献の書き方

１４．投稿雑誌の選び方

１５．査読とリライトのプロセス

授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

教科書：東京大学大学院教育学研究科学務委員会（2010）『信頼される論文を書くために』

参考書：授業時間中に提示する。

関連ホームページ：http://homepage2.nifty.com/eduscikodama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-18	**担当教員**：片山　勝茂	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育人間学論文指導

講義題目(和文)：教育人間学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Anthropology

授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。

なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。

授業のキーワード：研究倫理,研究テーマ,先行研究,リサーチ・クエッション,アブストラクト,アウトライン,論証,引用,反対意見,まとめ,参考文献,投稿,査読,リライト

授業計画：１．研究倫理について

２．論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』

３．研究テーマの設定

４．先行研究の調べ方と検討方法

５．リサーチ・クエッションの立て方

６．アブストラクトに書くべきこと

７．アウトラインの作成

８．論証の妥当性

９．テキストの読み込み

１０．引用の方法

１１．反対意見の検討

１２．まとめの書き方

１３．参考文献の書き方

１４．投稿雑誌の選び方

１５．査読とリライトのプロセス

授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

教科書：東京大学大学院教育学研究科学務委員会（2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』

参考書：授業時間中に提示する。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-19	**担当教員**：川本　隆史	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育史論文指導			
講義題目(和文)：西洋教育史論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Western Educational History			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。 "QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO" **授業の方法**：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-20	**担当教員**：小国　喜弘	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育史論文指導			
講義題目(和文)：日本教育史論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Japanese Educational History			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。 **授業のキーワード**:研究倫理,研究テーマ,先行研究,リサーチ・クエッション,アブストラクト,アウトライン,論証,引用,反対意見,まとめ,参考文献,投稿,査読,リライト **授業計画**：１．研究倫理について ２．論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 ３．研究テーマの設定 ４．先行研究の調べ方と検討方法 ５．リサーチ・クエッションの立て方 ６．アブストラクトに書くべきこと ７．アウトラインの作成 ８．論証の妥当性 ９．テキストの読み込み １０．引用の方法 １１．反対意見の検討 １２．まとめの書き方 １３．参考文献の書き方 １４．投稿雑誌の選び方 １５．査読とリライトのプロセス **授業の方法**：グループでの指導を前提とし、適宜、必要に応じて個別指導をする。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：211-21	**担当教員**：田中　智志	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育臨床学論文指導

講義題目(和文)：教育臨床学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Approach to Education

授業の目標・概要：基礎教育学コース（教育臨床学領域）の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

授業のキーワード：存在論, 関係性, 固有性, 臨床哲学, 現象学, ハイデガー, デリダ, ルーマン, フーコー, ナンシー, マルセル, 社会関係, 機能性, 有用性, 機能的分化, 位階的分化, 構造, 支配, かけがえのなさ, 固有性, 希望, 信頼, 倫理, 道徳, 自律, 協同, 自己, 言語, 他者, 歓待, 愛, 愛他, 利他

授業計画：履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、充分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第１回　論文指導オリエンテーション　第２回　論文作成における留意点　第３回　論文作成のためのガイドライン　第４回　論文作成のための主題選択（個別指導）１　第５回　論文作成のための主題選択（個別指導）２　第６回　論文作成の方法（個別指導）１　第７回　論文作成の方法（個別指導）２　第８回　個別の報告・全体の指導１　第９回　個別の報告・全体の指導２　第１０回　個別の報告・全体の指導３　第１１回　個別の報告・全体の指導４　第１２回　中間報告　第１３回　直前指導１　第１４回　直前指導２　第１５回　論文指導のまとめ

授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

教科書：必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。

参考書：必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　比較教育社会学コース

科目番号：212-01	**担当教員**：恒吉　僚子	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：比較教育学基本研究

講義題目(和文)：質的方法論研究Ⅰ

講義題目(英文)：Qualitative Research Methods Ⅰ

授業の目標・概要：質的方法の特徴、有効性、量的方法との違いや相互補完性、質的方法のいくつかの主要系譜の特徴（例　エスノグラフィー、ライフヒストリー、グラウンデッド・セオリー、質的事例研究）を理解した上で、質的方法の中でも、フィールド・ノーツの作成とコーディングの過程に焦点を当て、それを、実際に観察を行ないながら実地で学んでいく。リサーチ・クエスチョンの設定と質的方法の特性を生かした用い方がどのようなものなのか、どのような課題があり、どのような長所があるのか、また、基本的な方法として、どのような点に注意していけばいいのかを、理解することを目指す。

授業のキーワード：質的研究方法,フィールドノーツ,フィールドワーク,インタビュー,参与観察

授業計画：第一回目に講義内容を説明する。

授業計画

１．質的方法の特徴をつかむ（量的方法との相違等）特徴、目的、長所、短所、主要な系譜

Chapter 1. Foundations of Qualitative Research in Education, Qualitative Research in Education

第一章「質的方法論を考える」『教育研究のメソドロジー』恒吉・秋田・佐藤

２．質的方法の主要な系譜の特徴を理解する（エスのグラフィー、質的事例調査等）

３．いくつかの異なるタイプの質的調査、量的調査を比較して１，２の理解を深める

Whyte, W.F. (1955) Street Corner Society, Willis, P. (1977) Learning to Labor などのいくつかの古典を、質的方法の特徴をつかむ視点から比較（講義）

４．事例研究の考察、サンプリング

Chapter 2. Research Design, Qualitative Research in Education, pp. 54-63

５．ライフヒストリーを考察

「ライフヒストリー」『教育研究のメソドロジー』山田洋子

６．理論の役割を考察

Chapter 2. Research Design, Qualitative Research in Education, pp. 63-69　計画書提出

７．フィールド・ノーツの作成

佐藤郁哉『フィールド・ワークの技法』

Chapter 4. Qualitative Data, Qualitative Research in Education

８．学校ビデオを用いてのフィールド・ノーツの作成と分析　（グループ討論の活用）

９．いくつかの観察サイトでの観察、フィールド・ノーツの作成　　考察　　フィールド・ノーツの情報量、観察者の立場等の諸課題の議論

10. 同じサイトで二回目のフィールド・ノーツの作成　再分析（グループ討論の活用）

11. 同じサイトで三回目のフィールド・ノーツの作成　再分析（グループ討論の活用）

12. コーディング

Chapter 5. Data Analysis, Qualitative Research in Education

13. コードからデータの分析、相互関係のチャート化

14. データ分析（続）　分析の筋を引き出す

15. 質的データと論文作成

授業の方法：講義、学校などの観察現場での観察とノーツをとる実地訓練、グループでの討論とクラス全体での発表討論を組み合わせた形式になる。演習形式のため、毎回の出席と課題提出を含めた作業・練習をこなすことが前提となっている。

成績評価方法：１．フィールド・ノーツの提出、２．研究計画の提出、３．講義への参加度、４．コードから引き出した分析のレポート

教科書:R.Bogdan and S.K. Biklen (1998) Qualitative Research for Education, Allyn　and Bacon, J.Creswell, Qualitative Inquiry and Research Design, Sage.

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー』東京大学出版協会。

佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社。

参考書：リーディングスはコピーを用意する。随時指定。

履修上の注意：質的方法論研究ＩＩと合わせて受講すること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：212-02	**担当教員**：中村　高康	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：比較教育システム論基本研究

講義題目(和文)：教育社会学方法論研究

講義題目(英文)：Research Methods in Sociology of Education

授業の目標・概要：教育社会学においてよく用いられる多変量解析の手法を複数取り上げ、

1) 当該手法の統計的知識の学習

2) 当該手法を用いた実際の研究論文の講読

3) 2) で取り上げた文献の解析結果の再現実習

といったステップを踏むことにより、多変量解析が実際に「使える」ようになることを目指すと同時に、こうした多変量解析を用いた論文の内容に関する議論も行うことで、統計的な知識の獲得に限定されない総合的な方法論的基礎を獲得することを目指す。

特に今年度は階層線形モデル（マルチレベルモデル）について詳しく学習してみたい。

授業のキーワード：

授業計画：1　イントロダクション

2　重回帰分析の学習

3　重回帰分析を使った教育社会学研究事例の検討

4　重回帰分析のデータ再現実習

5　階層線形モデルの学習 1

6　階層線形モデルの学習 2

7　階層線形モデルの学習 3

8　階層線形モデルを使った教育社会学研究事例の検討 1

9　階層線形モデルを使った教育社会学研究事例の検討 2

10　階層線形モデルのデータ再現実習

11　階層線形モデルの分析発表実習

12　パネルデータ分析の学習

13　パネルデータ分析を使った教育社会学研究事例の検討

14　パネルデータ分析のデータ再現実習

15　まとめ

なお、内容については受講者の状況に応じて柔軟に対応する予定である。

授業の方法：講義,演習,実習

成績評価方法：平常点,提出物(論文・レポートなど)

参考書：ボーンシュテット＆ノーキ『社会統計学』ハーベスト社 1990

安藤正人『マルチレベルモデル入門』ナカニシヤ出版 2011

履修上の注意：受講者とともに学習していく方式であり、詳細かつ正確な統計学的理解を得るための授業ではない点に注意が必要。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-03	**担当教員**：中村　高康	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：比較教育システム論特殊研究			
講義題目(和文)：教育と選抜の諸問題			
講義題目(英文)：Issues in Education and Selection			
授業の目標・概要：教育と選抜に関わる諸問題を理解するうえで重要な基本的文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。今年度は特に、「能力主義」ないし「能力」に関する諸文献を取り上げる。 **授業の方法**：毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。 **成績評価方法**：授業参加度＋最終レポートで評価する。 **参考書**：Young,M. 1958. The rise of the meritocracy.Thames and Hudson. Dench G. 2006. The rise and rise of meritocracy. Blackwell. 竹内洋　1995.『日本のメリトクラシー』東京大学出版会 中村高康　2011.『大衆化とメリトクラシー』東京大学出版会			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-04	**担当教員**：橋本　鉱市	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：高等教育論基本研究

講義題目(和文)：高等教育の社会学Ⅰ

講義題目(英文)：Sociology of Higher Education Ⅰ

授業の目標・概要：　近代大学の誕生から産業化・知識社会化に伴う発展、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育の制度・組織・構成員・アクセスなどの変容と課題を中心に、国内外の社会学的な理論・分析アプローチを学習する。

授業のキーワード：学問体系,アクセスの格差,アカデミック・プロフェッション,カレッジ・インパクト研究,(新)制度論,組織論

授業計画：テキストを批判的に検討し、ディスカッションする形で進める。

第１回：イントロダクション：高等教育研究の概要
第２回：学問体系（ディシプリン）と大学１
第３回：学問体系（ディシプリン）と大学２
第４回：大学の組織論１
第５回：大学の組織論２
第６回：大学の制度論１
第７回：大学の制度論２
第８回：アカデミック・プロフェッション１
第９回：アカデミック・プロフェッション２
第 10 回：アクセスの格差１
第 11 回：アクセスの格差２
第 12 回：アクセスの格差３
第 13 回：カレッジ・インパクト研究１
第 14 回：カレッジ・インパクト研究２
第 15 回：総括討論

授業の方法：毎回、テキストの内容紹介とレビューを各一人ずつ担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。

成績評価方法：テキストレポート（１～２回程度、40%)、討論への参加度（20%)、期末レポート（40%)

教科書：バートン・クラーク（有本章訳）1983=1994『高等教育システムー大学組織の比較社会学』東信堂
Gumport,P. ed., 2007. Sociology of Higher Education, The Johns Hopkins University.
ガイ・ピータース 2007『新制度論』芦書房

履修上の注意：教育社会学的なアプローチならびに高等教育に関する制度、歴史、政策について基本的な知識を有していること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-05	**担当教員**：橋本　鉱市	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：高等教育論特殊研究

講義題目(和文)：高等教育の社会学Ⅱ

講義題目(英文)：Sociology of Higher Education Ⅱ

授業の目標・概要：高等教育研究の分析対象とその社会学的な分析手法を広く概観しかつ深く洞察することで、研究のフロンティアを開拓し、またそれらの実証的な分析を試みる際の論点・イシューの発掘を手助けする。「制度・組織」、「学士課程教育」、「学生生活・文化」など 14 領域を中心とする変容と課題をとりあげ、それらに関する国内外の社会学的な理論・分析アプローチを学習し、調査研究・論文執筆の技法を習得する。また、その研究内容のプレゼンテーションなどにおいても、説得的な方法を学ぶ。

授業のキーワード：高等教育,アカデミック・プロフェッション,カレッジ・インパクト研究,学生論,大学教授職,職員論

授業計画：第 1 回　イントロダクション：高等教育研究の最前線
第 2 回　制度・組織
第 3 回　学士課程教育
第 4 回　学生生活・文化
第 5 回　大学院教育
第 6 回　キャリア・就職
第 7 回　専門（職）教育
第 8 回　管理・運営
第 9 回　財政・財務
第 10 回　授業分析・開発
第 11 回　評価・点検
第 12 回　地域・産学連携
第 13 回　高大接続・入試
第 14 回　グローバル化
第 15 回　研究者・FD

授業の方法：各回とも、上記の高等教育各領域における代表的な論文を選択し、それを各自がレビューならびにコメントし、全体でディスカッションする。受講生は、その討論を通して、自らの関心に従ってレポートを作成する。

成績評価方法：テキストレポート（40%）、　討論への参加度（20%）、　期末レポート（40%）

教科書：リーディングスはコピーを用意する。随時指定。

履修上の注意：教育社会学的なアプローチならびに高等教育に関する制度、歴史、政策について基本的な知識を有していること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-06	**担当教員**：本田　由紀	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育社会学基本研究			
講義題目(和文)：現代日本社会における教育・仕事・家族			
講義題目(英文)：Education, Work and Family in the Present Japanese Society			

授業の目標・概要：日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取るとともに現実の中で活動している方々に接することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれへの対策について認識を深める。

一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。

授業のキーワード：教育　仕事　家族　若者　能力

授業計画：授業計画

第１回：オリエンテーションおよび概論

第２回～１３回：テキスト購読・議論およびゲストによるプレゼンテーションと討論

第１４回：期末レポート構想発表

第１５回：全体の振り返り

授業の方法：文献を講読する授業と、多様なゲスト（NPO や研究者、コンサルタントなど）を招いて議論をする授業とを組み合わせることにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。

授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。

成績評価方法：授業時に提出する講読票およびコメントシートと、期末レポートを７：３の比率で評価する。

教科書：テキストは初回の授業で指示する。

参考書：本田由紀『「家庭教育」の隘路』勁草書房、2008 年

本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009 年

履修上の注意：現代の親子関係、家庭教育、女性の就労、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-07	**担当教員**：本田　由紀	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育社会学特殊研究

講義題目(和文)：教育社会学の研究課題

講義題目(英文)：Research Issues in the Sociology of Education

授業の目標・概要：教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。

授業のキーワード：格差　排除　政治　権力　経済　市場

授業計画：第１回：オリエンテーション

第２回～第５回：格差・排除と教育

第６回～第９回：政治・権力と教育

第１０回～第１３回：経済・市場と教育

第１４回・第１５回：レポート発表

授業の方法：各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。

成績評価方法：毎回の授業において出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する。また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票：期末レポート＝7：3 の比で評価する。

教科書：各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。

参考書：P.ブラウン・H.ローダー・A.H.ハルゼー・J-A.ディラボー編、広田照幸・吉田文・本田由紀他訳『グローバル化・社会変動と教育 1: 市場と労働の教育社会学』東京大学出版会

P.ブラウン・H.ローダー・A.H.ハルゼー・J-A.ディラボー編、苅谷剛彦・志水宏吉・小玉重夫他訳『グローバル化・社会変動と教育 2: 文化と不平等の教育社会学』東京大学出版会

履修上の注意：学部において「教育社会学概論」および「教育社会学理論演習」を事前に履修していることが望ましいが、他大学からの大学院進学者でも受講できる。

欧米を中心とした教育社会学の先端的イシューと研究方法を知ることができる授業であるため、教育社会学分野で研究を進めようとする者はもちろん、教育学および社会科学全般に従事する者および教育現場・教育行政に関わる者にとって有益な知識を得ることができる。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-08	**担当教員**：佐藤　香	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育社会学特殊研究

講義題目(和文)：教育社会の計量分析

講義題目(英文)：Quantitative Analyses of Educational Society

授業の目標・概要：既存の社会調査データを比較検討したうえで、実際に調査を企画・設計して実施し、データ分析をおこなうことを通じて、社会調査に関する実践的な知識・技術を習得することを目的とする。講義では、各自の興味･関心にもとづいて調査テーマを決め、それと関連した既存調査データを検討して、調査票の設計、母集団やサンプリング、面接調査か郵送調査かといった調査法など、適切な方法を選んで調査を企画する。調査実施後、調査票の点検・ナンバリング等のエディティング、入力・クリーニングをおこない、さらにデータ分析にもとづく論文を執筆することで、知識・技術を身につけていく。

授業のキーワード：社会調査,調査データ,計量分析

授業計画：1 社会調査の方法　入手可能な既存の社会調査データを紹介し､そのうちの典型的な調査について､どのような調査方法をもちいているかを確認することで、社会調査方法論について実践的に学習する

2 社会調査データの構造と変数　既存調査の調査票とデータセットを検討し、質問項目の背後にある仮説および変数の種類（名義・順序・間隔・比率）について学習し、属性項目の度数分布からサンプリングの偏りなどを検討する

3 調査の企画(1)　各自の問題関心に合わせて調査テーマを決定し､それにもとづく調査計画を企画する。母集団の選定、サンプリング、調査方法を選定する

4 調査の企画(2)　調査仮説にもとづいて、目的変数・説明変数・統制変数を決定し、それぞれの尺度を選択する

5 調査票の設計　既存調査の質問項目を参考にしつつ、調査仮説を踏まえた質問項目を設計し、質問紙全体の構造化をおこない、ワーディングについて学習し、調査票を確定する

6 調査実施の準備　調査スケジュールを確定し、関係機関へのサンプリング依頼状、サンプリング方法の検討、調査対象者本人への調査依頼状などを調査倫理をふまえて作成する

7 調査の実施　各自の分担を決め、調査を実施する

8 エディティング　回収した調査票の点検・ナンバリング、アフターコーディングをおこない、データ入力の準備をする

9 入力とクリーニング　各自で分担して入力をおこない、クリーニングを完了させ、単純集計票およびコードブックを作成する

10 クロス集計表による分析　質的変数についてクロス集計表の作成・解釈をおこない、χ２乗検定について学習しながら検定の概念を理解する

11 相関係数と回帰分析　量的変数について、相関係数の算出と検定、回帰分析の概念と方法を理解し、実際に回帰分析をおこなってデータを解釈する

12 ロジスティック回帰分析　２項ロジスティック回帰分析について学習し、データ分析をおこなう

13 グラフ作成と論文執筆　分析結果の効果的な図表化、とくにグラフ作成について学習し、それをふまえた論文執筆をおこなう

14 中間発表　各自の論文について報告・講評をおこなう

15 論文作成について　中間発表をふまえ、より適切な図表の表示・論旨の明確化などを指導する

授業の方法：講義・演習形式。各回、講義に続いて演習問題に解答する。また、中間発表でのプレゼンテーションをおこなう。

成績評価方法：プレゼンテーションおよび論文

教科書：配布資料をもちいる。

参考書：授業中に紹介する。

履修上の注意：かなりの作業量になるので、この点をふまえて履修すること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-09	担当教員：恒吉　僚子	単位数：2	学期：夏

授業科目：比較教育学特殊研究

講義題目(和文)：質的方法論研究Ⅱ

講義題目(英文)：Qualitative Research Methods Ⅱ

授業の目標・概要：授業の到達目標

到達目標：質的方法論研究Ⅰにおける、フィールド・ノーツ等に関する基礎知識・スキルを前提として、各自のリサーチ・クエスチョンの設定、リサーチ・クエスチョンに合った方法の吟味、質的データから分析を引き出していく方法に対する理解を深める。

授業の概要

質的方法論研究Ⅰの知識やスキルを前提とした上で、リサーチ・クエスチョンの設定、方法論との結び付け方を、いくつかの既存研究を通して検討した後に、各自のリサーチ・クエスチョンを通して具体的に練習をする発展的内容である。質的方法が強さを発揮する領域と課題を、具体例を通して検討していく。いくつかの代表的な方法、エスノグラフィー、インタビュー、質的事例研究、質的内容分析について、各自のテーマに沿って、リサーチ・クエスチョンとの整合性、説得性の獲得、分析の引き出し方についての検討等を行う。形態としては、講義、フィールドでの調査、グループでの討論とクラス全体での発表討論を組み合わせる。

授業のキーワード：質的研究方法,リサーチ・クエスチョン

授業計画：授業計画

１．本講義の導入。

２．リサーチ・クエスチョンと方法論の関係についての考察。質的方法の古典における方法論の検討。学校・教育における観察・視覚データを主とした手法（例　エスノグラフィー）の古典と関連課題の検討（例　アクセス、観察者効果、インフォーマントの機能)。

３．リサーチ・クエスチョンと方法論の関係（続)。質的方法の古典における方法論の検討。オーラルなデータを用いた手法（例　インタビュー、ライフヒストリー）の古典と関連課題の検討（例　構造化の度合い、理論の役割、サンプル数)。

４．学校・教育、子どもを対象とした質的調査の特徴について、第１－３回の内容を踏まえて考察する。

５．各自のリサーチ・クエスチョンの設定と方法論の妥当性の検討。質的方法が対応しうる問題、課題や限界について具体例を通じて検討する。

６．各自が収集した初期データについて、サンプル、フィールドでの問題、収集方法、方法的妥当性（例　フィールド・ノーツの内容）等の第一段階課題についての検討（発表者数名)。

７・　同上（発表者数名）

８．共通フィールドでの観察と考察。

９・第二回、データ（フィールドノーツ、インタビュー、内容分析資料）の提示。リサーチクエスチョンの展開との関係の妥当性、ノーツ等の内容の妥当性。(発表者数名)

１０．同上（発表者数名）

１１．第一次コーディングとその結果の発表、討論。

１２．第一次コーディングとその結果の発表、討論。

１３．質的データから分析を引き出す練習。手法の違いによる課題の違いについての認識の深化。相互発表と討論。(各自)

１４．プレゼンテーションの手法の違いの考察。自分のスタイルの模索と説得性の考察。

１５．レポート内容の検討。

授業の方法：講義、発表、討論、課題提出を組み合わせた形式。演習形式のため、毎回の出席と課題提出を行なうことが前提となっている。

成績評価方法：学生に対する評価

１．レポート、2. 講義への参加度（演習形式)

教科書：配布資料を用意する。

参考書：随時指定する。

履修上の注意：質的方法論研究Ⅰとあわせて受講すること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：212-10	**担当教員**：石田　浩	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育社会学特殊研究			
講義題目(和文)：社会調査法			
講義題目(英文)：Social Research Methods			

授業の目標・概要：近年、社会科学の研究方法のひとつとして社会調査の方法が盛んに用いられるようになってきた。社会調査とは社会事象について、直接現地におもむきナマのデータを収集し、分析することである。社会調査の様々な技法を学ぶと同時に、実際に仮説を立て、小規模な調査を設計・実施し、調査データのコーディング・クリーニングを経て、データの計量分析を行う。さらに、すでに行われた大規模な全国調査をデータアーカイブから入手し、調査データの２次分析を通して、社会調査データの分析手法を実際のデータに応用することを目指す。

授業のキーワード：社会調査,計量分析,質問紙調査

授業計画：前半では、社会調査データを分析した論文をお手本として取り上げるとともに、2 次分析を通して実際のデータ分析を経験する。後半では、小規模調査の設計・調査票作成・調査実施・データ分析を経験する。調査テーマによって班を編成し作業は班ごとに行うので、共同作業が中心となる。分析の過程では、必要に応じてコンピュータソフト（stata)の使用方法、統計的な手法についても解説を行う。ゼミの終わりには、実際に実施した社会調査のデータを用いた分析を班ごとに口頭で報告し、最終レポートを執筆する。

授業の方法：前半は、講義形式
後半は、グループでの議論と報告

成績評価方法：口頭報告、レポート等による

教科書：第 1 回目の授業の時に指定

参考書：第 1 回目の授業の時に指定

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-11	**担当教員**：杉村　美紀	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育社会学特殊研究

講義題目(和文)：比較教育政策論－アジアにおける高等教育政策と国際連携－

講義題目(英文)：Educational Policy from the Comparative Perspective－Higher Education Policy and Cross-Border Networking in Asia

授業の目標・概要：本授業は、アジアにおける高等教育政策を対象とし、国際化が進むなかで高等教育に求められている政策的課題と機能を考察するとともに、政策分析の比較を通じ、比較研究方法の意義を検討することを目標とする。今日、アジアでは、高等教育が国際化の進展とともに国家発展のための政治的・経済的戦略として重視されている。中でも自国学生の送り出し、および留学生の受け入れを含む留学生政策は、国家発展を支える人材育成手段として注目されている。この背景には、多様なクロスボーダー・プログラムの登場やそれに伴う学生移動の活発化がある。他方、そうした国際化の動きは、国境を越えて展開される国際高等教育という新たな展開を生み、欧米諸国と同様に、大学間連携や地域連携、さらにはアジアと EU 間の地域間の動きがみられ、地域協力や地域共同体の可能性が議論されるようになっている。本授業では、こうした多様な動きをもつ高等教育政策について、アジアの主要国の政策比較、地域連携の主要事例の比較、質保証機構のネットワークなどの側面から検討し、高等教育が持つ重層的な構造と機能を追究する。あわせて、多面的な事象を分析する比較研究の方法論を、特に分析単位（ユニット）の問題を中心に検討する。

授業のキーワード：高等教育、国際連携、地域連携、アジア、国際交流、留学生、ヒトの国際移動、クロスボーダー・プログラム、トランスナショナル教育、質保証、教育政策、比較教育学、国際教育学、地域統合、文化変容、国際化、多文化教育、ナショナリズム、東南アジア諸国連合（ASEAN）、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）、南アジア地域協力連合、SEAMEO 高等教育開発地域センター（RIHED）、ユネスコ、OECD、単位互換制度、認証評価制度、キャンパス・アジア、グローバル化、東アジア共同体、大学連携、ASEAN 大学連合、頭脳流出、頭脳還流、EU、ASEAN 国際学生移動プログラム、アジア太平洋質保証ネットワーク（APQN）、ASEAN 質保証ネットワーク（AQAN）政策研究

授業計画：１．国際教育学における政策研究と高等教育研究
２．比較教育研究のフレームワークと分析単位（1）
３．高等教育政策の比較研究
４．国民統合の課題と高等教育
５．高等教育における経済発展と人材育成
６．ポスト・コンフリクトの高等教育
７．大学間連携の機能と構造（1）
８．大学間連携の機能と構造（2）
９．学生移動とハブ形成
10．地域連携と地域共同体（1）東南アジアの事例
11．地域連携と地域共同体（2）東アジアおよび南アジアの事例
12．地域間連携とその構造
13．国際連携の実践的課題（1）：高等教育の質保証
14．国際連携の実践的課題（2）：共通教育フレームワークの構築
15．高等教育政策の重層的構造

授業の方法：本授業は講義および文献・資料講読と発表、ならびに討議から成ります。第 1 回～第 3 回の授業では、講義および参加者による討議により、第 4 回以降の事例研究の論点を整理します。第 4 回～第 15 回では、課題文献についての発表と討議を行います。課題文献は、各回のトピック別にとりあげますが、そこに含まれる国別事例としては特に中国、マレーシア、シンガポール、韓国を重点的に取扱います。

成績評価方法：授業への出席（20%）、課題に基づく発表（40%）ならびに期末レポート（40%）によります。レポートでは、授業で取り上げる国別事例ないし地域連携の事例を参考にしながら、高等教育政策にかかわる具体的事例について比較分析することを主眼とした課題を取り上げる予定です。

教科書：各回の課題文献は、参考書に掲げた文献を含めて初回授業時に指示します。

参考書：1.de Wit, Hans et.al.eds, The Dynamics of International Student Circulation in a Global Context, Sense Publishers, 2008.
2.Knight,Jane, ″Education hubs: A fad, a brand, an innovation?″ Journal for Studies in International Education, Vol.15(3), 2011, pp.221-240.
3. McBurnie, G. and Chirstopher Zigrus, Transnational Education: Issues and Trends in Offshore Higher Education, Routledge, 2007.
4.Ninnes, P and Meeri Hellsten ed., Internationalizing Higher Education, Comparative Education Research Centre, The University of Hong Kong, Springer, 2005.
5.北村友人・杉村美紀編『激動するアジアの大学改革ーグローバル人材を育成するために』上智大学出版、2012 年.
6.杉村美紀・黒田一雄編『アジアにおける地域連携教育フレームワークと大学間連携事例の検証』文部科学省. 平成 20 年度国際開発協力サポートセンター・プロジェクト報告書、2009 年.
7.杉村美紀(研究代表)『アジア・オセアニアにおける留学生移動と教育のボーダーレス化に関する実証的比較研究』平成 19~21 年度科学研究費補助金報告書、2011 年.
8.西川潤・平野健一郎編『東アジア共同体の構築（３）国際移動と社会変容』岩波書店、2007 年.
9.マーク・ブレイ、ボブ・アダムソン、マーク・メイソン（杉村美紀、大和洋子、前田美子、阿古智子共訳）『比較教育研究ー何をどう比較するか』上智大学出版、2011 年.

履修上の注意：本授業では発表とともに授業時の討論を重視します。履修者の皆さんの積極的な授業参加を希望いたします。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-12	担当教員：児美川　孝一郎	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育社会学特殊研究

講義題目(和文)：キャリア教育論

講義題目(英文)：Career Education

授業の目標・概要：大学を含む学校教育におけるキャリア教育・支援の実態，およびキャリア教育・支援に関する理論・研究を検討し，知見を深める。

授業のキーワード：キャリア教育,キャリアガイダンス

授業計画：開講時に受講者と相談して決めるため，以下の内容は変更する可能性がある。

１．キャリア教育の定義
２．日本におけるキャリア教育の展開
３．諸外国におけるキャリア教育
４．キャリア発達およびキャリア教育の理論
５．キャリア教育の方法
６．キャリア教育の効果測定
７．学校から仕事への移行
８．職場体験，インターンシップ
９．教科を通じたキャリア教育
１０．キャリアカンセリング
１１．教科外教育におけるキャリア教育
１２．専門高校におけるキャリア教育
１３．専門学校におけるキャリア教育
１４．大学におけるキャリア教育
１５．講義のまとめ

授業の方法：担当教員によるレクチャーのほか，文献の検討を行う。文献検討の際には，報告者を決めて，概要紹介＋コメントをしてもらう。

成績評価方法：文献検討の報告を含めた平常点によって評価する。

教科書：特に指定しない。

参考書：児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター

履修上の注意：講義運営上の諸連絡や文献の受け渡し等のために，Facebook を利用する。非公開のグループを作成するため，受講者は，少なくとも講義期間中，担当教員と「友達」になる必要がある。この点を了解したうえで，受講されたい。

関連ホームページ：http://www.facebook.com/koichiro.komikawa

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：212-13	**担当教員**：恒吉　僚子	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：比較教育学論文指導

講義題目(和文)：比較教育学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Comparative Education

授業の目標・概要：このゼミは、本コース所属の教員がそれぞれ担当する、論文執筆のための研究指導を目的とした演習である。学部の授業として開講しているが、学部学生と修士課程の大学院生を中心に、学生・院生間の議論と相互交流の場となることをめざす。そのため、コース所属の学部学生のみならず、修士課程の学生の履修も期待している。

ゼミの進め方については各教員の判断に任されるが、基本的には、担当する各教員の指導のもと、参加者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、卒業論文や修士論文の準備に向け、各自の研究を促すことを目的とする。必修としての指定は行わないが、学士課程・修士課程を貫く本コースの中核的な演習として、学部３，４年次、および修士課程１，２年次の履修を期待する。

なお、以上に述べた授業の性格により、他コースの学生・院生の履修は、原則として認めない。

授業計画：各教員が第一回ゼミに説明する。

授業の方法：各教員による。

成績評価方法：研究計画、発表等による。

教科書：各教員による。

参考書：随時指定。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-14	**担当教員**：本田　由紀	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育社会学論文指導

講義題目(和文)：教育社会学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Social Systems

授業の目標・概要：この授業では、各学生が取り組んでいる修士論文・博士論文および投稿論文・レポート等について参加者全員で検討を加えることにより、理論と実証の両面から論文の質を高め、論理的かつインパクトのある論文を執筆する力を身につけることを目的とする。

授業のキーワード：理論 実証

授業計画：各回の発表者を事前に指定し、研究の進捗についての発表に基づいて全員で議論を加える。

授業の方法：各回の発表者を事前に指定し、研究の進捗についての発表に基づいて全員で議論を加える。

成績評価方法：参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。

教科書：なし

参考書：なし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-15	**担当教員**：佐藤　香	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教育社会学論文指導

講義題目(和文)：計量教育社会学論文指導

講義題目(英文)：Advanced Seminar on Quantitative Studies in Educational Sociology

授業の目標・概要：計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、ＳＰＳＳに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。

授業のキーワード：計量データ分析　社会調査

授業計画：修士１年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士２年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。

いずれの場合でも、それぞれが年度当初に１年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。

授業の方法：指導のポイントは次の５点である。１）研究テーマと分析データの整合性、２）参照すべき先行研究と知見の整理、３）分析手法の理解、４）分析結果の読み取りかた、５）問題設定に即した結論の導出。

本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。

成績評価方法：出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。

参考書：授業中に紹介する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-16	**担当教員**：中村　高康	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：比較教育システム論論文指導

講義題目(和文)：比較教育システム論論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Systems

授業の目標・概要：教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。

授業のキーワード：教育社会学,比較教育システム論,方法,理論,その他

授業計画：参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。

授業の方法：発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。

成績評価方法：平常点

教科書：特に指定しない。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-17	**担当教員**：橋本　鉱市	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：高等教育論論文指導			
講義題目(和文)：高等教育論論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Higher Education			
授業の目標・概要：(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。 **授業のキーワード**：高等教育（政策）研究,高等教育の歴史社会学 **授業計画**：大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員（学生・教員など）に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、修士論文、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。 **授業の方法**：受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。 **成績評価方法**：受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。 **教科書**：指定なし **参考書**：指定なし **履修上の注意**：本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：212-18	**担当教員**：結城　恵	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：比較教育学論文指導			
講義題目(和文)：比較教育学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Comparative Education			
授業の目標・概要：比較教育社会学の領域において論文を作成するために必要な力を養成します。各院生が取り組む研究の進捗状況を把握し、論文執筆に必要な発想力、分析力、論理力、構成力等を確認し、質の高い論文が生み出せるように指導していきます。 **授業の方法**:講義とディスカッションを想定していますが、履修者の研究テーマに合わせて調整し決定します。 **成績評価方法**：平常点(60%)、論文の執筆(25%)、期末レポート(15%)を総合して評価します。 **教科書**：講義の展開に応じて購読文献および指定文献をあらかじめ指定します。 **参考書**：授業に関連する参考文献を随時提示します。 **履修上の注意**：講義の展開に応じて指示します。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　生涯学習基盤経営コース

科目番号：213-01	**担当教員**：牧野　篤、李　正連、新藤　浩伸	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：生涯学習論基本研究			
講義題目(和文)：生涯学習論基本研究Ⅲ			
講義題目(英文)：Theory of Lifelong Learning Ⅲ			
授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練を、文献の講読と検討によって、集団的に進める。 **授業計画**：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」を形成するために、テーマを絞って、基本的な文献を講読し、検討する。具体的なテーマやテキストについては、授業内で議論し、決めていく。なお、生涯学習論基本研究Ⅳ（冬学期）と連動して、通年での授業とする予定なので、通年での履修が望ましい（半年の履修を拒むものではない)。 **授業の方法**：基本的に演習形式をとり、参加者の活発な討議によって、各自の基本的な研究への「構え」を形成する。 **成績評価方法**：毎回の出席と討議 **教科書**：各テーマに応じて指定する。 **参考書**：必要に応じて紹介する。 **履修上の注意**：積極的な参加が求められる。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-02	**担当教員**：牧野　篤、李　正連、新藤　浩伸	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：生涯学習論基本研究			
講義題目(和文)：生涯学習論基本研究Ⅳ			
講義題目(英文)：Theory of Lifelong Learning Ⅳ			
授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練を、文献の講読と検討によって、集団的に進める。 **授業計画**：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」を形成するために、テーマを絞って、基本的な文献を講読し、検討する。具体的なテーマやテキストについては、授業内で議論し、決めていく。なお、生涯学習論基本研究Ⅲ（夏学期）と連動して、通年での授業とする予定なので、通年での履修が望ましい（半年の履修を拒むものではない)。 **授業の方法**：基本的に演習形式をとり、参加者の活発な討議によって、各自の基本的な研究への「構え」を形成する。 **成績評価方法**：毎回の出席と討議 **教科書**：各テーマに応じて指定する。 **参考書**：必要に応じて紹介する。 **履修上の注意**：積極的な参加と議論が期待される。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-03	担当教員：根本　彰	単位数：2	学期：夏
授業科目：図書館情報学基本研究			
講義題目(和文)：図書館情報学理論研究			
講義題目(英文)：Theory of Library and Information Studies			
授業の目標・概要：この授業では図書館情報学の初学者を念頭において、図書館情報学や図書館サービス、文書館サービスを支える基本的な理念とパーツとツールを確認する。と同時に、すでにこの分野で研究活動をおこなっているものも改めて全体像を把握し、教育システムや学術システムのなかでどのように位置づけられるのか、自ら確認する作業をしてもらう。 授業計画：図書館情報学の目的、体系、概要を把握するための授業計画を第1回目の授業に提供する。 授業の方法：日本および外国の図書館制度が電子情報ネットワーク社会のなかで変容する部分と変わらない部分があることを確認するために、文献購読およびフィールドワークを行う。 成績評価方法：総合的な評価 教科書：『シリーズ図書館情報学』東京大学出版会 参考書：Marcia J. Bates, Mary Niles Maack (Editors). Encyclopedia of Library and Information Sciences, Third Edition (Print Version), CRC Press,2009.			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-04	**担当教員**：影浦　峡	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：図書館情報学基本研究

講義題目(和文)：図書館情報学研究方法論

講義題目(英文)：Research Methods of Library and Information Studies

授業の目標・概要：図書館や情報に関係するインターネット上の情報を調査分析するという大枠テーマの中で、参加者が数名のグループで論文を執筆することを前提に、問題設定から
ら論文執筆までのプロセスを批判的に検討し、必要なノウハウを身につけることを目的とする。図書館情報学や関連分野の標準的な雑誌（Libri, Library and
Information Science Research, Journal of Documentation, JASIST, IP&M, Scientometrics, Terminology 等）にしかるべき形式・内容の論文を投稿することをもって目標達成の一応の目安とする。ただし、参加者の状況に応じて柔軟に内容を変更する可能性がある。

授業のキーワード：論文執筆法,研究計画法,データ分析,研究課題設定,データの解釈

授業計画：第１回：概要紹介と参加者のグループ化
第２回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分
第３回ー第７回：課題を推進しつつ、主に理論的枠組み、データの収集と分析をめぐる方法論の検討と議論
第８回ー第１２回：課題を推進しつつ、主にデータの分析と解釈、論文執筆の検討と議論
第１３回ー第１５回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ

授業の方法：授業初回に参加者を３つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。なお、本授業はプロセスそのものが遂行的に研究方法論をなぞるものとなるので、単に内容を理解するだけでなく、授業へのあるかたちでの参加そのものが重要となる。

成績評価方法：授業への参加度と貢献度に基づき評価する。

教科書：特に指定しないが、論文執筆の極めて具体的なところについての初歩的な参考書として、
Michael Meyer. The Little, Brown Guide to Writing Research Papers. Addison Wesley.
を授業の進捗段階に応じて紹介する予定である。

参考書：授業時に紹介する。

履修上の注意：特になし

その他：グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な研究推敲だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。ただし、履修学生の関心等に応じて、内容は大幅に変更するかもしれない。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-05	**担当教員**：安田　節之	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：社会教育学特殊研究

講義題目(和文)：プログラム評価論

講義題目(英文)：Theory and Methods of Evaluating Programs

授業の目標・概要：　教育機関や企業組織そして地域には、対人援助・人材育成・組織開発・地域活性化を目的とした多種多様な実践活動が存在する。これらの活動に対して、説明責任や科学的根拠が求められる時代となっている。本授業では、様々な実践活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を学ぶ。

プログラムの価値は、時に経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため、心理的な概念や社会現象を捉えることに主眼を置いた社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高い。そこでこの授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得し、その上で、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学ぶ。

授業のキーワード：プログラム,評価,サービス,コミュニティ,対人援助,人材育成,組織開発,地域活性化,社会調査,実験心理学,心理測定,ステークホルダー,ニーズ,ロジックモデル,準実験デザイン,実験デザイン

授業計画：１．イントロダクション
２．プログラム評価の目的と評価者・ステークホルダー
３．プログラムニーズの種類とアセスメントの方法
４．ゴールの明確化
５．インパクト理論
６．ロジックモデル
７．個人・グループ発表
８．アウトカム評価の概要と評価指標の作成
９．実験・準実験デザインによるアウトカム評価
１０．プログラムの導入(インプリメンテーション)評価とプロセス評価
１１．評価可能性アセスメントと評価クエスチョン
１２．評価アプローチ①(社会科学・理論主導、他)
１３．評価アプローチ②(実用重視・エンパワメント、他)
１４．評価報告書・技術報告書(テクニカルレポート)の内容と作成方法
１５．総　括

授業の方法：講義、ディスカッション、演習(個人・グループワーク)を中心に行う

成績評価方法：レポート４０％（論文クリティーク×２)、評価計画書(グループまたは個人)３０％、授業参加状況(発言・発表)３０％

教科書：安田節之 『ワードマップ プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために』新曜社, 2011 年

参考書：Alkin, M. 『Evaluation Roots: A winder perspective of theorists' views and influences』(2nd ed.). Sage, 2013.
安田節之・渡辺直登 『プログラム評価研究の方法』新曜社(6 章・8 章・9 章), 2008 年

履修上の注意：必要な予備知識等は必要ありませんが、すでに携わっている実践活動やプログラムがあれば尚良いでしょう。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-06	**担当教員**：藤村　好美	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：社会教育学特殊研究

講義題目(和文)：アメリカ・モデルの福祉国家と生涯学習

講義題目(英文)：Seminar in Lifelong Learning：Lifelong Learning and the American Welfare State

授業の目標・概要：本講義では、しばしば未発達とか不完全なものとして言及されるアメリカ型福祉国家の特徴について、欧州型のそれとの比較の中で明らかにすると共に、アメリカにおける政府、市場、ＮＰＯの社会福祉サービスと生涯学習実践の分析を通し、現代社会における教育と福祉の接点を探っていく。

授業のキーワード：福祉国家、生涯学習、ＮＰＯ、社会福祉、就労支援、社会的企業

授業計画：この授業は、原則として隔週金曜日の午後、2 コマ連続で授業を行い、英文資料の分析とそれをふまえた討論、考察を行う。

第１回（4 月 5 日）ガイダンス：問題の所在と解決の糸口

第２・３回（4 月 19 日）福祉国家の 3 つのレジームとアメリカ型福祉国家の歴史

第４・５回（5 月 10 日）就労支援を軸とするアメリカの福祉政策と教育

第６・７回（5 月 24 日）アメリカ型福祉国家の担い手（１）政府

第８・９回（5 月 31 日）アメリカ型福祉国家の担い手（２）ＮＰＯその１

第 10・11 回（6 月 7 日）　アメリカ型福祉国家の担い手（２）ＮＰＯその２

第 12・13 回（6 月 14 日）アメリカ型福祉国家の担い手（３）市場

第 14・15 回（6 月 21 日）総合討論、まとめ

授業の方法：次のように、講義と発表、討論を組み合わせる。

①基本的事項について、講義を行う。

②院生が分担で資料の分析を行い、それを基に全体討論を行う。

③毎回の授業の最後に、院生はリアクション・ペーパーを提出し、次回の授業へとつなげる。

成績評価方法：小レポートやリアクション・ペーパー、授業への貢献度、及び最終レポートを総合的に評価する。

教科書：プリントを配布する。

参考書：開講時及び授業の中で、適宜指示する。

その他：資料を基に討論を行うので、資料は全員が必ず事前に読んでおくことが望まれる。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-07	**担当教員**：吉田　右子	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：図書館情報学特殊研究

講義題目(和文)：北欧の生涯学習と図書館

講義題目(英文)：Lifelong Learning and Libraries in Northern Europe

授業の目標・概要：本講義ではデンマーク、スウェーデン、ノルウェーの公共図書館に焦点を当てて、生涯学習の拠点としての中核的機能、歴史、サービス、マネージメント、利用者／司書について、体系的な知識を習得する。

授業のキーワード：公共図書館　生涯学習　北欧　デンマーク,スウェーデン,ノルウェー

授業計画：最初に北欧の生涯学習と図書館を概観し、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー各国の公共図書館について、歴史、制度、サービス、他機関との連携などを詳しく検討する。特に各国の図書館で行われている生涯学習プログラムについて、企画から実施に至るプロセスを細かくみていく。

第１回：ガイダンス、北欧社会と図書館
第２回：北欧の生涯学習と図書館
第３回：デンマークの公共図書館 1：歴史・制度
第４回：デンマークの公共図書館 2：サービス
第５回：デンマークの公共図書館 3：他機関との連携
第６回：スウェーデンの公共図書館 1：歴史・制度
第７回：スウェーデンの公共図書館 2：サービス
第８回：スウェーデンの公共図書館 3：他機関との連携
第９回：発表・討論 1（生涯学習と公共図書館：伝統的プログラム）
第１０回：ノルウェーの公共図書館 1 ：歴史・制度
第１１回：ノルウェーの公共図書館 2：サービス
第１２回：ノルウェーの公共図書館 3：他機関との連携
第１３回：発表・討論 2（生涯学習と公共図書館：21 世紀型プログラム）
第１４回：総合討論 1：生涯学習機関としての公共図書館の課題
第１５回：総合討論 2：生涯学習機関としての公共図書館の可能性

授業の方法：基本的に講義形式で進めるが、受講者に公共図書館で実施されている生涯学習プログラムに関する発表の機会を設ける。

成績評価方法：発表と受講態度（討論への貢献度）から評価する。

教科書：授業中に必要な資料を配布する。

参考書：(1) 吉田右子『デンマークのにぎやかな公共図書館：平等・共有・セルフヘルプを実現する場所』新評論, 2010 年
(2) 小林ソーデルマン淳子・吉田右子・和気尚美『読書を支えるスウェーデンの公共図書館：文化・情報へのアクセスを保障する空間』新評論, 2012 年

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-08	**担当教員**：牧野　篤、李　正連、新藤　浩伸	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：生涯学習論特殊研究			
講義題目(和文)：生涯学習論特殊研究Ⅲ			
講義題目(英文)：Seminar in Lifelong Learning Ⅲ			

授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。

授業のキーワード：社会教育学,生涯学習論,研究方法論,文献講読,フィールド調査

授業計画：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査の対象としては、長野県飯田市・千葉県柏市・愛知県豊田市を予定している。

本研究ⅢとⅣは連動して、通年での授業とする予定なので、そのつもりで臨んで欲しい。

授業の方法：　基本的に演習形式をとるが、フィールド調査を組み込むことで、各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。また、調査報告書の作成を通して、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあり方を体得する。

成績評価方法：授業への参加と討議にもとづいて評価する。

教科書：牧野篤『認められたい欲望と過剰な自己語りーそして居合わせた他者と・過去とともにある私へ』（東京大学出版会）を講読文献として使用する。

参考書：適宜紹介する。

履修上の注意：　社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。

本研究ⅢとⅣに分けての受講は妨げないが、授業の内容上、ⅢとⅣとは連動させて、通年で計画してあるので、通年での受講を考えて欲しい。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-09	**担当教員**：牧野　篤、李　正連、新藤　浩伸	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：生涯学習論特殊研究			
講義題目(和文)：生涯学習論特殊研究Ⅳ			
講義題目(英文)：Seminar in Lifelong Learning Ⅳ			
授業の目標・概要：本研究Ⅲのシラバスでも示したが、社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。 **授業のキーワード**：社会教育学,生涯学習論,研究方法論,文献講読,フィールド調査 **授業計画**：本研究Ⅰと同様、社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査の対象としては、長野県飯田市・千葉県柏市・愛知県豊田市を予定している。 本研究ⅢとⅣは連動して、通年での授業とする予定なので、そのつもりで臨んで欲しい。 **授業の方法**：基本的に演習形式をとるが、フィールド調査を組み込むことで、各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。また、調査報告書の作成を通して、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあり方を体得する。 **成績評価方法**：授業への参加と討議にもとづいて評価する。 **教科書**：牧野篤『認められたい欲望と過剰な自己語りーそして居合わせた他者・過去とともにある私へ』(東京大学出版会）を講読文献として使用する。 **参考書**：適宜紹介する。 **履修上の注意**：社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。 本研究ⅢとⅣに分けての受講は妨げないが、授業の内容上、ⅢとⅣとは連動させて、通年で計画してあるので、通年での受講を考えて欲しい。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-10	**担当教員**：根本　彰	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：図書館情報学特殊研究			
講義題目(和文)：探究学習のための情報環境構築			
講義題目(英文)：Informational Environment Planning for Inquiry-Based Learning			
授業の目標・概要：昨年度から始まった新学習指導要領において重視されている探究学習の実施や言語活用力の向上といった領域は，図書館情報学と密接な関係にある。これをカリキュラム学や教育方法学を援用しつつ，また，アメリカの同様の領域との関係を見ながら検討を行う。 **授業のキーワード**：探究学習，学校図書館，カリキュラム，調べ学習，学習指導要領，司書教諭，総合的な学習の時間，PISA 型学力，言語活用 **授業計画**：アメリカの inquiry-based learning について文献で学ぶとともに，日本の学校における総合的学習の時間，各教科，卒業研究，自由研究などの特別活動のカリキュラムの展開について学ぶ。また，そうした学習の場で学校図書館がどのように関わるのかについての先行研究を検討する。これらの検討をする際に，フィールドとして附属学校における卒業研究指導を取りあげる予定である。 **授業の方法**：文献講読および見学，インタビュー **成績評価方法**：総合的な評価 **参考書**：根本彰（編）『探究学習と図書館：調べる学習コンクールの効果』学文社　2012 桑田ひろみ（編）『思考力の鍛え方』静岡学術出版社　2010 **履修上の注意**：当コースの大学院生だけでなく，学校教育高度化専攻など学校教育分野の大学院生の履修による交流も期待している			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-11	担当教員：影浦　峡	単位数：2	学期：冬

授業科目：図書館情報学特殊研究

講義題目(和文)：情報媒体構造論

講義題目(英文)：Study of the Structure of Information Media

授業の目標・概要：図書やテキスト、単語等の情報媒体ユニットの集まりを対象に、その分布や相互関係を考えて、モデル化・処理の作業を具体的に進める。形式的には集合・分布・グラフとネットワーク等の世界を想定し、具体的な分析・モデル化・操作のレベルでは、フリーの統計ソフトウェアRを用いることを想定する。
単純化のため、データは空間化されており、観察者はデータを外部から捉えることができるものとする。したがって、記述や分析の結果が観察者の認識論的布置に影響を与える、あるいは観察者の立場に応じて記述や分析が異なるような状況は、少なくとも分析の出発点においては想定しない。
具体的にどのようなデータを用いるかはゼミの初回に参加者と相談して決める予定である。特定のテキストは想定しないが、参加者は、できれば岩波講座マルチメディア情報学２『情報の組織化』あるいはそれに相当する内容のものを読んでおくあるいはゼミの前半に並列して読むことが望ましい。その他の必要文献は、進捗に応じて紹介する。
なお、参加者の関心と知識に応じて、大枠は保ちながら、柔軟に内容と進め方を変更する可能性がある。

授業のキーワード：情報媒体,分布

授業計画：第一回　導入
第二回　対象世界とデータ型
第三回　R の基本
第四回　データの構築と簡単な統計
第五回　スケールフリー・ベキ則
第六回　zipfR ライブラリの使い方 (1)
第七回　zipfR ライブラリの使い方 (2)
第八回　ベキ則の認識論
第九回　複雑ネットワーク
第一〇回　igraph ライブラリの使い方 (1)
第一一回　igraph ライブラリの使い方 (2)
第一二回　igraph ライブラリの使い方 (3)
第一三回　ネットワークの認識論
第一四回　整理
第一五回　整理

授業の方法：基本的に教師からの解説ではなく受講者の議論と実習を中心に授業を進める。初回、履修学生の関心に応じて、テーマと方向性を変更する可能性がある。

成績評価方法：平常点および小レポート数回をもって行う予定。ただし、受講者と初回に相談した上で、成績評価方法を変更する可能性はある。

教科書：初回に受講者と相談して決める。

履修上の注意：積極的な参加を求める。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：213-12	担当教員：牧野　篤、李　正連、新藤　浩伸	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：生涯学習論論文指導			
講義題目(和文)：生涯学習論論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Lifelong Learning			
授業の目標・概要：博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。 受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。 必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。 授業のキーワード：論文指導,社会教育,生涯学習 授業計画：院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。 授業の方法：個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。 成績評価方法：授業への参加と討議にもとづいて評価する。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：213-13	担当教員：根本　彰	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：図書館情報学論文指導			
講義題目(和文)：図書館情報学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Library and Information Studies			
授業の目標・概要：図書館情報学関連分野を研究しようとする大学院学生のために，研究指導を行う。事前のアポイントに応じて個別指導を行い，定期的に「総合ゼミ」の場で報告を行っていくものである。 授業のキーワード：図書館情報学 授業の方法：個人指導および「総合ゼミ」 成績評価方法：年度末にまとめて行う			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：213-14	**担当教員**：影浦　峡	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：図書館情報学論文指導

講義題目(和文)：図書館情報学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Library and Information Studies

授業の目標・概要：図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程２年および博士課程３年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。

授業のキーワード：論文執筆,博士論文,修士論文

授業計画：初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。

授業の方法：第１回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論

第２回－第４回：個別指導

第５回：グループ指導および相互の情報交換

第６回－第９回：個別指導

第１０回：グループ指導および相互の情報交換

第１１回－第１４回：個別指導

第１５回：グループ指導および相互の情報交換

成績評価方法：各自の目標達成度に応じて行なう。

教科書：用いない。

参考書：各自の研究テーマに応じて随時紹介する。

履修上の注意：特になし

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　大学経営・政策コース

科目番号：214-01	**担当教員**：小方　直幸、合田　哲雄、松坂　浩史	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：大学経営政策基本研究			
講義題目(和文)：高等教育政策論			
講義題目(英文)：Higher Education Policy			
授業の目標・概要：この授業では、明治期以降のわが国の高等教育の制度・政策を扱う。戦前の帝国大学令から大学令公布までの動向を、帝国大学の誕生や専門学校から私立大学への展開等から振り返った後、新制大学の移行期のプロセスを学習し、戦後の大学政策の流れを国立、私立の別にも注目しながら概観した後、現在わが国の大学で何が課題となっているかを、最新の政策動向等も視野に入れながら学ぶ。 **授業のキーワード**：高等教育制度、政策 **授業計画**：この講義は大きく 3 つのパートから構成される。第 1 は、明治以降の日本の高等教育システムの誕生と発展と戦後の新制大学の発足をめぐる動向、第 2 は戦後の国立大学を中心とした政策の動向、そして第 3 は同じく戦後の私学を中心とした政策の動向である。 **授業の方法**：授業の方法は、授業時に提示するテキストや資料の精読・解説を中心に行い、受講者間のディスカッションを適宜採り入れつつ進める。 **成績評価方法**：予習等の準備状況、並びにそれを踏まえた授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容、レポートの質等を総合的に判断して行う。 **教科書**：授業時に提示・配布する。 **参考書**：授業時に提示する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-02	**担当教員**：小方　直幸	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：大学経営政策基本研究			
講義題目(和文)：高等教育論			
講義題目(英文)：Introduction to Higher Education			

授業の目標・概要：この授業では、大学の理念をテーマに扱う。大学は現在、経営上も機能上も喫緊の課題に迫られている。しかし、今日議論されていることの中には、以前から繰り返し指摘されてきたことも少なくない。また中長期的にみれば現状追随型の対応が問題を生む可能性もあり、一歩離れた視点から大学とは何かを見つめ直すことにも、一定の意義がある。そのため、大学とは何か、大学の理念とは何かについて、古典といわれるものを中心にいくつか取り上げ、受講生と共に読み進める。

授業のキーワード：大学教育,理念

授業計画：この講義は大きく 2 つのパートから構成される。第 1 は 19 世紀から 20 世紀初頭の大学論で、イギリスを中心に欧米で展開されたものを取り上げる。第 2 は 20 世紀半ば以降の大学論で、アメリカで展開されたものを中心に取り上げる。なお、授業で取り上げる文献は、受講者の状況等を勘案して変更や改訂を行うこともある。

授業の方法：授業の方法は、授業時に提示するテキストや資料の事前の精読・予習を前提とし、それを踏まえて内容の確認、設定課題に対する受講者間のディスカッションを行いつつ進める。

成績評価方法：予習等の準備状況、並びにそれを踏まえた授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容、レポートの質等を総合的に判断して行う。

教科書：授業時に提示・配布する。

参考書：授業時に提示する。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-03	**担当教員**：山本　清	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：大学経営政策基本研究

講義題目(和文)：大学財務会計論

講義題目(英文)：Financial Management in Higher Education Institutions (Basic)

授業の目標・概要：大学の財務管理の基礎を簿記や財務会計の視点から学習します。

授業のキーワード：大学の財務管理,簿記,財務会計

授業計画：1. 大学における経営と財務

2.　財務管理と財務会計

3.財務会計と簿記

4.簿記の基礎

5.簿記の役割

6.簿記の特性

7.国立大学の簿記

8.公立大学の簿記

9.私立大学の簿記

10.外国の大学における簿記

11.財務諸表の作成

12.財務諸表の監査

13.財務諸表の利用

14.財務の情報開示

15.今後の課題

授業の方法：テキストと演習を交互に実施して理解を深めます。

成績評価方法：授業への参加と試験の成績を総合評価します。

教科書：アンソニー『会計学入門』東京経済新報社。

参考書：山浦久司・大倉学『初級簿記の知識』日本経済新聞出版社

履修上の注意：特段の予備知識は必要ありません。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-04	担当教員：両角　亜希子	単位数：2	学期：夏

授業科目：大学経営政策基本研究

講義題目(和文)：大学経営論

講義題目(英文)：Management of University

授業の目標・概要：大学の経営について、基礎的な知識を身につけるとともに、その現代的な問題点について各自の問題意識を発展させる。

授業のキーワード：大学経営,ガバナンス,戦略的計画,組織風土

授業計画：詳細は第１回目の授業で説明するが、下記の内容を扱う予定。

大学組織論、大学の組織風土、リーダーシップ論、大学の戦略的経営など

日本の大学改革を進めるためのマネジメントの在り方について模索することを目的とするが、そのために、日本の事例だけでなく、諸外国の研究についての文献購読などをもとに議論し、理解を深めたい。

授業の方法：①講義、②事前学習と発表、③文献購読の発表と討論をとりまぜて行う。

成績評価方法：授業への準備状況、発表内容、討論への貢献、課題（レポート）などを総合的に評価する。

教科書：授業中に必要に応じて参考資料を配布する。

諸外国の大学経営に関する論文（たとえば下記のリーディングス）などを扱う予定。

Organization and Governance in Higher Education (6th Edition) (Ashe Reader)

M. Christopher Brown II Edited by (著), Jason E. Lane (著), Eboni M. Zamani-Gallaher (著) Pearson Learning Solutions; 6 版 (2010/10/25)

履修上の注意：初回の授業に欠席する場合は、事前に講師に連絡すること。

（文献購読の担当などを決定するため）

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-05	担当教員：福留　東土	単位数：2	学期：冬

授業科目：大学経営政策基本研究

講義題目(和文)：比較大学経営論(1)

講義題目(英文)：Comparative Study in University Management (1)

授業の目標・概要：海外の大学に対する訪問調査を実施する。海外の大学について各自の関心に即して調査を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い知見を獲得することを目指す。

授業のキーワード：海外の大学,比較的考察,インタビュー調査

授業計画：海外大学への訪問調査、その事前学習と討論、調査実施中および実施後のディスカッション、成果発表会などを行う。

授業の方法：インタビュー調査、講義、グループ討論などによる。

成績評価方法：授業への関与度、および期末レポートによる。

教科書：なし。

参考書：受講者のテーマに合わせて適宜指示する。

履修上の注意：詳細なスケジュールは未定。スケジュールは受講生と相談の上で決定する。

その他：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-06	**担当教員**：小方　直幸、両角　亜希子	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：大学経営政策基本研究			
講義題目(和文)：大学経営政策演習(2)			
講義題目(英文)：Seminar on Higher Education Policy and Management (2)			
授業の目標・概要：大学経営・政策を学び、研究するための、基本的な視点・研究の方法や枠組みを形成するための基礎的な訓練を、文献の講読と検討、各自の研究課題の発表と議論などによって、集団的に進める。 **授業計画**：受講者自身の研究テーマを中心に、論文執筆と報告を行い、出席者からのコメントと会筆修正のサイクルを繰り返す。 **授業の方法**：基本的に演習形式をとる。 **成績評価方法**：毎回の出席と討議への参加。 **教科書**：授業時に紹介する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-07	**担当教員**：山本　清	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：大学経営政策基本研究

講義題目(和文)：大学経営政策研究

講義題目(英文)：Research Methods for Higher Education Policy and Management

授業の目標・概要：大学経営・政策の研究を行う際に必要な基礎知識と手法及び倫理面での遵守事項について学びます。

授業のキーワード：大学経営・政策, 研究方法,研究デザイン,研究倫理

授業計画：１．　大学経営・政策に関する研究

２．　研究とは

３．　研究の課題

４．　研究の目的

５．　研究の進め方

６．研究の設計

７．データの集め方

８．データの分析

９．モデルとは

１０．仮説

１１．仮説の懸賞

１２．定量的手法

１３．定性的手法

１４．研究のまとめ方

１５．研究結果の発表

授業の方法：テキストと具体事例に沿って説明します。

成績評価方法：授業への参加と試験の成績を総合評価します。

教科書：田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房

参考書：Nicholas Walliman, Research Methods, Routledge

履修上の注意：統計に関する基礎知識を有することが望ましい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-08	**担当教員**：荒井　克弘、大森　不二雄、小杉　礼子	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：大学経営政策特殊研究

講義題目(和文)：大学経営政策各論(1)

講義題目(英文)：Topics in Higher Education Policy and Management (1)

授業の目標・概要：(荒井担当分) 戦後日本の大学教育の大衆化と大学入試の変遷について講義を行う。
大学入試はつねにわが国の教育改革の主要な課題であり、その改革の焦点はほぼ一貫して受験競争の過熱解消に向けられてきた。入試事情が劇的に変わったのは臨時教育審議会の第１次答申「入試の多様化」以降である。‘90年代には少子化の影響が進学年齢に及び、同時に大学生の学力低下問題も顕在化してきた。大学入学者選抜の論点は「選抜」から明らかに「教育」へとシフトした。最近では、大学入試という表現さえ「高大接続」にとって変わられた感がある。本講義では、大学入試という観点からわが国の高等教育の変貌を追い、また高大接続の今後に注目する。その議論の課程で、選抜試験とは異なる文脈での教育測定の問題、私学経営の問題にも触れてみたい。
(小杉担当分) 労働市場との接続の観点から高等教育を考える。現在の日本の大学教育における職業との関係のとりかたは、日本企業に特有の雇用慣行と相互に影響しながら形成されてきた。労働市場への新規参入者の過半数が高等教育卒業者となり、企業の雇用管理のあり方もグローバル経済化などを背景に変容している現在、高等教育と労働市場との接続は新たな模索段階にあると考える。その現状と課題を検討する。
（大森担当分）大学の国際化について、「国際化」という閉じたイシューの内部で現状と課題を論じるのではなく、高等教育の総体的な変化の趨勢の文脈において、システム・機関両ベルのミッション、教育・研究等の機能、マネジメントやガバナンスの構造等と関連付けながら、国際化について考察する。

授業のキーワード：(荒井担当分) 大学の大衆化,入学者選抜,高大接続,教育計画, (小杉担当分) 労働市場,学校から職業への移行, (大森担当分) 国際化,グローバル化

授業計画：(荒井１) わが国の大学入試の現状：センター試験・個別試験・入試の国際標準
(荒井２) 入試選抜から高大接続への転換：入試改革の変遷
(荒井３) これからの大学入学者選抜；流通問題としての高等教育・教育測定の妥当性と信頼(小杉１)　労働力需要と大学教育
(小杉２)　新規学卒採用プロセスの現状と課題
(小杉３)　新卒就職外の移行と高等教育の役割
(大森１)　国際化とグローバル化
(大森２)　高等教育の変容と国際化
(大森３)　システム・機関両レベルの国際化戦略
(大森４)　国際化する高等教育の質保証

授業の方法：講義及びディスカッション

成績評価方法：３回の試験を受験し、その成績による。成績評価は３回の試験の平均値により算出する。

教科書：(荒井) 教科書の指定はしない。
(小杉) 当面、「大卒就職の変化と未就職卒業者支援」『学卒未就職者に対する支援の課題』労働政策研究報告書No.141(下記HPよりダウンロードのこと)

参考書：(荒井担当分) マーチン・トロウ (天野郁夫・喜多村和之訳)『高学歴社会の大学』東京大学出版会 1976／天野郁夫『試験と学歴』リクルート 1986／竹内　洋『選抜社会』リクルート出版 1988／荒井克弘・橋本昭彦編著『高校と大学の接続』玉川大学出版部 2005

関連ホームページ：http://www.jil.go.jp/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-09	**担当教員**：小方　直幸、両角　亜希子、吉田　文	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：大学経営政策特殊研究

講義題目(和文)：大学経営政策各論(2)

講義題目(英文)：Topics in Higher Education Policy and Management (2)

授業の目標・概要：この授業では、大学を構成するアクターに着目し、それぞれの実態・概観をおさえつつ、現代的にどのような課題を抱えているのか、最新の研究動向や国際比較の視点も適宜交えながら、知識・理解を深め、今後の大学を考察する上で必要な視点や考え方を修得する。

授業のキーワード：大学改革,職員,教員,学生

授業計画：この講義は大きく 3 つのパートから構成される。第 1 は、大学経営を実践し支える職員の視点、第 2 は、大学の教育・研究・サービスをコアとなって実践する教員の視点、そして第 3 は、大学を選択し、そこで学び、将来的には大学の支援者ともなり得る学生の視点である。

現時点の日程の予定は下記の通りだが、若干の変更の可能性はある。

第 1 回の授業で配布するシラバスで確定する。

両角・・・10/5, 10/12, 10/19, 10/26

吉田・・・11/2, 11/9, 11/16, 11/30

小方・・・12/7, 12/14, 1/11, 1/25

最終試験・・・2/1

授業の方法：授業の方法は、授業時に提示するテキストや資料の事前の精読・予習を前提とし、それを踏まえて内容の確認、設定課題に対する受講者間のディスカッションを行いつつ進める。

成績評価方法：予習等の準備状況、並びにそれを踏まえた授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容、レポートの質、最終試験等を総合的に判断して行う。

教科書：授業時に提示・配布する。

参考書：授業時に提示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-10	**担当教員**：両角　亜希子	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：大学経営政策特殊研究			
講義題目(和文)：大学経営事例研究(1)			
講義題目(英文)：Case Study in University Management (1)			

授業の目標・概要：特定の大学やトピックスを選んで、ケーススタディを行う。
大学経営に関する特定のテーマについての理解を深めるとともに、ケーススタディの方法を学び、実践することで身につけることを目指す。
夏休み期間中に、1 週間程度の集中講義の形式をとる予定である。
参加者は共同して対象大学についての概要、問題点、その克服などについて報告書を作成し、ホームページに発表する。
授業のキーワード：大学経営, ケーススタディ
授業計画：履修予定者に追って連絡する。
授業の方法：発表、討議形式で行う。
成績評価方法：授業への出席と討論等への貢献、研究内容（レポート課題等）によって総合的に評価を行う。
教科書：なし
参考書：随時紹介する。
履修上の注意：日程は履修者へのアンケートによって決定する。
履修申告したものに、担当者からメールで連絡をするので、返事をすること。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-11	担当教員：大多和　直樹	単位数：2	学期：夏

授業科目：大学経営政策特殊研究

講義題目(和文)：高等教育調査の方法と解析(1)

講義題目(英文)：Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)

授業の目標・概要：・社会調査の基礎を身につけることを目標とする。　修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数量的データの二次分析(エクセル統計等を利用)を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。

授業のキーワード：社会調査法

授業計画：１．ガイダンス～社会調査:知的創造のためのデータ収集法

２．問いの重要性:研究は問いから始まる

３．問いから仮説へ

４．仮説検証を行う:クロス分析とは

５．検定の考え方:カイ二乗検定

６．アウトプット=論文に触れる

７．質問紙の作成法：ワーディングと構成

８．サンプリング

９．質的方法に触れる

10. 統計の基礎

11. 回帰分析の考え方

〈ミニ演習〉

12.ミニ演習 1

13.ミニ演習 2

14.ミニ演習 3

15.まとめ

授業の方法：社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習(既存調査データの二次分析)を行う。

成績評価方法：平常点:　ミニ演習など　40%

レポート:　60%

教科書：篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳　『社会調査の基礎』弘文堂　2010

参考書：高根正昭　『創造の方法学』　講談社 1979

履修上の注意：最初から最後まで通して参加できる学生に限る。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-12	**担当教員**：小林　雅之	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：大学経営政策特殊研究

講義題目(和文)：高等教育調査の方法と解析(2)

講義題目(英文)：Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (2)

授業の目標・概要：高等教育政策を分析する基礎となるデータ解析の基本的な手法を実際のデータを分析することにより，マスターする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが，受講生は夏学期の「高等教育調査の方法と解析（１)」を受講している者に限る。

授業のキーワード：重回帰分析,クロス表,ロジット・モデル,因子分析,調査,統計学,社会調査法,クロスセクショナル分析,時系列分析,検定,推定,記述統計,回帰分析,アンケート,サンプリング,仮説検定,作業仮説

授業計画：回　テーマ

1　イントロダクション　調査統計の思想と技法
2　確率と確率分布
3　推測統計と検定
4　クロス表の分析（１）
5　クロス表の分析（２）
6　課題発表（１）
7　相関と回帰分析
8　重回帰分析の実際
9　課題発表（２）
10　ロジスティック回帰
11　カテゴリカルデータ分析
12　課題発表（３）
13　因子分析と共分散構造分析
14　課題発表（４）
15　試験

授業の方法：講義と演習（課題発表）（上記授業計画参照）

成績評価方法：課題レポート４回（60%），発表（40%）とする。

教科書：なし

参考書：授業中に指示する

履修上の注意：受講生は夏学期の「高等教育調査と解析（１)」を受講している者に限る。
統計学や社会調査法の基礎を学習していることが望ましい。
アンケートや統計の分析の初歩と応用をマスターすることで、幅広く実務に応用することができる。

関連ホームページ：http://www.he.u-tokyo.ac.jp/2007/09/post_54.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-13	**担当教員**：山本　清	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：大学経営政策特殊研究			
講義題目(和文)：大学財務会計特論			
講義題目(英文)：Financial Management in Higher Education Institutions (Advanced)			

授業の目標・概要：大学における財務管理の上級的な内容で実務への応用面に重点を置きます。
また、教育研究活動と財務（資源配分）の関係についても学びます。

授業のキーワード：財務管理,予算管理,原価管理,財務分析

授業計画：1.大学の財務管理
2.大学の資源調達
3.大学の資源配分
4.大学の執行管理
5.大学の戦略計画と財務
6.大学の予算
7.予算編成
8.予算編成の方法
9.資源配分モデル
10.資源管理
11.原価管理
12.料金設定
13.部局の管理
14.財務分析
15.まとめ

授業の方法：テキストと具体事例を通じて大学の財務管理の基礎と応用を習得します。

成績評価方法：授業への参加と試験の成績を総合評価します。

教科書：Maccolm Prowle and Eric Morgan, Financial Management and Control in Higher Education, Routledge.
Patrick, J. Schloss and Kristina, M. Cragg, Organization and Administration in Higher Education, 2013, Routledge.

参考書：国立大学財務・経営センター『国立大学法人　経営ハンドブック』

履修上の注意：大学財務会計論を履修しておくことが望ましい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：214-14	**担当教員**：山本　清、小方　直幸、福留　東土、両角　亜希子、吉田　文	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：大学経営政策論文指導			
講義題目(和文)：大学経営政策論文指導			
講義題目(英文)：Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy			
授業の目標・概要：博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。 **授業のキーワード**：大学経営,大学政策,論文指導 **授業計画**：個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは４月に決定する。 **授業の方法**：個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。 **成績評価方法**：授業への出席と発表。 **教科書**：講義時に指示します。 **参考書**：講義時に支持します。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：214-15	**担当教員**：福留　東土	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：大学経営政策特殊研究

講義題目(和文)：比較大学論

講義題目(英文)：Comparative Study in Universities

授業の目標・概要：大学を比較と歴史の視点から探究することにより、大学に対する複眼的かつ幅広い視野を獲得することを目標とする。主にアメリカの大学を対象に講義を行うが、アメリカの大学に関する知識を習得すること自体が目的ではなく、比較史的考察を通して、各人が「大学とは何か」に関して思考を深めることを重視する。

授業のキーワード：比較大学論,大学史,アメリカの大学

授業計画：1.大学の比較・歴史研究とは何か
2.世界の大学と日本の大学―比較史的考察
3.大学を考える視点―アメリカの先行研究から
4.アメリカ大学の概要―多様性と複雑性
5.アメリカ大学史概説（１）―カレッジの時代
6.アメリカ大学史概説（２）―ユニバーシティの時代
7.アメリカ大学史概説（３）―20 世紀後半以降の大学
8.大学の成立と設置形態―大学の公と私
9.宗教と科学
10.カリキュラムと学生生活―教養教育と専門職教育
11.研究大学の建設―研究と大学院教育
12.大学の「システム」化―大学の競争と協調
13.大学と政府
14.大学教授職と学問の自由
15.大学の組織とガバナンス

授業の方法：主に講義形式により行うが、受講生との議論を随時行う。

成績評価方法：期末レポート、および授業へのリフレクションによる。

教科書：主に講師作成の資料による。以下は授業前半で用いる論文の一部。詳細は開講時に指示する。
Roger Geiger, ″Ten Generations of American Higher Education.″
Robert Birnbaum, ″Governance and Management: US Experiences and Implication for Japan's Higher Education.″
William Tierney, ″Globalization, International Rankings, and the American Model: A Reassessment.″

参考書：Altbach, Berdahl & Gumport (Eds.), American Higher Education in the Twenty-first Century.
フレデリック・ルドルフ『アメリカ大学史』
潮木守一『アメリカの大学』
中山茂『大学とアメリカ社会』
ほか、授業中に提示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　教育心理学コース

科目番号：215-01	**担当教員**：市川　伸一	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教授・学習心理学基本研究			
講義題目(和文)：認知と教育			
講義題目(英文)：Cognition and Education			

授業の目標・概要：【認知と教育】

この夏学期の演習では、教育心理学になじみのない他分野の学生も参加することを考慮し、和文の文献講読とする。すなわち『心理学研究』、『教育心理学研究』、『発達心理学研究』、『認知心理学研究』、『認知科学』の過去 3 年分の論文の中から、受講者が各自の関心に沿った任意の論文を選択し、内容を要約し、専門用語についての解説をし、「論文査読者」になったつもりで論評を行うものとする。他の受講者は全員がその論文を読み、討論に参加する。論文の批評を通して、問題設定のしかた、実験や調査の方法論、結果の分析と解釈のしかたを身につけることが最大の目的である。訳読の負担が軽減された分、内容的な論評と討論に重点を置くので、受講者はそのつもりで参加してほしい。

授業のキーワード：認知、教育、論文査読、批判的読解、討論

授業計画：毎週２人の発表というペースですすめる。

授業の方法：上記の概要を参照。さらに詳しくは、初日に説明する。受講希望者は必ず初日に参加してほしい。発表は原則として上の学年から行っていく。

成績評価方法：発表、討論などの平常点。ならびに、最終レポート。

教科書：とくに使用しない。

参考書：必要に応じて指示する。

本研究科他コース学生	**本 学 他 研 究 科 学 生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-02	**担当教員**：南風原　朝和	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育情報科学基本研究

講義題目(和文)：心理統計学概論

講義題目(英文)：Introduction to Psychological Statistics

授業の目標・概要：教育・発達・臨床等の分野での介入研究や調査観察研究の立案に心理統計学のアイディアを活用するという観点から，心理統計学の基礎および広がりについて概観する。心理統計学の専門的内容ではなく，学部段階での統計学習が不十分であると感じている学生や，統計に関するいろいろな疑問をかかえている学生を主たる対象にして，統計的なものの見方・考え方についての理解を深め，研究に生かしていくことを目標とした講義である。

授業のキーワード：独立変数, 従属変数, 因果関係, 実験研究, 調査観察研究, 内的妥当性, 交絡, ランダム割り当て, 準実験, 交互作用, 調整変数, 媒介変数, 実験的因果連鎖デザイン, ランダム化比較試験, 層別化, 遮蔽, 盲検, ブロック化, 共変数, 見かけの相関, 偏相関, 潜在変数, 共通因子, 重回帰分析, パスモデル, 心理プロセス, 一事例実験, 行動分析, 横断研究, 縦断研究, 個人内の共変関係, マルチレベル研究, レベル間交互作用, 分類, クラスター分析, 多次元尺度法, 測定尺度, 構成概念, 尺度仕様書, 妥当性, 信頼性, メタ分析, 出版バイアス, 効果量, 実用的

授業計画：１．量的研究のプロセスと基本的なロジック
２．変数と研究アプローチの選択
３．問いを深める工夫
４．研究デザインを強くする工夫
５．変数間の関係についてのモデリング
６．個に注目した研究と統計
７．より多様な研究と統計
８．種々のデータ分析法の整理
９．2 変数データの分析法
10．多変数データの分析法
11．その他の分析法
12．妥当性と信頼性の指標

授業の方法：講義による。

成績評価方法：レポートによる。

教科書：南風原朝和『臨床心理学をまなぶ 7　量的研究法』(東京大学出版会，2011 年)

参考書：南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣，2002 年)
南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣，2009 年)

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-03	**担当教員**：南風原　朝和	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育情報科学基本研究			
講義題目(和文)：心理統計学の諸問題Ⅰ			
講義題目(英文)：Issues in Psychological Statistics Ⅰ			
授業の目標・概要：心理統計学の理論・方法・応用について，新しい展開を広く概観する。 講義と，受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを 組み合わせて進める。 **授業のキーワード**：心理統計学,心理測定学,量的研究法,データ解析 **授業計画**：講義と，受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを 組み合わせて進める。 **授業の方法**：講義と演習による。 **成績評価方法**：論文紹介の発表および討論への参加をもとに評価する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-04	**担当教員**：遠藤　利彦	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：発達心理学基本研究			
講義題目(和文)：感情と進化・文化			
講義題目(英文)：Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions			
授業の目標・概要：　私たちが日々、経験しまた表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土(climate)の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにしたい。 **授業のキーワード**：感情,進化,文化,遺伝,環境,社会性,関係性,自己 **授業計画**：初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。 **授業の方法**：各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。 **成績評価方法**：授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。 **教科書**：教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の１～２冊を選択・決定する。 **参考書**：授業時に、適宜、紹介する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-05	**担当教員**：針生　悦子	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：発達心理学基本研究			
講義題目(和文)：ことばと認知の発達Ⅰ			
講義題目(英文)：Language and Cognitive Development Ⅰ			
授業の目標・概要：言語を獲得するとはどのようなことで，そのためには何が必要なのか。また，言語を獲得することで，思考や認知などはどのような影響を受けるのか。このような問題意識のもと，基本的な文献の購読を行う。 **授業のキーワード**：言語,認知,発達 **授業計画**：この領域の基本文献をとりあげ，輪読する。 **授業の方法**：演習 **成績評価方法**：授業における発表，発言，レポートによる。 **教科書**：初回授業時に指示する。 **参考書**：初回授業時に指示する。 **履修上の注意**：初回授業時に，発表の割り当て，スケジュールなどを決定するので，履修希望者は必ず初回授業には出席すること。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-06	**担当教員**：佐々木　正人	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育認知科学基本研究			
講義題目(和文)：生態心理学Ⅰ			
講義題目(英文)：Ecological Psychology Ⅰ			
授業の目標・概要：生態心理学の文献を最新の学会誌からと、生態心理学の背景をなす書物、主としてこの両者を読みます。ギブソン自身の書いたものも検討します。また参加者独自の研究を発表していただき吟味します。発達、身体行為、習慣、デザイン、ロボット、建築、身体、言語など広い関心を持つ参加者を求めます。 **授業のキーワード**：アフォーダンス,生態心理学,身体的認知論,環境,行為系,デザイン **授業計画**：取り上げる論文を提示する。 参加者からの提示と合わせて、スケジュールをたてる。 以下のような内容を考えている。 ○生態心理学の最新論文（英語雑誌） ○運動協調研究の最新論文 ○ギブソン理論の中心の部分 ○自己組織化と生物 ○進化論 ○生態学的言語研究 **授業の方法**：ゼミ形式（参加者の発表と議論） **成績評価方法**：発表とレポート **教科書**：特になし **参考書**：適宜指定する 紀伊国屋書店「じんぶんや」７５講佐々木担当のリスト参照			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-07	**担当教員**：岡田　猛	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育認知科学基本研究			
講義題目(和文)：創造的認知の心理学Ⅰ			
講義題目(英文)：Psychology of Creative Cognition Ⅰ			
授業の目標・概要：創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。 **授業のキーワード**：創造性,芸術,心理学,認知科学 **授業の方法**：今年度は、広い意味での創造性や芸術創作活動に関する英文文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。 **成績評価方法**：授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。 **教科書**：論文は授業で指示。 教科書は無し。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-08	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教授・学習心理学特殊研究			
講義題目(和文)：保育学研究			
講義題目(英文)：Studies on Early Childhood Education			
授業の目標・概要：保幼小の連携接続や環境移行に関する国内外の研究文献を読むことで、幼児期と児童期の教育のつながりやあり方について最近の研究動向を保育学の観点から学ぶことを目標とする。 **授業のキーワード**：幼児教育　小学校教育　環境移行　初期の学び　質　専門性 **授業計画**：初回２回はガイダンスならびに実際のビデオ等をもとにしたガイダンスを行う。 その後は以下の文献を読んだ後関連文献を購読する予定。 Moss,P.(ed.)　Early　Childhood and compulsory education:Reconceptualising the relationship. 2012 Routledge. **授業の方法**：上記主題に関する文献の報告と議論、ならびにＤＶＤ視聴等を通して保育環境のありかたに関して検討を行う。 **成績評価方法**：演習への参加による平常点ならびに期末レポートによる。 **教科書**：Moss,P.(ed.)　Early　Childhood and compulsory education:Reconceptualising the relationship. 2012 Routledge. **履修上の注意**：本授業は学校教育高度化専攻教職開発コースと総合教育科学専攻教育心理学コースのダブルコード授業である。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-09	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教授・学習心理学特殊研究			
講義題目(和文)：授業における学習研究			
講義題目(英文)：Research on Learning in Classroom			
授業の目標・概要：教室における協働学習をキーワードとして、協働学習に関するハンドブックの講読を通した議論によって理解を深めることで、教室における学習と教師や学習環境支援のあり方についての理解を深める。 **授業のキーワード**：協同学習　理解　相互作用　メデイア　教師　授業 **授業計画**：次のハンドブック及びそこに引用されている実証研究論文を読み議論や検討をする。 Hmelo-Silver.C. et al.(Eds) 2013 The international handbook of collaborative learning.Routledge. **授業の方法**：発表担当者による章のポイントの報告と議論や関連論文の紹介をもとにして、ゼミそのものを協同学習を取り入れて進める **成績評価方法**：平常点ならびに期末レポート **参考書**：秋田喜代美「学びの心理学：授業をデザインする」左右社 **履修上の注意**：基本的に毎回出席できることを前提として履修されたい。また英文の読み方や講読指導ではなく本質的な内容の議論を重視するために、あらかじめ当該章を読んで批判的に議論することを前提とする。本授業は、学校教育高度化専攻教職開発コースの授業とのダブルコードとなっている。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-10	担当教員：市川　伸一	単位数：2	学期：冬

授業科目：教授・学習心理学特殊研究

講義題目(和文)：教授・学習過程

講義題目(英文)：Teaching-Learning Process

授業の目標・概要：半年の間に、ある研究分野についてのレビューを行うことを目標とする。中間報告を経て、最終的には年度末にプレセンテーションを行う。レビューは、単なる先行研究の紹介やまとめではなく、主体的に構成し、何らかの主張を持ったものでなくてはならない。そのため、教育心理学という制約は一応つけるが、幅広い分野の中から、受講者が興味を持って没頭できるテーマを自ら選択して提起してほしい。卒業論文や修士論文を書き上げた学生は、核となるテーマを持っているであろうから、それらを膨らませる方向でも差し支えない。なお、発表は学会の小講演のような形式で行うので、効果的なプレゼンテーションのしかたについても身につけてほしいなお発表は学会の小講演のような形式で行うので、効果的なプレゼンテーションのしかたについても身につけてほしい

授業のキーワード：レビュー,プレゼンテーション

授業計画：途中で、「よいレビューとは何か」「よいプレゼンとは何か」について、博士課程の学生から発表してもらい、全体討議を行う。１月頃、中間発表会を行い、３月上旬に最終発表会を行う。

授業の方法：受講者は、初日に必ず参加して説明を聞いてほしい。通常のゼミのように、毎週集まり発表するというものではないが、最後の発表会はまるまる２日（ほぼ全日）かかるので、そのつもりで参加すること。

成績評価方法：発表などの平常点、および最終レポート。最終レポートは、発表のビデオと相互評価をもとに、自らの発表、他者の発表についてまとめ、今後の改善に生かすためのものである。

教科書：とくに使用しない。

参考書：必要に応じて指示する。

履修上の注意：初回に詳しい説明を行うので、必ず出席すること。

その他：このゼミを過去に受講した学生が再度受講する場合、レビューではなく、自らの実施した調査や実験等のリサーチを発表してもよいこととする。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-11	担当教員：南風原　朝和	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育情報科学特殊研究

講義題目(和文)：心理統計学の諸問題Ⅱ

講義題目(英文)：Issues in Psychological Statistics Ⅱ

授業の目標・概要：夏学期に引き続き，心理統計学の理論・方法・応用について，新しい展開を広く概観する。講義と，受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを組み合わせて進める。

授業のキーワード：心理統計学,心理測定学,量的研究法,データ解析

授業計画：講義と，受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを
組み合わせて進める。

授業の方法：講義と演習による。

成績評価方法：論文紹介の発表および討論への参加をもとに評価する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-12	**担当教員**：遠藤　利彦	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達心理学特殊研究			
講義題目(和文)：関係性と子どもの社会情緒的発達			
講義題目(英文)：Relationships and Children's Socio-Emotional Development			
授業の目標・概要：　近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性（親子関係や家族関係など）や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。 **授業のキーワード**：関係性,社会情緒的発達,遺伝,環境,生涯発達過程,連続性と変化 **授業計画**：初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。 **授業の方法**：各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。 **成績評価方法**:授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づき、総合的に評価を行う。 **教科書**：教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の１～２冊を選択・決定する。 **参考書**：授業時に適宜、紹介する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-13	**担当教員**：針生　悦子	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達心理学特殊研究			
講義題目(和文)：ことばと認知の発達Ⅱ			
講義題目(英文)：Language and Cognitive Development Ⅱ			
授業の目標・概要：言語発達や認知発達をあつかった研究論文の購読を通じて，最新の研究動向をさぐるとともに，研究手法などについて学ぶ。 **授業のキーワード**：発達,言語,認知 **授業の方法**：演習形式 **成績評価方法**：授業における発表や発言，レポート			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-14	**担当教員**：佐々木　正人	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育認知科学特殊研究			
講義題目(和文)：生態心理学Ⅱ			
講義題目(英文)：Ecological Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：すべて生態心理学Ⅰじ準じます。ただしⅠに参加していなくても問題ありません。 **授業の方法**：すべて生態心理学Ⅰじ準じます。 **成績評価方法**：すべて生態心理学Ⅰじ準じます。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-15	**担当教員**：岡田　猛	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育認知科学特殊研究			
講義題目(和文)：創造的認知の心理学Ⅱ			
講義題目(英文)：Psychology of Creative Cognition Ⅱ			
授業の目標・概要：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、創造性や芸術創作活動に関する英文論文の講読を行う。 **授業のキーワード**：創造性, 芸術, 心理学, 認知科学 **授業の方法**：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ授業方法である。 **成績評価方法**：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ成績評価方法である。 **教科書**：教科書は無し。 論文は授業中に指示。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-16	**担当教員**：野口　裕之	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育情報科学特殊研究

講義題目(和文)：項目応答理論による大規模言語試験の開発・運用・改定

講義題目(英文)：Applying Item Response Theory to Large Scale Language Tests for Developing, Conducting and Revising

授業の目標・概要：外国語能力を測定する言語テストは、当該外国語学習者の能力水準を測定し認定するだけでなく、わが国では大学院の入学試験や企業の採用・昇進の資格、また、大学入学後の学生の英語能力の変化を時系列的に測定したり、外国語の単位の一部に充てるなどの措置がとられたりするなど広範囲に利用されている。大規模に実施され個人の処遇に大きく影響する high stakes test の場合、そのテストによる測定結果に高い質的水準が求められる。この授業では、実際の大規模言語テストではどのような理論的基盤によりその質を維持し向上しているのか、また、現在言語テストの最先端ではどのようなことが中心テーマになっているのか、について一定の見通しが持てるようにする。
具体的には、テスト理論の解説にかなりの時間が割かれるが、テスト理論の数理的側面よりも、実際の言語能力測定でどのように用いられているかに重点を置く。また、テスト理論以外で重要な言語能力測定に関する最新のトピックを取り上げる。
授業のキーワード：大規模言語テスト,外国語能力テスト,IELTS,TOEFL,日本語能力試験,母語の影響,妥当性,信頼性,真正性,波及効果,正答数得点,潜在特性尺度,項目特性曲線,ロジスティック・モデル,局所独立の仮定,項目パラメタ,テスト情報量,原点と単位の不定性,段階応答モデル,ラッシュ・モデル,適合度指標,尺度の等化,垂直尺度化,特異項目機能,パフォーマンス測定,評価者要因,ファセット,多相ラッシュ・モデル,CEFR,欧州評議会,複言語主義,言語能力水準,共通参照レベル,能力記述文,スイス・プロジェクト,ALTE f
授業計画：大規模言語テスト
1. 世界の大規模言語テスト
2. 日本語能力測定に関する独自性
3. 言語テストが備えておくべき条件

項目応答理論
4. 正答数得点の限界と尺度得点化の利点
5. 項目応答理論の基本モデル
6. 多値型項目応答モデル
7. ラッシュ・モデル
8. 尺度得点の等化と垂直尺度化
9. 特異項目機能(DIF)の検出

パフォーマンス測定
10. パフォーマンス測定の特徴
11. 多相ラッシュ・モデル

言語に関する欧州共通参照枠 (CEFR)
12. CEFR の概要
13. Can-do statements の開発と単一尺度化
14. 言語テストの CEFR の関連付け

授業の方法：主として講義形式をとるが、一部受講者に発表してもらう場合もある。
成績評価方法：平常点とレポートとを併用する。受講者数によって方法を変えることもあるが、その場合は授業開始後早い時期に明示する。
教科書：現在のところ講師作成の配布資料を使用する予定である。
参考書：適宜紹介する。
履修上の注意：いろいろな専門領域で言語テストに関心のある方に受講者を想定して授業を進めるので、テストの数理モデルのみに関心がある、言語習得理論のみに関心がある、という方には向きません。テストの数理モデルを専門にしていても実際の場でそれがどう利用されるか、外国語能力を測定するテストがその背後にどのような理論やモデルがあって質を維持し向上しているのかというように広い関心を持つ方を受講者に想定しています。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-17	担当教員：岡田　謙介	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育情報科学特殊研究

講義題目(和文)：頻度論的統計とベイズ統計

講義題目(英文)：Frequentist and Bayesian Statistics

授業の目標・概要：統計学は、美しい数学理論と複雑な現実のデータとのあいだを取り持ちます。とくに、t検定などのいわゆる統計的仮説検定は、心理学をはじめとする多くの分野で頻繁に利用されてきました。仮説検定は、たしかに有用で一般的な方法論です。しかし、それがある意味では災いし、応用研究における仮説検定の立場は強大になりすぎました。いつしか「p<.05」は正義になり、検定における有意性と現実的な意味とが取り違えられるようになってしまいました。

こうした現状認識のもとで、本講義は仮説検定の依って立つ頻度論の考え方と、その代替案として注目されるベイズ統計の考え方とを、比較しながら論じます。考え方の共通点と相違点、それぞれの利点と欠点とを、これまで仮説検定が使われてきた場面を題材に整理します。後半には、仮説検定に代わる方法論の演習も取り入れる予定です。統計的方法の意味を理解して心理学をはじめとする諸分野の実際の問題解決に役立てたい、と考える皆さんの受講を期待します。

授業のキーワード：統計学,統計学史,推測統計,頻度論,ベイズ統計,仮説検定,統計的モデル選択,尤度,事後分布,ベイズファクター,予測分布,フィデューシャル分布,統計的意思決定,情報仮説

授業計画：1. イントロダクション：2つの統計学?

2. 仮説検定のなにが問題なのか
3. 頻度論の考え方
4. ベイズの考え方
5. 仮説の分類
6. ベイズファクター
7. 統計学の歴史
8. 統計モデル
9. 統計的モデル選択
10. 頻度論とベイズによる平均値の推論(1)
11. 頻度論とベイズによる平均値の推論(2)
12. 頻度論とベイズによる線形モデルの推論(1)
13. 頻度論とベイズによる線形モデルの推論(2)
14. 頻度論とベイズによる多変量解析
15. 頻度論とベイズのこれから

授業の方法：講義による

成績評価方法：授業への参加状況（発表・発言など,50%）およびレポート（50%）による。

教科書：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

参考書：Samaniego, S. J. (2012). A Comparison of the Bayesian and Frequentist Approaches to Estimation. Springer.

Dienes, Z. (2008). Understanding Psychology as a Science: An Intoroduction to Scientific and Statistical Inference. Palgrave Macmillan.

Hoijtink, H. (2011). Informative Hypotheses: Theory and Practice for Behavioral and Social Scientists. Chapman and Hall/CRC.

大久保街亜・岡田謙介 (2012). 伝えるための心理統計. 培風館.

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：215-18	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教授・学習心理学論文指導

講義題目(和文)：教育心理学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology

授業の目標・概要：保育や授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。

授業のキーワード：授業研究,保育研究,談話分析,教師,保育者,実践研究

授業計画：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。

授業の方法：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。それによって研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方について学ぶ方法をとる。また研究室のＭＬで相互に研究にコメントしあう方法もあわせて使用する。なお本論文指導は、学校教育高度化専攻教職開発コースの授業研究分野論文指導と時間割上同時に開講される。

成績評価方法：本演習への参加、ＭＬへの参加、および個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。

教科書：指定なし

参考書：指定なし

履修上の注意：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。

関連ホームページ：なし

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-19	**担当教員**：市川　伸一	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教授・学習心理学論文指導

講義題目(和文)：教育心理学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology

授業の目標・概要：教育心理学、とくに、教授・学習の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。

授業のキーワード：教授・学習、研究指導、論文指導

授業計画：年間にわたり、随時行う。

授業の方法：研究指導、発表指導

成績評価方法：総合的に判断する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-20	担当教員：南風原　朝和	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：教育情報科学論文指導			
講義題目(和文)：教育心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：教育情報科学の分野で修士論文・博士論文を執筆する学生に対し，研究指導および論文指導を行う。 授業のキーワード：論文指導 授業計画：受講生が研究計画および遂行状況を報告し，討論を行う。 授業の方法：演習による。 成績評価方法：研究計画および遂行状況を評価する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-21	担当教員：遠藤　利彦	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：発達心理学論文指導			
講義題目(和文)：教育心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。 授業の方法：基本的に演習形式で行う。 成績評価方法：平常点。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-22	担当教員：針生　悦子	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：発達心理学論文指導			
講義題目(和文)：教育心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：心理学，特に，認知，言語，および発達の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対して，研究指導，論文指導をおこなう。 授業のキーワード：修士論文,博士論文,発達,言語,認知 授業の方法：演習形式。参加者は，各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない，それに対して，討論・助言をおこなっていく。 成績評価方法：演習における発言や発表を総合的に評価する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-23	**担当教員**：佐々木　正人	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育認知科学論文指導			
講義題目(和文)：教育心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：学位論文作成の指導を行います **授業の方法**：個別あるいは集団で行います **成績評価方法**：参加を持って行います			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：215-24	**担当教員**：岡田　猛	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育認知科学論文指導			
講義題目(和文)：教育心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。 **授業計画**：院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。 **授業の方法**：個別指導 **成績評価方法**：総合的に判断する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　臨床心理学コース

科目番号：216-01	**担当教員**：下山　晴彦、高橋　美保	**単位数**：1	**学期**：夏
授業科目：臨床心理システム論基本研究			
講義題目(和文)：臨床心理実習Ⅰ			
講義題目(英文)：Practicum in Clinical Psychology Ⅰ			

授業の目標・概要：学内研究機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関（精神科病院、クリニック、学校、産業組織など）において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねてカンファレンスにおいて事例検討を行う。形態として、受付事例を検討する初期カンファレンス、各ゼミで個別にカンファレンスを行う個別カンファレンス、各ゼミが合同して行う合同カンファレンスに分かれる。

授業のキーワード：カンファレンス　事例検討　現場研修

授業計画：1.オリエンテーション
2.個別カンファレンス
3.合同カンファレンス
4.個別カンファレンス
5.初期カンファレンス
6.個別カンファレンス
7.合同カンファレンス
8.個別カンファレンス
9.初期カンファレンス
10.個別カンファレンス
11.合同カンファレンス
12.個別カンファレンス
13.初期カンファレンス
14.個別カンファレンス
15.合同カンファレンス

授業の方法：毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。
受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する。

成績評価方法：出席状況と授業における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する。

履修上の注意：受講者の積極的なコミットメントを期待したい。

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/soudan/index.html

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-02	担当教員：下山　晴彦、高橋　美保	単位数：1	学期：冬

授業科目：臨床心理システム論基本研究

講義題目(和文)：臨床心理実習Ⅱ

講義題目(英文)：Practicum in Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。

テーマ：臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。

その点で、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。

授業のキーワード：内部実習、外部実習、社会性

授業計画：1.オリエンテーション

2.個別カンファレンス

3.合同カンファレンス

4.個別カンファレンス

5.初期カンファレンス

6.個別カンファレンス

7.合同カンファレンス

8.個別カンファレンス

9.初期カンファレンス

10.個別カンファレンス

11.合同カンファレンス

12.個別カンファレンス

13.初期カンファレンス

14.個別カンファレンス

15.合同カンファレンス

授業の方法：学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会

成績評価方法：レポート提出

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/soudan/index.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-03	**担当教員**：高橋　美保	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：臨床心理システム論基本研究

講義題目(和文)：臨床心理学特論Ⅱ

講義題目(英文)：Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性や集団をマネジメントする技法について、講義とワーク、ディスカッションを通して実践的に学ぶことをねらいとする。

授業のキーワード：コミュニティ、集団（グループワーク、家族)、人生の移行、セルフケア

授業計画：１．オリエンテーション
２．コミュニティにおける心理援助（１）
３．コミュニティにおける心理援助（２）
４．コミュニティにおける心理援助の実際（１）
５．コミュニティにおける心理援助の実際（２）
６．グループを通しての心理援助（１）
７．グループを通しての心理援助（２）
８．家族を通しての心理援助（１）
９．家族を通しての心理援助（２）
10．人生の移行について理解する（１）
11．人生の移行について理解する（２）
12．ストレスとバーンアウト（１）
13．ストレスとバーンアウト（２）
14．ストレスとバーンアウト（３）
15．振り返り

授業の方法：テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。

成績評価方法：発表、毎回のレポートにより総合的に評価する。

教科書：「心理援助の専門職として働くために」　金剛出版　下山晴彦（監訳）

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：発表をグループで担当することからも、グループ単位でのチームワークや集団力動を直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-04	**担当教員**：能智　正博	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：臨床心理システム論基本研究

講義題目(和文)：臨床心理面接特論Ⅱ

講義題目(英文)：Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。

この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としてはグラウンデッドセオリー・アプローチを基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。

授業のキーワード：質的データ、調査インタビュー、臨床面接、語り（ナラティヴ）

授業計画：以下のようなトピックを扱う。

・インタビューの諸理論
・インタビュー法のバリエーション
・インタビューの手順
・ナラティヴの分析の諸技法
・初期コーディングの手続き
・発展的コーディングの手続き

授業の方法：学期の前半では調査インタビューに関するテキストを素材にして、受講者は担当箇所の発表を行うとともに、ディスカッションのファシリテーターの役割を担う。並行して、授業外でインタビューを行ってデータを用意する。

学期の後半では、分析をいくつかのステップに分けて学んでいくが、受講生が語りのデータを提供し、それをエクササイズの材料として用いながら分析の手続きを学んでいく。収集したデータの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。

成績評価方法：出席と授業への参加：50%

レポート：50%

教科書：開講時に指示する。

参考書：『グラウンデッド・セオリーの構築』(K. Charmaz 著、医学書院, 2008)

『質的研究法』(能智正博著、東京大学出版会、2011)

履修上の注意：臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-05	**担当教員**：下山　晴彦	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究			
講義題目(和文)：臨床心理学特論Ⅰ			
講義題目(英文)：Clinical Psychology Ⅰ			

授業の目標・概要：臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学の全体像と学習にあたっての心構えについて講義する。特に心理援助職を目指すための心構え、教育訓練過程で必要とされる最低限の知識と技能とは何かについて、講義とディスカッションを通して学ぶことがねらいである。

授業のキーワード：臨床心理士になるために、臨床心理学パラダイム、心理援助職教育訓練

授業計画：§１：臨床心理学とは何か

§２−４：臨床心理士になることの意味／動機を探る

§５−７：臨床心理学の教育訓練の過程

§８−９：学習にあたっての心構え

§10−11：学習に臨む姿勢

§12−14：専門性の見直しと発展

§15：まとめ

授業の方法：レポーターによる発表と、グループディスカッションを中心を授業を進める。
グループダイナミクスを取り入れることによって、グループワークのファシリテートについても体験的に学ぶことが出来る構成とする。

成績評価方法：毎回の振り返りレポートの提出とレポーターを努めること、授業の最後に提出する課題レポートによって総合的に評価する。

教科書：コーリー＆コーリー（下山監訳）『心理援助の専門職になるために』　金剛出版

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：レポーターを務めることは、これまであまり経験してこなかった一対一や一対他の人間関係の体験的学びになる。積極的に臨み、自分自身の傾向について考えてみて頂きたい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-06	**担当教員**：下山　晴彦、石丸　径一郎	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究

講義題目(和文)：臨床心理査定演習Ⅰ

講義題目(英文)：Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅰ

授業の目標・概要：＜全体テーマ＞臨床心理学の実践活動におけるアセスメントの意義と役割、そしてその方法を解説し、シミュレーション学習を行うことを通して、実際に現場で活用できる準備をする。

テーマ：アセスメントの基礎知識と方法の解説

＊臨床活動におけるアセスメントの役割

＊アセスメントの過程と方法

＊精神障害の分類

＊異常心理学

＊ＤＳＭの解説と活用法

＊心理機能の正常と異常

＊見立ての形成：機能分析とケースフォームレーション

＊初回面接

授業のキーワード：アセスメント、異常心理学、診断

授業計画：１．臨床心理学と異常心理学概説１

２．臨床心理学と異常心理学概説２

３．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表①

４．ビデオによる異常心理解説

５．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表②

６．ビデオによる異常心理解説

７．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表③

８．ビデオによる異常心理解説

９．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表④

10．ビデオによる異常心理解説

11．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表⑤

12．ビデオによる異常心理解説

13．臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表⑥

14．ビデオによる異常心理解説

15・総括

授業の方法：１）臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表

２）ビデオによる異常心理解説

３）各障害についての研究成果の発表

成績評価方法：レポート提出

教科書：『臨床心理アセスメント入門』下山晴彦（著）　金剛出版

『テキスト臨床心理学別巻　理解のための手引き』下山晴彦（編著）誠信書房

参考書：『精神医学を知る」　金生由紀子・下山晴彦（編）　東京大学出版会

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-07	**担当教員**：下山　晴彦、高橋　美保	**単位数**：1	**学期**：夏

授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究

講義題目(和文)：臨床心理基礎実習Ⅰ

講義題目(英文)：Basic Practicum in Clinical Psychology Ⅰ

授業の目標・概要：＜全体テーマ＞臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。

テーマ：臨床面接法の基礎理論と技能実習

＊臨床面接法とは

＊臨床面接法の基礎理論と技能

＊共感的面接技能の基礎訓練

＊ロールプレイ実習１とグループ討議

＊査定的面接技能の基礎理論と技能

＊ロールプレイ実習２とグループ討議

テキスト：「心理臨床の基礎１：心理臨床の発想と実践」　岩波書店　下山晴彦（著）

授業のキーワード：ロールプレイ、体験学習、グループディスカッション、聞く／訊く

授業計画：§１ー２：レクチャー「臨床面接法とは」

§３ー９：共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り

§10ー14：アセスメント面接のロールプレイとその振り返り

§15：質疑応答

授業の方法：講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める。

成績評価方法：出席状況と授業へのアクティブな参加状況、学期末およびセッションの区切りで課すレポートとで総合的に判断する。

教科書：「臨床心理学を学ぶ１　これからの臨床心理学」東京大学出版会　下山晴彦（著）

「心理臨床の基礎１：心理臨床の発想と実践」　岩波書店　下山晴彦（著）

参考書：授業中に適宜紹介する。

履修上の注意：ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい。

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-08	**担当教員**：高橋　美保、石丸　径一郎	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達臨床心理学基本研究			
講義題目(和文)：臨床心理面接特論Ⅰ			
講義題目(英文)：Interview Methods for Clinical Psychology Ⅰ			

授業の目標・概要：目標：心理面接の実際の流れを把握し、面接の始まりから終結までの一連のケース運営の基礎的知識と実践力を獲得することを目標とする。

概要：実際のケース運営のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて一連の流れを理解し、様々な局面における臨床的論点について考えを深める。さらに、遊戯療法、保護者との並行面接のほか、コンサルテーションや研修についても取り上げ、実践的な知識と技法を獲得する。

授業のキーワード：インテーク面接、ケース運営、ケースの危機、ケースの終結、遊戯療法、発達障害、虐待、保護者面接、コワーク、コンサルテーション、研修

授業計画：１．インテーク面接の基礎

２．インテーク面接実習の実際

３．インテーク面接実習の訓練

４．ケース運営の様々な形

５．ケースの経過（危機、終結、引き継ぎ）

６．遊戯療法概説

７．遊戯療法の実際

８．発達障害の遊戯療法とは

９．発達障害の遊戯療法の実際

10. 虐待・トラウマ体験を持つ子どもを対象とする遊戯療法とは

11. 虐待・トラウマ体験を持つ子どもを対象とする遊戯療法の実際

12. 保護者面接とコワーク

13. コンサルテーション

14. 研修

15. 振り返り

授業の方法：各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。

成績評価方法：授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する。

教科書：特になし

参考書：特になし

履修上の注意：特になし

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-09	**担当教員**：石丸　径一郎、能智　正博	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：発達臨床心理学基本研究

講義題目(和文)：臨床心理査定演習Ⅱ

講義題目(英文)：Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：目標：心理アセスメント―見立てをたてるということ―は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、臨床心理面接におけるクライエントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目標とする。

概要：はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査を実施しあい、検査結果を書きあげるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。

授業のキーワード：心理アセスメント、心理検査、心理援助、質問紙検査、構造化面接検査、発達検査、知能検査、神経心理学的検査、投映法、ロールシャッハ・テスト、文章完成法、SCT、描画法

授業計画：1. ガイダンス
2. 臨床心理士の仕事と心理検査
3. 様々な質問紙検査の解説と実習
4. 神経心理学的検査概説
5. 神経心理学的検査各論 I
6. 神経心理学的検査各論 II
7. 児童用知能検査 I
8. 児童用知能検査 II
9. 成人用知能検査 I
10. 成人用知能検査 II
11. ロールシャッハテスト I
12. ロールシャッハテスト II
13. 所見の書き方・伝え方 I
14. 所見の書き方・伝え方 II
15. まとめ

授業の方法：講義とロールプレイをおこなう。

成績評価方法：授業への参加状況によって評価する。

教科書：なし。

参考書：なし。

履修上の注意：臨床心理学コースの学生のみ受講可能。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-10	**担当教員**：高橋　美保、下山　晴彦	**単位数**：1	**学期**：冬

授業科目：発達臨床心理学基本研究

講義題目(和文)：臨床心理基礎実習Ⅱ

講義題目(英文)：Basic Practicum in Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：心理教育相談室を具体的な事例としながら組織の実際を学ぶことによって、社会的活動としての臨床実践の基礎を理解する。さらに、遊戯療法についての理論を理解した上で、児童臨床現場で役立つ様々なアプローチの理論と実践について、事例や体験を通して包括的に学ぶ。

授業のキーワード：組織、遊戯療法、子ども、箱庭療法、イメージ療法、認知行動療法

授業計画：１．ガイダンス

２．相談機関の組織とは

３．相談機関の組織の実際

４．相談室を学ぶ

５．相談申込み

６．遊戯療法のトピックス基礎

７．遊戯療法のトピックス実際

８．遊戯療法のトピックス応用

９．箱庭療法とは

10. 箱庭療法の実際

11. イメージ療法とは

12. イメージ療法の実際

13. 子どもの認知行動療法とは

14. 子どもの認知行動療法の実際

15. 振り返り

授業の方法：概説とディスカッションを中心とする。
ただし、内容によっては、ロールプレイやワークなども交える。

成績評価方法：授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する。

教科書：特になし

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：特になし

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-11	担当教員：北島　歩美	単位数：2	学期：夏
授業科目：臨床心理システム論特殊研究			
講義題目(和文)：家族相談演習Ⅰ			
講義題目(英文)：Family Counseling Ⅰ			
授業の目標・概要：事例を通して、家族関係についてのアセスメント方法、家族関係への介入方法を学ぶことを目的とする。 授業のキーワード：家族関係,アセスメント,介入 授業計画：その都度、事例を用いてスーパーヴィジョンを行う。 授業の方法：少人数での事例検討会 成績評価方法：平常点 教科書：特になし 参考書：特に指定しない			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-12	担当教員：北島　歩美	単位数：2	学期：冬
授業科目：臨床心理システム論特殊研究			
講義題目(和文)：家族相談演習Ⅱ			
講義題目(英文)：Family Counseling Ⅱ			
授業の目標・概要：事例を通して、家族関係についてのアセスメント方法、家族関係の介入方法をを学ぶことを目的とする。 授業のキーワード：家族関係,アセスメント,介入 授業計画：その都度、事例を用いてスーパーヴィジョンを行う。 授業の方法：少人数での事例検討会 成績評価方法：平常点 教科書：特になし 参考書：特に指定しない			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-13	**担当教員**：松澤　広和	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：発達臨床心理学特殊研究

講義題目(和文)：老年期の心理臨床Ⅰ

講義題目(英文)：Psychotherapy for the Elderly Ⅰ

授業の目標・概要：高齢者人口の増加に伴い、高齢者の認知症・うつ病・虐待・犯罪の増加・介護者家族の問題など、取り組むべき課題も多岐に渡るようになっている。
この講義では、高齢者およびその家族に対する心理的援助の方法について理解を深めることを目的とする。

授業のキーワード：高齢者　心理アセスメント　認知症　うつ病　回想法

授業計画：第１回：オリエンテーション
第２回：基礎　老年期精神障害とその心理的特徴（１）認知症①
第３回：基礎　老年期精神障害とその心理的特徴（２）認知症②
第４回：基礎　老年期精神障害とその心理的特徴（３）うつ病
第５回：基礎　老年期精神障害とその心理的特徴（４）家族の問題
第６回：基礎　老年期精神障害とその心理的特徴（５）まとめ
第７回：基礎　高齢者に対する心理アセスメントの方法（１）認知症の中核症状
第８回：基礎　高齢者に対する心理アセスメントの方法（２）認知症の周辺症状
第９回：基礎　高齢者に対する心理アセスメントの方法（３）うつ病
第１０回：基礎　高齢者に対する心理アセスメントの方法（４）家族の問題
第１１回：基礎　高齢者に対する心理アセスメントの方法（５）まとめ
第１２回：基礎　高齢者に対する心理的援助の方法（１）情動へのアプローチ
第１３回：基礎　高齢者に対する心理的援助の方法（２）認知機能へのアプローチ
第１４回：基礎　高齢者に対する心理的援助の方法（３）家族支援
第１５回：基礎　高齢者に対する心理的援助の方法（４）まとめ

授業の方法：講義に加え、事例検討やロールプレイなどを用いて実施する。

成績評価方法：講義への参加姿勢、講義内での発言等によって評価する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-14	**担当教員**：松澤　広和	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達臨床心理学特殊研究			
講義題目(和文)：老年期の心理臨床Ⅱ			
講義題目(英文)：Psychotherapy for the Elderly Ⅱ			

授業の目標・概要：夏学期に引き続き、高齢者を取り巻く心理的問題への理解と対応について扱う。

授業のキーワード：高齢者　心理アセスメント　認知症　うつ病　回想法

授業計画：第１回：オリエンテーション

第２回：応用　老年期精神障害とその心理的特徴（１）認知症①

第３回：応用　老年期精神障害とその心理的特徴（２）認知症②

第４回：応用　老年期精神障害とその心理的特徴（３）うつ病

第５回：応用　老年期精神障害とその心理的特徴（４）家族の問題

第６回：応用　老年期精神障害とその心理的特徴（５）まとめ

第７回：応用　高齢者に対する心理アセスメントの方法（１）認知症の中核症状

第８回：応用　高齢者に対する心理アセスメントの方法（２）認知症の周辺症状

第９回：応用　高齢者に対する心理アセスメントの方法（３）うつ病

第１０回：応用　高齢者に対する心理アセスメントの方法（４）家族の問題

第１１回：応用　高齢者に対する心理アセスメントの方法（５）まとめ

第１２回：応用　高齢者に対する心理的援助の方法（１）情動へのアプローチ

第１３回：応用　高齢者に対する心理的援助の方法（２）認知機能へのアプローチ

第１４回：応用　高齢者に対する心理的援助の方法（３）家族支援

第１５回：応用　高齢者に対する心理的援助の方法（４）まとめ

授業の方法：講義に加え、事例検討やロールプレイなどを用いて実施する。

成績評価方法：講義への参加姿勢、講義内での発言等によって評価する。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-15	**担当教員**：下山　晴彦、高橋　美保	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：発達臨床心理学特殊研究

講義題目(和文)：メンタルヘルスマネジメント基礎

講義題目(英文)：Mental Health Management Basic

授業の目標・概要：テーマ：認知行動療法の基礎と発展

近年、心理障害や精神障害に関連する問題解決のための主要方法となっている認知行動療法（ＣＢＴ）について、体系的に学習し、最終的には臨床実践で自在に活用できるようになることを目的とする。参加者は、臨床実践の経験のある者、あるは今後実践をする可能性が高い者とする。

最初は、担当教員が認知行動療法の理論体系と技法体系を講義する。その後はＯＣＤやうつ病のＣＢＴプログラムの事例を検討するとともに、ＣＢＴをコンピュータ化するための応用研究を発展させる。

また、外部講師を招いてのワークショップも企画している。

参加者は、認知行動療法が実際の現場でどのように活用されているのかを知るために、下記の参考書を読んでおくことが望ましい。

■参考書：『専門職としての臨床心理士』Hall 他著　下山訳　東京大学出版会

授業のキーワード：認知行動療法、問題解決、精神障害、コンピュータ化

授業計画：１．臨床心理学と認知行動療法

２．認知行動療法の理論と方法Ⅰ

３．認知行動療法の理論と方法Ⅱ

４．ＯＣＤの認知行動療法

５．うつ病の認知行動療法

６．認知行動療法の技法①

７．認知行動療法の技法②

８．認知行動療法の技法③

９．認知行動療法のコンピュータ化

10. 認知行動療法のコンピュータ化

11. 認知行動療法のコンピュータ化

12. 認知行動療法のコンピュータ化

13. 認知行動療法のコンピュータ化

14. 認知行動療法のコンピュータ化

15. 認知行動療法のコンピュータ化

授業の方法：教員の講義＋参加者の実践報告＋参加者の研究報告＋討論

成績評価方法：レポート提出

教科書：臨床心理アセスメント入門　下山晴彦（著）　金剛出版　2009

認知行動療法を学ぶ　下山晴彦（編著）　金剛出版　2011

参考書：『専門職としての臨床心理士』Hall 他著　下山訳　東京大学出版会

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-16	**担当教員**：高橋　美保、下山　晴彦	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達臨床心理学特殊研究			
講義題目(和文)：メンタルヘルスマネジメント応用			
講義題目(英文)：Mental Health Management Advanced			

授業の目標・概要：本授業は、メンタルヘルスマネジメント基礎で学んだメンタルヘルスの基礎知識をベースとして、その知識を”働く人”という特定のフィールドに展開する。具体的には、働く人のストレスについての基礎知識と基礎理論を学び、様々な心理的援助の技法を獲得することを目的とする。

授業のキーワード：働く人のストレス、認知行動療法、精神障害、キャリア、ワークライフバランス、セルフヘルプ、タイムマネジメント、アサーション、人間関係、リラクゼーション、仕事へのコミットメント

授業計画：１．働く人のストレスの現状と課題
２．働く人の心理的援助－事例から
３．働く人の精神障害
４．働く人の援助要請
５．職業性ストレスと認知行動療法
６．ストレス理論
７．キャリア理論
８．ポジティブ心理学とワークエンゲイジメント
９．ワークライフバランス
１０．働く人のセルフヘルプスキル－気づきとモニタリング
１１．働く人のセルフヘルプスキル－タイムマネジメントのスキル
１２．働く人のセルフヘルプスキル－アサーションスキル
１３．働く人のセルフヘルプスキル－対人関係スキル
１４．働く人のセルフヘルプスキル－リラクゼーション
１５．働く人のセルフヘルプスキル－仕事へのコミットメント

授業の方法：授業はゲストスピーカーを含めた講義形式と、研究発表、原書購読などによって進める。

成績評価方法：授業への参加態度、発表、レポートなどによって総合的に判断する。

教科書：適宜紹介する。

参考書：適宜紹介する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-17	**担当教員**：能智　正博	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：臨床心理カリキュラム論特殊研究			
講義題目(和文)：臨床心理学研究法Ⅰ			
講義題目(英文)：Research Methods in Clinical Psychology Ⅰ			

授業の目標・概要：近年、臨床心理学領域においてますます研究活動が重視されるようになっているが、質的研究法はそのなかでも特に注目されている方法である。この授業では、質的研究の基本文献や論文を読みながらその背景や理論について議論を深める。

本年は、質的研究のなかでも文脈のなかでの解釈や分析を重視するディスコース分析やナラティヴ分析に焦点をあて、その原理や技法の理解を深めることを目標とする。

授業のキーワード：質的研究,ディスコース,ナラティヴ,心理学研究法,研究評価

授業計画：学期の前半では質的研究法についての概説文献を読んで、質的研究の現在についての一般的な議論を押さえておく。

学期の後半では、ディスコース分析やナラティヴ分析の論文を読み、サンプルデータを用いた実習を行うことで、その分析法の理解を深める。７月は、クラーク大学の Michael Bamberg 教授をゲスト講師としてお招きし、ディスコース分析の実際を学んでいく。

授業の方法：学期の前半は輪読方式で、受講生が文献のレジュメを作ってその内容を紹介すると同時に、分析技法上の長所・短所などについて議論を進めながら、ディスコース分析やナラティヴ分析についての理解を深める。学期の後半は、Bamberg 教授の来日に合わせて、具体的なデータを用いた実習を行う。

成績評価方法：出席と授業への参加：50%

レポート：50%

教科書：開講時に指示する。

参考書：能智正博（2011）質的研究法（東京大学出版会）

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：216-18	**担当教員**：石丸　径一郎	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：臨床心理カリキュラム論特殊研究

講義題目(和文)：臨床心理学研究法Ⅱ

講義題目(英文)：Research Methods in Clinical Psychology Ⅱ

授業の目標・概要：臨床心理学的な対人援助技法には、効果がありそれが持続すること、副作用や害がないことについて、良質なエビデンスが存在することが望ましい。本授業では、良質なエビデンスを見出すための量的研究の方法を扱う。研究の遂行そのものだけでなく、研究の着想・計画から、発表の仕方までを概観し、研究者として必要と考えられるスキルを身につけることを目指す。

授業のキーワード：臨床心理学,量的研究,研究テーマ,研究デザイン,研究対象者,測定,サンプルサイズ,コホート研究,ケースコントロール研究,ランダム化比較試験,測定尺度,心理検査,研究倫理,質問紙調査,データ管理,研究プロトコール,論文執筆,学会発表

授業計画：1. ガイダンス

2. 英語論文の読み方

3. 研究テーマを選ぶ

4. コホート研究 I

5. コホート研究 II

6. ケースコントロール研究 I

7. ケースコントロール研究 II

8. コホート研究 I

9. コホート研究 II

10. ランダム化比較試験 I

11. ランダム化比較試験 II

12. 測定尺度・心理検査の開発 I

13. 測定尺度・心理検査の開発 II

14. 研究倫理の問題

15. 研究の発表

授業の方法：基本的には、テキストの各回に該当する部分を事前に読んでおくこととする。受講生は、関心のある分野の具体的な研究例について、テキストで指摘されている観点から授業の中で発表をおこなう。

成績評価方法：授業への参加状況によって評価する。

教科書：Hulley ら『医学的研究のデザイン 第 3 版』(メディカル・サイエンス・インターナショナル、2009)

参考書：石丸径一郎『調査研究の方法』(新曜社、2011)

Lang『トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド』(シナジー、2012)

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：216-19	担当教員：下山　晴彦、星加　良司	単位数：2	学期：夏冬

授業科目：発達臨床心理学論文指導

講義題目(和文)：臨床心理学論文指導

講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology

授業の目標・概要：臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。

授業のキーワード：修士論文,博士論文,実証的方法

授業計画：１．ブレインストーミング

２．プレインストーミング

３．ブレインスト―ミング

４．先行研究レヴュー

５．先行研究レヴュー

６．先行研究レヴュー

７．先行研究レヴュー

９．構想発表

10．構想発表

11．構想発表

12．構想発表

13．論文中間発表

14．論文中間発表

15．論文中間発表

授業の方法：個別指導と小集団討論

成績評価方法：発表内容による評価

教科書：「心理学の実践的研究法を学ぶ」　2008　下山晴彦・能智正博（編）新曜社

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-20	**担当教員**：能智　正博	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：臨床心理カリキュラム論論文指導			
講義題目(和文)：臨床心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。 **授業のキーワード**：臨床心理学,質的研究 **授業計画**：受講生は１年に２回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。１回目の発表とディスカッションの結果を受けて、２回目では研究をさらに進めた段階の発表を行う。 **授業の方法**：発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。 **成績評価方法**：平常点。 **教科書**：特になし。 **参考書**：適宜指示する。 **履修上の注意**：臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-21	**担当教員**：高橋　美保	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：臨床心理システム論論文指導			
講義題目(和文)：臨床心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理システム論の分野で修士論文、または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。 **授業のキーワード**：臨床心理システム論,コミュニティ,論文指導,研究計画 **授業計画**：受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。 **授業の方法**：研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。 **成績評価方法**：平常点 **教科書**：特になし **参考書**：特になし **履修上の注意**：特になし **その他**：特になし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-22	**担当教員**：石丸　径一郎	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：臨床心理システム論論文指導			
講義題目(和文)：臨床心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理学の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導、論文指導をおこなう。 **授業のキーワード**：臨床心理学,研究,論文執筆,学会発表 **授業計画**：１．オリエンテーション ２～１５．研究活動進捗状況の発表、グループディスカッション **授業の方法**：毎回、参加者が研究進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。 **成績評価方法**：授業への参加状況、研究の進捗状況によって評価する。 **教科書**：なし。 **参考書**：なし。 **履修上の注意**：臨床心理学コースの学生のみ受講可能。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-23	**担当教員**：福島　智	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：発達臨床心理学特殊研究

講義題目(和文)：障害学演習

講義題目(英文)：Seminar in Disability Studies

授業の目標・概要：「障害学」は、障害児・者を単に医療や福祉、特殊教育の対象としてのみとらえるのではなく、「障害」という切り口をとおして、人間の営みや社会のあり方を問い直すことをめざす学問・研究領域である。

授業のキーワード：障害,障害学,バリアフリー,ユニバーサル・デザイン,平等（論）,能力主義,障害者権利条約（差別禁止法）,障害者自立支援法,総合福祉法,盲ろう者（視覚・聴覚重複障害者）,ヘレン・ケラー,「盲ろう」という障害がもたらす困難,「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション,人間にとっての言語・コミュニケーション,コミュニケーションを支える感覚情報,コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈,「苦悩」と「生」

授業計画：１：障害＝　障害者、障害の定義

２：障害学＝　ディスアビリティ・スタディーズ、障害学の国内外の研究・実践動向

３：バリアフリーとユニバーサル・デザイン＝　バリアフリーとユニバーサル・デザインの概念と実践、両概念の関係と実践をめぐる状況

４：平等（論）＝　障害をめぐる平等、現代政治・経済と平等論の関係

５：能力主義（メリトクラシー＝　「能力」をどう把握するか、「能力」と価値の序列）

６：障害者権利条約（差別禁止法）＝　障害者権利条約、（障害者）差別禁止法

７：障害者自立支援法と総合福祉法＝　わが国における障害者施策の変遷、今後の展望

８：盲ろう者（視覚・聴覚重複障害者）＝　「盲ろう」(deafblindness)、盲ろう者の実状

９：ヘレン・ケラー＝　盲ろう者としてのヘレン・ケラーの障害と生涯、アニー・サリヴァン

１０：「盲ろう」という障害がもたらす困難＝　コミュニケーションと情報の入手、移動

１１：「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション＝　「感覚」遮断と人間への影響、コミュニケーションは人にとってどういう意味を持つか

１２：人間にとっての言語・コミュニケーション＝　人にとってのコミュニケーションの意味、知的発達と感情的成長との関係

１３：コミュニケーションを支える感覚情報＝　コミュニケーションを支える非言語的情報、非言語的情報はどれほどコミュニケーションに貢献しているか？

１４：コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈＝　「文脈」とは何か、「感覚・言語的文脈」とコミュニケーション

１５：「苦悩」の意味と「生」の意味＝　「苦悩」とは何か、我々の「生」を支えるものは何か。

授業の方法：本演習では、障害学関連の参考文献を参照しつつ、参加メンバー相互のディスカッションをとおして、「障害」をとりまく現代日本の状況について考察を深める。

成績評価方法：平常点

教科書：＊以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。

『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)

『障害学』杉野昭博、東京大学出版会(2007)

『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル、みすず書房(2002)

『障害者自立支援法違憲訴訟』生活書院(2011)

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：216-24	担当教員：福島　智	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：発達臨床心理学論文指導			
講義題目(和文)：障害学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Disability Studies			

授業の目標・概要：臨床心理学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。

授業のキーワード：障害,障害学,バリアフリー,ユニバーサル・デザイン,平等（論）,能力主義,障害者権利条約（差別禁止法）,障害者自立支援法,総合福祉法,盲ろう者（視覚・聴覚重複障害者）,ヘレン・ケラー,「盲ろう」という障害がもたらす困難,「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション,人間にとっての言語・コミュニケーション,コミュニケーションを支える感覚情報,コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈,「苦悩」と「生」

授業計画：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。

成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。

教科書：＊以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。

『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)

『障害学』杉野昭博、東京大学出版会(2007)

『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル、みすず書房(2002)

『障害者自立支援法違憲訴訟』生活書院(2011)

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-25	担当教員：中嶋　義文	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：臨床心理システム論論文指導			
講義題目(和文)：臨床心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology			

授業の目標・概要：医療における臨床心理（特に一般医療における心理学的援助＝コンサルテーション･リエゾン）および産業における臨床心理の研究･調査（フィールドワーク）･論文作成への助指導を行う。

授業の方法：個別相談

成績評価方法：業績評価

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-26	担当教員：原田　誠一	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：臨床心理システム論論文指導			
講義題目(和文)：臨床心理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理学の分野で学位論文を書く大学院生を対象として、精神科医の立場から研究遂行・論文作成に関する助言、指導を行う。 授業のキーワード：臨床心理学,臨床研究 授業計画：個別の助言・指導を中心とするが、必要に応じてグループ形式での助言・指導の機会も設ける。 授業の方法：参加者に研究の進捗状況を報告してもらい、必要事項に関するディスカッションを行う。 成績評価方法：「授業への参加状況」と「研究の進捗の度合」によって評価する。 教科書：なし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-27	担当教員：森田　慎一郎	単位数：2	学期：夏
授業科目：発達臨床心理学特殊研究			
講義題目(和文)：心理療法特論：スーパービジョンⅠ			
講義題目(英文)：Clinical Supervision Ⅰ			
授業の目標・概要：臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。自らが担当するケースを客観的に捉えるための視点を養うことを目標とする。 授業のキーワード：臨床心理学、スーパービジョン 授業計画：１．イントロダクション ２．コミュニケーションについて（１） ３．コミュニケーションについて（２） ４．クライエントとの関係について（１） ５．クライエントとの関係について（２） ６．クライエントとの関係について（３） ７．アセスメントについて（１） ８．アセスメントについて（２） ９．アセスメントについて（３） 10．アセスメントについて（４） 11．見立てについて（１） 12．見立てについて（２） 13．見立てについて（３） 14．見立てについて（４） 15．振り返りとまとめ 授業の方法：ケースの担当者毎に個別に行う形式を基本とする。 成績評価方法：スーパービジョンを受けるための準備と、受けた後のケースでの展開をもとに総合的に評価する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：216-28	**担当教員**：森田　慎一郎	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：発達臨床心理学特殊研究			
講義題目(和文)：心理療法特論：スーパービジョンⅡ			
講義題目(英文)：Clinical Supervision Ⅱ			

授業の目標・概要：臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。自らが担当するケースで問題に直面した場合の対処能力を向上させることを目標とする。

授業のキーワード：臨床心理学、スーパービジョン

授業計画：1．イントロダクション

2．技法について（1）

3．技法について（2）

4．技法について（3）

5．介入について（1）

6．介入について（2）

7．介入について（3）

8．効果の検証について（1）

9．効果の検証について（2）

10．効果の検証について（3）

11．各種心理障害への対応について（1）

12．各種心理障害への対応について（2）

13．各種心理障害への対応について（3）

14．各種心理障害への対応について（4）

15．振り返りとまとめ

授業の方法：ケースの担当者毎に個別に行う形式を基本とする。

成績評価方法：スーパービジョンを受けるための準備と、受けた後のケースでの展開をもとに総合的に評価する。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　身体教育学コース

科目番号：217-01	**担当教員**：野崎　大地	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：身体教育科学基本研究			
講義題目(和文)：身体教育科学の諸問題Ⅰ			
講義題目(英文)：Topics in Physical Education Ⅰ			
授業の目標・概要：身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されようとしているか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。 **授業のキーワード**：身体運動の制御,運動学習,脳神経系,筋骨格系 **授業計画**：初回のガイダンス：教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。 二回目以降：担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。 **授業の方法**：担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。 **成績評価方法**：出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。 **履修上の注意**：本学他研究科学生　履修可（５名まで） 特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）　履修可（５名まで） **関連ホームページ**：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~nozaki/nozaki_wiki **その他**：資料配布のためのホームページの ID、パスワードは講義初回に知らせる。			

本研究科他コース学生	**本 学 他 研 究 科 学 生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：217-02	**担当教員**：山本　義春	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育生理学基本研究			
講義題目(和文)：身体システム論Ⅰ			
講義題目(英文)：System Analysis of Human Activity Ⅰ			
授業の目標・概要：人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、「臓器と個体」「神経細胞と脳」「個人と社会」など、「要素と全体」を繋ぐ数理モデルを中心に、複雑適応系・創発システム・自己組織系などに関する研究論文を輪読する。 **授業計画**：過去本講義で取り上げた論文については http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html を参照のこと。新たな論文情報は適宜掲載する。 **授業の方法**：論文の選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で討論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。 **成績評価方法**：平常点（出席・発表）による評価。 **履修上の注意**：生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミクス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。 **関連ホームページ**：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html			

本研究科他コース学生	**本 学 他 研 究 科 学 生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：217-03	**担当教員**：多賀　厳太郎	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：発達脳科学基本研究			
講義題目(和文)：発達脳科学特論Ⅰ			
講義題目(英文)：Developmental Brain Sciences Ⅰ			
授業の目標・概要：ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、発達心理学、認知科学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。履修者による、関連領域の文献報告、研究発表等を行う。 **授業のキーワード**：発達、脳、認知科学、複雑系、神経科学 **授業計画**：第１回　教員による発達脳科学についての概説 第２回ー第１５回　受講者による発表と討論 **授業の方法**：担当者による発表と参加者全員によるディスカッション **成績評価方法**：発表および平常点で評価する。 **教科書**：特に指定しない **参考書**：特に指定しない **関連ホームページ**：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tagalab/lecture.html			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：217-04	**担当教員**：佐々木　司	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：健康教育学基本研究			
講義題目(和文)：健康教育学の諸問題Ⅰ			
講義題目(英文)：Topics in Health Education Ⅰ			
授業の目標・概要：精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。また国際誌への論文投稿・受理に必要な、英文文献の読解力・速読力、英文論文の記述力を養うことも本授業の重要な目標の１つである。 **授業のキーワード**：Mental Health、Prevention、Psycho-education、Lifestyle、Behavior、Development **授業の方法**：初回の授業で指定する文献（基本的に英文の original article)から、各回１-２本ずつ選び、その回を担当する学生が紹介、それについての議論を行うことで、健康教育研究に必要な基本的知識の理解・習得を目指す。文献の紹介および議論では、特に研究方法についての理解を重視する。また授業の後半では、担当者 2 名程度が当日持参する論文を、その場で読み、持参者以外の出席者がその内容を説明する形式での英文文献抄読トレーニングも行う。 **成績評価方法**：通常点（出席と発表の評価） **教科書**：特に指定しない（発表する文献については、第 1 回目に keywords や文献の例を示す)。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：217-05	**担当教員**：野崎　大地	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：身体教育科学特殊研究			
講義題目(和文)：身体教育科学の諸問題Ⅱ			
講義題目(英文)：Topics in Physical Education Ⅱ			
授業の目標・概要：身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されようとしているか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。 **授業のキーワード**：身体運動の制御,運動学習,脳神経系,筋骨格系 **授業計画**：初回のガイダンス：教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。 二回目以降：担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。 **授業の方法**：担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。 **成績評価方法**：出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。 **履修上の注意**：本学他研究科学生　履修可（５名まで） 特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）　履修可（５名まで） **関連ホームページ**：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~nozaki/nozaki_wiki			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：217-06	**担当教員**：山本　義春	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育生理学特殊研究			
講義題目(和文)：身体システム論Ⅱ			
講義題目(英文)：System Analysis of Human Activity Ⅱ			
授業の目標・概要：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 **授業計画**：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 **授業の方法**：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 **成績評価方法**：平常点（出席・発表）による評価。 **履修上の注意**：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 **関連ホームページ**：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：217-07	担当教員：多賀　厳太郎	単位数：2	学期：冬

授業科目：発達脳科学特殊研究

講義題目(和文)：発達脳科学特論Ⅱ

講義題目(英文)：Developmental Brain Sciences Ⅱ

授業の目標・概要：夏学期に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、発達心理学、認知科学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。履修者による、関連領域の文献報告、研究発表等を行う。

授業のキーワード：発達、脳、認知科学、複雑系、神経科学

授業計画：第１回　教員による発達脳科学についての概説

第２回ー第１５回　受講者による発表と討論

授業の方法：担当者による発表。参加者全員によるディスカッション。

成績評価方法：発表および平常点で評価する。

教科書：特に指定しない

参考書：特に指定しない

関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tagalab/lecture.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：217-08	担当教員：佐々木　司	単位数：2	学期：冬

授業科目：健康教育学特殊研究

講義題目(和文)：健康教育学の諸問題Ⅱ

講義題目(英文)：Topics in Health Education Ⅱ

授業の目標・概要：健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。

授業のキーワード：Mental Health、Cross-sectional study、Logitudinal study、Behavior、Lifestyle、Psychoeducation

授業の方法：健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。

成績評価方法：通常点（出席と発表の評価）

教科書：特に指定しない。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　不可

科目番号：217-09	担当教員：野崎　大地	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：身体教育科学論文指導			
講義題目(和文)：身体教育科学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Physical Education			
授業の目標・概要：オリジナリティの高い身体教育科学研究を遂行し、論文としてまとめあげるための指導を行う。 授業のキーワード：身体運動の制御,運動学習,脳神経系,筋骨格系 授業の方法：毎週、ミーティング形式で研究進捗状況の発表、もしくは関連研究論文の紹介を行い、出席者全員で討論する。 成績評価方法：平常点 履修上の注意：本学他研究科学生　履修不可 特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）　履修不可 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~dnl			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-10	担当教員：山本　義春	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：教育生理学論文指導			
講義題目(和文)：教育生理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Physiology			
授業の目標・概要：教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。 授業の方法：随時討論会を行う。 成績評価方法：平常点（出席）による評価。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-11	担当教員：多賀　厳太郎	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：発達脳科学論文指導			
講義題目(和文)：発達脳科学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Developmental Brain Sciences			
授業の目標・概要：発達脳科学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。 授業の方法：討論を中心とする。 成績評価方法：総合的に評価する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-12	**担当教員**：佐々木　司	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：健康教育学論文指導			
講義題目(和文)：健康教育学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Health Education			
授業の目標・概要：健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表し、議論を行う **授業のキーワード**：Public Health,Mental Health,Psychoeducation,Lifestyle,Genome,Environment **授業の方法**：各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。 **成績評価方法**：通常点 **教科書**：特になし。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-13	**担当教員**：東郷　史治	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育生理学論文指導			
講義題目(和文)：教育生理学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Physiology			
授業の目標・概要：教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。 **授業のキーワード**：教育生理学,研究指導,論文指導 **授業の方法**：研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。 **成績評価方法**：平常点			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-14	**担当教員**：森田　賢治	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：身体教育科学論文指導			
講義題目(和文)：身体教育科学論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Physical Education			
授業の目標・概要：身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う。 **授業の方法**：履修者全員での討論を中心とする。 **成績評価方法**：平常点			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：217-15	担当教員：西田　淳志	単位数：2	学期：夏冬

授業科目：身体教育科学特殊研究

講義題目(和文)：思春期の心身発達疫学

講義題目(英文)：Developmental Epidemiology of Adolescent Mind & Body

授業の目標・概要：思春期は第二次性徴とともに始まるヒトに固有の発達期である。この時期には、性成熟など身体的成長のみならず精神機能とその基盤となる脳においてもダイナミックな変化が生じている。本講義では、近年各国で取り組まれている大規模発達コホート研究の成果やそれに基づいた若者支援施策等を概観しながら、ヒト固有の発達期である「思春期」について進化心理学、神経科学、社会医学（疫学）等の観点から多面的に捉え、その前後の小児期や成人期とのつながりを踏まえながら生涯における思春期の意義と重要性を理解する。

授業のキーワード：思春期,第二次性徴,性成熟,精神機能,メンタルヘルス,発達,進化心理学,コホート研究,疫学,神経科学

授業計画：1.思春期の健康と発達（概論）
2.第二次性徴と心身の発達
3.性ホルモンと精神機能
4.いじめ行動の科学的理解
5.反抗期の科学的理解
6.性行動の科学的理解
7. 社会階層と思春期の健康・発達
8.思春期の健康増進・疾病予防
9.根拠に基づく学校保健戦略
10.発達コホートの実際：1946 年全英国家出生コホート研究
11.発達コホートの実際：Tokyo Teen Cohort 研究
12.少子化時代の若者支援政策
13.グループプレゼンテーション①
14.グループプレゼンテーション②
15.総合討論

授業の方法：講義とグループディスカッション

成績評価方法：課題レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）、積極的な授業への参加（40%）

教科書：実施時に適宜資料を配布

参考書：フィル・シルバ他『ダニーディン子どもの健康と発達に関する長期追跡研究』(明石書店 2010)

履修上の注意：講義の中で随時、グループによる協議を行う。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：217-16	**担当教員**：菊地　裕絵	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：身体教育科学特殊研究

講義題目(和文)：日常生活下の心身相関調査の教育・健康科学応用

講義題目(英文)：Application of Ambulatory Psychosomatic Assessment in Education and Health Science

授業の目標・概要：近年、行動医学・健康心理学領域を中心に、生態学的妥当性の高い調査として、携帯型コンピュータやセンサを利用して日常生活下で事象を評価記録する日常生活下調査が重要視されてきている。本講義では特に心身相関（心理社会的因子と身体の関連）に関連する日常生活下調査について解析法を含む具体的な手法から今後の発展可能性まで、当該分野の代表的な文献に触れながら学ぶ。講義後半では、日常生活下調査の実際について、実際に調査やデータの取り扱いを体験しながら学習し、教育・健康科学分野への応用について考える。

授業のキーワード:心身相関,日常生活下調査,生態学的妥当性,想起に伴うバイアス,ホルター心電図,24 時間血圧計,アクチグラフ,マルチレベル解析

授業計画：1. 心身相関総論
2. 心身相関各論
3. なぜ日常生活下調査なのか
4. 食行動に関する日常生活下調査
5. 生理指標に関する日常生活下調査
6. 生理指標・行動に関する日常生活下調査
7. 日常生活下調査データの解析
8. 日常生活下調査を用いた心身相関調査
9. 日常生活下調査の関連領域
10. 今後の発展（1）
11. 今後の発展（2）
12. 日常生活下調査体験実習
13. 日常生活下調査データ解析実習（1）
14. 日常生活下調査データ解析実習（2）
15. まとめ

授業の方法：講義および実習をおこなう。

成績評価方法：レポート（80%）に平常点（出席・授業参加態度等；20%）を合わせて評価する。

教科書：参考図書および文献は講義の際に提示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

学校教育高度化専攻　教職開発コース

科目番号：301-01	**担当教員**：藤江　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教職開発・理論研究（授業研究・基礎研究）			
講義題目(和文)：授業研究の理論と方法			
講義題目(英文)：Theory and Method of Research on Teaching and Curriculum			

授業の目標・概要：授業研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究の理論について、理念や歴史、研究主体の違いによる、研究視点や背景となる理論、目的の多様性に着目しながら、研究者として、あるいは実践者としてどのように授業研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。さらには、教師の専門的熟達を支える授業研究や校内研修体制を研究者や教育行政担当者としてどのように構築し支援していくかについて議論する。

授業研究の、教育学研究、教師の学習環境、教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。

授業のキーワード：授業研究,教師,研修,教師の学習,教育学研究

授業計画：Christopher Day(Eds.) 2011 The Routledge International Handbook of Teacher and School Development, Routledge.をはじめ、国内外の「授業研究」に関する文献を講読し、授業研究の多様なあり方、研究のすすめ方などについて議論する。

授業の方法：第１回　ガイダンス

第２回～第１５回　発表担当者による文献の概要報告および議論と解説

成績評価方法：報告や議論への参加状況による平常点ならびに期末レポートによる。

教科書：授業中に指定する。

参考書：日本教育方法学会（編）『日本の授業研究』（上・下）学文社

北神・佐野・木原(著)『学校改善と校内研修の設計』学文社

この他、授業中に紹介する。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-02	**担当教員**：浅井　幸子	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・基礎研究）			
講義題目(和文)：教育実践の歴史的研究			
講義題目(英文)：Historical Research on Educational Practice			

授業の目標・概要：授業を中心とする教育実践は、その歴史によって構成され規定されている。この授業では研究論文の講読を通して、教育実践を歴史的に捉えること、その方法を考察することを目指す。

授業のキーワード：教育史　教育実践　授業

授業計画：第１回：授業のオリエンテーション

第２回～第１４回：トピックに即して論文を読みディスカッションを行う。以下のようなトピックを予定しているが、参加者の関心によって変更する。(トピック：学校制度、教授理論、児童研究、心理学、家庭と育児、児童の発見、カリキュラム、教育改革、実践記録、授業研究、教師の専門性、史料、歴史研究の方法)

第１５回：まとめ

今年度は、最初に、教育研究の歴史的な展開を扱った以下の文献の購読を予定している。

Lagemann, Ellen Condliffe (2000) An Elusive Science: The Troubling History of Education Research, The university of Chicago Press.

授業の方法：教育実践に歴史的にアプローチした論文を購読し、ディスカッションを行う。

成績評価方法：授業中の発表とレポートによる。

教科書：特になし。

参考書：適宜授業中に紹介する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-03	**担当教員**：髙木　展郎	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・基礎研究）

講義題目(和文)：ことばの教育と授業

講義題目(英文)：Language Education in School Lessons

授業の目標・概要：学校教育における授業は、それぞれの国のことばによって行われている。日本においては、そのほとんどを、母語としての日本語によって授業が行われており、国語科という教科によってその中心的な母語教育が行われている。しかし、教科国語のみでことばの教育が行われるのみでなく、様々な教科の授業を通して行われていることも事実である。そこで、ことばの教育が授業の中でどのように行われているのか、その現状をとらえつつ、ことばの教育が様々な教科の授業にどのように機能するかについて，これまでの教育課程の変遷を通して考察する。

授業のキーワード：ことばの教育,コミュニケーション

授業計画：第１回：ことばの持つ役割と教育における意味
第２回：教育課程とことばの教育Ⅰ
第３回：教育課程とことばの教育Ⅱ
第４回：教育課程とことばの教育Ⅲ
第５回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅰ
第６回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅱ
第７回：各教科等における言語活動の充実Ⅰ
第８回：各教科等における言語活動の充実Ⅱ
第９回：各教科におけることばの教育と授業
第１０回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅰ
第１１回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅱ
第１２回：指導構成と授業づくり
第１３回：指導計画と授業づくり
第１４回：授業における指導計画と評価
第１５回：ことばの教育における評価

授業の方法：基本的には、各回ごとに、資料（DVD を含む）をもとに、そこに示されている内容（小中学校の授業の様子・内容）から、授業にことばがどのように関わっているのか、ということに焦点を当て、討論をとおしてその意味を明らかにするとともに、授業のあり方を考察する。

成績評価方法：授業は、基本的に資料を基に、その資料内容について討論を通して考察を行う。授業終了後、その会の授業のリフレクションを宿題とし、各回ごとの授業を振り返り再構成して吟味し、次回の授業につなげていく。このリフレクションの内容によって、評価を行う。

教科書：学習指導要領（平成２０年版、小学校・中学校）・『言語活動の充実のための参考資料(中学校版)』(文部科学省)その他、プリント資料・DVD 等

参考書：イ・ヨンスク 『「国語」という思想』1996 岩波書店、

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-04	**担当教員**：中田　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・基礎研究）

講義題目(和文)：教育政策と教育法

講義題目(英文)：Education Policy and Laws

授業の目標・概要：１）教育法の体系を理解し、その論理に基づいた解釈ができるようになる。
２）教育法の生成と変容の過程として、教育政策過程と教育法制の間に存在する力学を説明できるようになる。
３）日常に発生する教育法紛争について、論点を指摘し、解決策を導き出せるようになる。

授業のキーワード：教育法、教育政策、教育行政、学校経営、教育の自由、学習権

授業計画：１．教育法の体系
２．教育法理論史
３．教育課程編成と第一の教育法関係
４．生徒懲戒と第二の教育法関係
５．生徒の思想信条の自由
６．親の学校選択の自由と就学義務
７．教師の教育の自由と職務責任
９．教師の身分上と職務上の義務
10.いじめ問題と学校の教育責任
11.学校事故と学校の監督・管理責任
12.社会教育施設の利用
13.私立学校経営の自由と公教育
14.教育の政治的中立性
15.教育の宗教的中立性

授業の方法：ケーススタディに基づくディスカッション形式を中心とし、議論の整理・解説として、教育法規の基礎知識に関する講義を行う。あらかじめ用意された事例や指定された文献について、論点を自分なりに考えてきて授業に臨むことが求められる。

成績評価方法：平常点。受講者は１度は授業中に報告することが求められる。

教科書：特に指定しない。

参考書：講義中に個別に指示する。
古典として下記の文献に事前に目を通しておくことが望ましい。
兼子仁『教育法[新版]』有斐閣、1977 年
奥平康弘「教育を受ける権利」芦部信喜『憲法Ⅲ人権(2)』有斐閣、1981 年
今橋盛勝『教育法と法社会学』三省堂、1983 年

履修上の注意：積極的な参加が望まれる。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-05	**担当教員**：三宅　なほみ	**単位数**：2	**学期**：夏冬

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：学習科学研究

講義題目(英文)：Discussion on Learning Sciences

授業の目標・概要：学習の認知的なメカニズムとその理解に基づく学びの場のデザインや授業の実践・評価について、学習科学という研究領域で積み上げられてきた知見を振り返り、今後この分野でどのような視座から、どんな方法論によって、何が明らかにされてゆく必要があるのかを検討する。「知識の社会的構成」「協調過程による学び」などの名で呼ばれる代表的な研究を統合するとどんなことが言えるのか、受講者一人一人が「私の考える協調的な学習観」を形成できる場にしたい。

授業のキーワード：学習科学,協調学習,建設的相互作用,社会的構成

授業計画：学習という研究テーマは、人と社会、人に内在する知識構造や認知的処理機能と外在する他人や環境との複雑な相互作用の解明を要求する領域複合的な研究テーマである。この授業では、認知科学や学習科学がどのように成立してきたのかを視座に入れ、人の認知過程を相互作用と見る見方の出現と効用を検討し、実験室を基盤とする基礎研究と実社会をフィールドとする新しい科学的方法論との融合が今後「学習」をどのような研究に導いて行くのかを検討したい。

授業の方法：協調過程による学習を自分たちでも体験しながら学ぶ。特に資料の内容や実験の成果などを＜自分なりのことばでまとめる＞ことが、私たちをどう構成し、また制約するかについて継続的に検討する。

成績評価方法：各回で受講者の思考過程の記録を取り、分析して評価したい。

教科書：指定しない。適宜必要な資料を配布する。

参考書：稲垣・波多野（1986）『人はいかに学ぶか』中公新書 98

三宅・白水（2003）『学習科学とテクノロジ』放送大学教育振興会

＊この本の参考文献欄に 2003 年当時のものではあるが推奨する参考書を挙げた

ブランスフォード他（2002）『授業を変える』北大路書房（原典 1999）

履修上の注意：原則隔週で授業するが、予定が変更になることがある。掲示の他、メイル連絡などを活用するので利用して欲しい。

関連ホームページ：http://coref.u-tokyo.ac.jp/

その他：内容について要望などがあれば、積極的にメイルをいただきたい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-06	担当教員：秋田　喜代美	単位数：2	学期：夏
授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）			
講義題目(和文)：保育学研究			
講義題目(英文)：Studies on Early Childhood Education			

授業の目標・概要：保幼小の連携接続や環境移行に関する国内外の研究文献を読むことで、幼児期と児童期の教育のつながりやあり方について最近の研究動向を保育学の観点から学ぶことを目標とする。

授業のキーワード：幼児教育　小学校教育　環境移行　初期の学び　質　専門性

授業計画：初回２回はガイダンスならびに実際のビデオ等をもとにしたガイダンスを行う。
その後は以下の文献を読んだ後関連文献を購読する予定。
Moss,P.(ed.)　Early　Childhood and compulsory education:Reconceptualising the relationship. 2012 Routledge.

授業の方法：上記主題に関する文献の報告と議論、ならびにＤＶＤ視聴等を通して保育環境のありかたに関して検討を行う。

成績評価方法：演習への参加による平常点ならびに期末レポートによる。

教科書：Moss,P.(ed.)　Early　Childhood and compulsory education:Reconceptualising the relationship. 2012 Routledge.

履修上の注意：本授業は学校教育高度化専攻教職開発コースと総合教育科学専攻教育心理学コースのダブルコード授業である。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-07	**担当教員**：藤原　顕	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：質的方法による教育経験の研究

講義題目(英文)：Qualitative Methods in Research on Teaching Experience

授業の目標・概要：この授業では、質的方法を用いて、授業等の学校教師の教育経験（一部、学習者の学習経験を含む）を研究する際に考慮すべき諸論点について検討しながら、そうした研究に関する基本枠組みを理解することが目標となる。授業では、①質的研究におけるリサーチ・クエスチョンの立て方、②研究者と研究参加者の関係の在り方（研究参加者の選定、研究関係における権力性等）、③データ収集の方法（参与観察、インタビュー等）、④データ分析の方法（談話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ等）、⑤研究成果の著述の在り方（事例の記述、個別具体的な事例の意味等）、⑥研究成果の評価規準といった諸論点を扱う。受講者は、これら論点に関する解説を聴取しつつ、論点に対応した文献（事前に読了のこと）レビューを踏まえながら、教育（学習）経験の研究の在り方についてディスカッションを行う。また、特に④に関わっては、実際に質的データを分析する活動に取り組む。

授業のキーワード：学校教師、教育経験（学習経験）、質的研究（質的方法）、リサーチ・クエスチョン、研究者－研究参加者関係、研究参加者の選定、研究における権力関係、質的データの収集方法、参与観察、インタビュー、ナラティヴ、ライフストーリー、質的データの分析方法、概念（カテゴリー）化、談話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、研究成果の著述、事例研究（事例の記述、事例の意味）、ライフヒストリー、研究の評価規準

授業計画：【１日目】
１　§０ガイダンス：授業の構成と概要の提示、藤原の研究歴の紹介
２　§１質的研究におけるリサーチ・クエスチョン：受講者からの研究テーマ聴取
３　§２研究関係　　2.1 研究参加者の選定：藤原の研究例から
【２日目】
４　§２研究関係　　2.2 研究における権力関係：文献①②のレビュー
５　§３データ収集　3.1 参与観察：文献③のレビュー
６　§３データ収集　3.2 インタビュー：文献④のレビュー
７　§４データ分析　4.1 談話分析：文献⑤のレビュー
８　§４データ分析　4.2 グラウンデッド・セオリー・アプローチ：文献⑥のレビュー
【３日目】
９　§４データ分析　4.3 インタビュー・データの分析ワークショップ
10　　〃
11　§５著述　　5.1 カテゴリー中心的記述／事例中心的記述：文献⑦のレビュー
12　§５著述　　5.2 個別具体的な事例の意味：文献⑧のレビュー
13　§５著述　　5.3 事例と理論の関係：文献⑨のレビュー
【４日目】
14　§６評価規準：文献⑩のレビュー
15　§７まとめとふり返り：授業内容全体に関わる質疑応答と議論

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップ等による。

成績評価方法：各時間に提出するミニ・レポート（上記諸論点に関する解説やレビューした文献に関するコメントを記載）によって評価

教科書：○下記の書籍を購入のこと
グループ・ディダクティカ（編）.(2012). 教師になること、教師であり続けること: 困難の中の希望. 勁草書房.
☞上記「授業計画」中の文献②（８章；藤原顕・荻原伸論文）、③（10 章；吉永紀子論文）、④（７章森脇健夫論文）、⑨（６章；松崎正治論文）を所載。これらについては事前に読了のこと。
○上記「授業計画」中の以下の文献を、図書館でコピーまたはネットから DL（CiNii で検索）し、事前に読了のこと。
文献①：藤原顕（2013）. 教師のライフヒストリー研究に関する方法論の検討. 福山市立大学教育学部研究紀要, 1, ○-○（頁数未定）. ☞CiNii で検索
文献⑤：一柳智紀（2008）. 「聴くことが苦手」な児童の一斉授業における聴くという行為 ： 「対話」に関するバフチンの考察を手がかりに. 教育方法学研究: 日本教育方法学会紀要 33, 1-12. ☞CiNii で検索
文献⑥：酒井都仁子, 岡田加奈子（2005）. 学校保健: 中学校保健室頻回来室者にとっての保健室の意味深まりプロセスおよびその影響要因. 木下康仁（編）, 分野別実践編: グラウンデッド・セオリー（pp.216-261）. 弘文堂. ☞図書館に所蔵
文献⑦：藤原顕, 今宮信吾, 松崎正治（2007）. 教科内容観にかかわる国語科教師の実践的知識: 詩の創作の授業を中心とした今宮信吾実践に関する事例研究. 国語科教育, 62, 59-66. ☞CiNii で検索
文献⑧：濱田秀行（2010）. 小説の読みの対話的な交流における「専有」. 国語科教育, 68, 43-50. ☞CiNii で検索
文献⑩：シュワント, T. A., 伊藤勇ほか（監訳）.（2009）. 質的研究用語事典. 北大路書房. ☞pp.118-122 の「真実性の規準」「信用性の規準」「信頼性」、pp.147-149 の「妥当性」、pp.214-215 の「本当らしさ」の各項 ☞図書館に所蔵

参考書：デンジン, N. K., リンカン, I. S.（編）, 平山満義（監訳）, 藤原顕（編訳）.（2006）. 質的研究ハンドブック２巻: 質的研究の設計と戦略. 北大路書房.

関連ホームページ：http://www.fcu.ac.jp/dep/fujiwara.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-08	**担当教員**：西岡　加名恵	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：カリキュラム開発と教育評価

講義題目(英文)：Curriculum Development and Educational Assessment

授業の目標・概要：近年、日本においても、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めることが求められている。学校におけるカリキュラム（教育課程）編成を考えるうえで、昨今、注目されているパフォーマンス評価は、新たな展望を拓くものである。そこで本科目では、カリキュラムや教育評価に関わる基本的な概念を確認するとともに、その理論と実践について検討することを通して、具体的なカリキュラム編成や教育評価の進め方について考察したい。

授業のキーワード：教育目的・教育目標,教材・教具,指導過程と学習形態,カリキュラム,教育課程,系統主義,経験主義,教育評価,学力評価,「逆向き設計」論,「本質的な問い」,「永続的理解」,パフォーマンス評価,パフォーマンス課題,ルーブリック,ポートフォリオ評価法,高大接続,入試

授業計画：下記のテーマについて、それぞれ１～３時間程度で扱う。

１．オリエンテーション
２．教育方法学の基本概念
３．様々な学力評価の方法　――パフォーマンス評価とは何か――
４．カリキュラムの編成原理
５．「逆向き設計」論にもとづくカリキュラム設計
６．パフォーマンス評価の進め方
７．高大接続・入試改革を考える
８．まとめ

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップなどを行う。

成績評価方法：授業中に指定する課題により評価する。

教科書：田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第３版)』有斐閣、2011 年

参考書：西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003 年
西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価－中学校』学事出版、2009 年
G.ウィギンズ、J.マクタイ（西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012 年
その他については、授業中に紹介する。

履修上の注意：授業中、パフォーマンス課題の作成を求めるので、パフォーマンス課題を考えてみたい教科・学年について、学習指導要領と教科書を用意しておくこと。なお、パフォーマンス課題とは、複数の知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を意味する。具体的には、レポートやプレゼンテーションなどにより評価する方法である。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-09	**担当教員**：鶴田　清司	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり

講義題目(英文)：Designing the Class of Japanese for Improving the Ability of Dialogue, Criticism, Application

授業の目標・概要：ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査(PISA)の結果、日本の高校生の「読解力(reading literacy)」に問題があることが明らかになった。我が国では「PISA 型読解力」と呼ばれて、新しい学習指導要領にも大きな影響を与えている。しかし、それを新たな受験学力として試験対策に走るという傾向も一部に見られる。そうではなく、日常の授業の本質的な改善のための契機とすべきである。さまざまなテキスト（発話テキストも含む）を読み解いて自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉を通して適切に表現・伝達して、立場の異なる人々ともコミュニケーションができるようなリテラシーの育成である。

本授業では、こうした基本的立場から、「PISA 型読解力」を対話力・批評力・活用力として捉え直して、それらを育成するための国語科授業づくりの原理や方法について考えていきたい。

授業のキーワード：対話,批評,活用,PISA,PISA 型読解力,読解力,情報の取り出し,解釈,熟考・評価,OECD,キー・コンピテンシー,リテラシー,reading literacy,mathematical literacy,scientific literacy,学力調査,教育評価,全国学力・学習状況調査,文部科学省,中央教育審議会,学習指導要領,国語科教育,読むことの教育,批判読み,吟味読み,クリティカル・リーディング,教科教育,教科間連携,言語能力,言語活動,授業づくり,協同的学び合い,論理的思考力,論理的表現力,

授業計画：１：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その１）
２：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その２）
３：「読解力」の本質と意義～「キー・コンピテンシー」(DeSeCo) との関係～
４：学習指導要領や全国学力・学習状況調査（国語 B）への PISA の影響
５：「読解力向上に関する指導資料～PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」の検討
６：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その１）
７：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その２）
８：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その１）
９：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その２）
10：「PISA 型読解力」の育成に向けての国語科と他教科との連携のあり方
～国語科で育てる基礎的な「読解力」と各教科固有の「読解力」の異同～
11：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～協同的な学び合いの成立～
12：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～根拠・理由・主張の３点セット～
13：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～比べ読みによる批評～
14：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～知識・技能の柔軟な活用～
15：まとめと振り返り

授業の方法：演習形式（講義・模擬授業を含む）

成績評価方法：演習への参加状況とレポートなどを総合して評価する。

教科書：鶴田清司『対話・批評・活用の力を育てる国語の授業～PISA 型読解力を超えて～』(2010 年、明治図書)

参考書：適宜指示する。

履修上の注意：PISA および PISA 型読解力について、ある程度の予備知識を持って参加してほしい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-10	**担当教員**：佐野　靖	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：芸術教育の実践研究

講義題目(英文)：Practical Research on Art Education

授業の目標・概要：芸術教育としての音楽教育に焦点をしぼり、人間と音楽の多様なかかわりを学習と教育という視点からアプローチする。実践研究として音楽科の授業研究に取り組み、そこから浮かび上がってくる事象・出来事を読み取り、解釈することを通して、理論の再構成を図る。

授業のキーワード：「芸術教育」「音楽教育と音楽科教育」「音楽科カリキュラムと授業研究」「音楽教師」

授業計画：１．芸術教育としての音楽教育
２．音楽教育における理論と実践
３．音楽教育の目的・目標
４．音楽教育の内容・方法
５．音楽教育の歴史
６．音楽科教育の現状と課題
７．音楽科カリキュラム論
８．音楽科授業論
９．音楽科における授業研究の方法論
10. 授業研究の実際①
11. 授業研究の実際②
12. 授業研究の実際③
13. 音楽教師に求められる資質・能力
14. 学び手としての教師
15. 総括

授業の方法：講義・ディスカッション・グループワーク

成績評価方法：授業内での発表及び議論の内容、ならびにレポート等によって総合的に評価する。

教科書：特になし。必要に応じて資料等を配布する。

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-11	**担当教員**：浜田　博文	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）			
講義題目(和文)：学校経営とリーダーシップ			
講義題目(英文)：School Management and Leadership			

授業の目標・概要：【目標】学校を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を習得する。

【概要】「学校の自律性」に関する政策と研究の動向を踏まえて現代の学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。「組織」としての学校の特徴を確かめ、学校改善過程の事例を検討することを通じて、学校において有効なリーダーシップのあり方について考えたい。

授業のキーワード：学校の自律性、学校組織、学校経営、リーダーシップ、学校改善、組織文化、教師のエンパワーメント

授業計画：およそ下記のテーマに沿って進める。

1. 現代日本の教育改革の中の「学校の自律性」について
2. 従来の日本の学校経営をめぐる議論
3. 日本の学校経営の現状
4. アメリカの教育改革と学校経営の実態
5. アメリカの学校経営に対する本格的な問題意識と校長職研究
6. 日本における「学校の自律性」と学校改善―教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ

授業の方法：講義とディスカッションを適宜おりまぜながら進行する。

成績評価方法：ディスカッションへの貢献度および最終課題レポートの内容に基づいて評価を行う。

教科書：浜田博文編著『学校を変える新しい力』（小学館、2012 年 3 月）

ほかに、実施時に、独自に作成した資料を配布する。

参考書：浜田博文著『「学校の自律性」と校長の新たな役割』（一藝社、2007 年）

小野由美子・淵上克義・浜田博文・曽余田浩史編著,『学校経営研究における臨床的アプローチの構築―研究－実践の新たな関係性を求めて―』（北大路書房，2004 年）

など

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-12	担当教員：秋吉　貴雄	単位数：2	学期：冬

授業科目：教職開発・理論研究（教職開発・発展研究）

講義題目(和文)：教育政策の公共政策学的分析

講義題目(英文)：Public Policy Analysis in Education

授業の目標・概要：本講義では、公共政策学の「of の知識（政策過程に関する知識)」の習得とそれをもとにした政策過程分析の習得を目標としています。本講義ではまず政策過程分析を行うための基礎知識及び分析ツールについて講義を行い、その後グループもしくは個人の単位で実際の政策過程分析を行い、相互に検討を行っていきます。

授業のキーワード：公共政策,政策過程

授業計画：第１回：ガイダンス

第２回：公共政策の基礎概念

第３回：政策問題の構造化

第４回：アジェンダ設定

第５回：公共政策の手段

第６回：政策決定の構造

第７回：政策決定と利益

第８回：政策決定と制度

第９回：政策決定とアイディア・言説

第１０回：政策決定と政策学習

第１１回：政策過程分析演習①（利益アプローチ）

第１２回：政策過程分析演習②（制度アプローチ）

第１３回：政策過程分析演習③（アイディアアプローチ）

第１４回：政策過程分析演習④（政策学習アプローチ）

第１５回：総合討論

授業の方法：講義、ディスカッション

成績評価方法：試験もしくは課題レポートによる評価

教科書：秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣

参考書：未定

履修上の注意：教育行政学等の講義を受講されているとより理解が深まると思われます

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-13	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教職開発・理論研究（授業研究・発展研究）			
講義題目(和文)：授業における学習研究			
講義題目(英文)：Research on Learning in Classroom			
授業の目標・概要：教室における協働学習をキーワードとして、協働学習に関するハンドブックの講読を通した議論によって理解を深めることで、教室における学習と教師や学習環境支援のあり方についての理解を深める。 **授業のキーワード**：協同学習　理解　相互作用　メデイア　教師　授業 **授業計画**：次のハンドブック及びそこに引用されている実証研究論文を読み議論や検討をする。 Hmelo-Silver.C. et al.(Eds) 2013 The international handbook of collaborative learning.Routledge. **授業の方法**：発表担当者による章のポイントの報告と議論や関連論文の紹介をもとにして、ゼミそのものを協同学習を取り入れて進める **成績評価方法**：平常点ならびに期末レポート **参考書**：秋田喜代美「学びの心理学：授業をデザインする」左右社 **履修上の注意**：基本的に毎回出席できることを前提として履修されたい。また英文の読み方や講読指導ではなく本質的な内容の議論を重視するために、あらかじめ当該章を読んで批判的に議論することを前提とする。本授業は、総合教育科学専攻教育心理学コースの授業とのダブルコードとなっている。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-14	**担当教員**：藤江　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教職開発・実践研究（授業研究・事例研究）

講義題目(和文)：授業の事例研究

講義題目(英文)：Case Method of Teaching

授業の目標・概要：さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。

自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。

授業のキーワード：授業　事例 実践記録 逐語記録　分析　教室談話

授業計画：第１回：ガイダンス　授業研究、事例分析の基本的な考え方

第２回：事例検討Ａ①小学校の事例　中学年、高学年の授業

第３回：事例検討Ａ②小学校の事例　低学年の授業、幼小連携

第４回：事例検討Ａ③中学校の事例　科学教育

第５回：事例検討Ａ④中学校の事例　小中連携

第６回：事例検討Ａ⑤高等学校の事例　協働学習

第７回：事例検討Ｂ①小学校の事例　国語科、社会科、算数科、理科の授業

第８回：事例検討Ｂ②小学校の事例　生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科の授業

第９回：事例検討Ｂ③中学校の事例　国語科、社会科、数学科、理科、英語科の授業

第１０回：事例検討Ｂ④中学校の事例　音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科の授業

第１１回：事例検討Ｂ⑤高等学校の事例　理科、外国語の授業

第１２回：事例検討Ｃ①事例の抽出・記述　授業記録、エピソード記述のあり方

第１３回：事例検討Ｃ②分析視点の設定　分析カテゴリーの設定、解釈枠組みのあり方

第１４回：事例検討Ｃ③分析の実施　コーディングと集計、記述における妥当性と信頼性

第１５回：事例検討Ｃ④分析のまとめと解釈　一般化と再文脈化

授業の方法：（１）全員で１単位時間の授業事例をみて検討する。

受講者が交替で事例提供を行う。事例提供者は記録に加えて補足資料を用意する。

（２）同一授業記録をグループで検討する。

小集団で同一授業を解釈、分析、グループ内、グループ間で交流する。

同一の実践でも、見る者によって見え方、解釈の在り方が異なること、視点や解釈の多様性のなかにある共通性、などに気づくことを大切にし、参加者相互の実践を研究する際のセンスを高めることを目指す。

成績評価方法：演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。

教科書：使用しない

参考書：秋田喜代美・藤江康彦（編）『事例から学ぶ　はじめての質的研究法　教育・学習編』（東京図書）、2007

秋田喜代美・キャサリン・ルイス（編）『授業の研究　教師の学習』明石書店、2008

履修上の注意：45 分～50 分の授業を見て検討を行うため、時間が延長することがある。このことを了承のうえで参加されたい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-15	**担当教員**：浅井　幸子	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・事例研究）			
講義題目(和文)：教職開発事例研究			
講義題目(英文)：Case Studies of Teacher Professional Development			
授業の目標・概要：教育や保育の実践記録を読むこと、記録の方法に関する文献を読むこと、授業の映像を検討すること、授業研究の方法に関する文献を読むことを通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。 **授業計画**：大きく分けて２つの活動を予定している。一つ目は実践記録に関わる。教師や保育者による実践記録を読みあい、その記録の内容や方法について考察する。二つ目は授業に関わる。授業の映像を検討し、具体的な授業から学びたい。 **授業の方法**：文献や映像をもとに参加者でディスカッションを行う。 **成績評価方法**：参加と課題レポートによる。 **教科書**：特になし。 **参考書**：鯨岡峻『エピソード記述を読む』東京大学出版会、２０１２年。 その他、適宜授業中に紹介する。 **履修上の注意**：特になし。 **その他**：特になし。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-16	**担当教員**：藤村　宣之	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・事例研究）

講義題目(和文)：教科教育の心理学的事例研究

講義題目(英文)：Psychological Case Studies of Education in Subject Areas

授業の目標・概要：各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。初等・中等教育における各教科の授業について，授業の録画記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し，その方法に熟達することを目標とする。初等・中等教育における各教科（算数・数学科，理科，国語科など）の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について，発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い，心理学の視点から考察を行う。

授業計画：１：イントロダクション

２：数学科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）

３：数学科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）

４：数学科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）

５：理科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）

６：理科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）

７：理科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）

８：国語科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）

９：国語科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）

１０：国語科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）

１１：算数科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）

１２：算数科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）

１３：算数科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）

１４：授業時のワークシートの分析

１５：まとめ

授業の方法：各教科の授業についての指導案，ビデオ記録，ワークシート等について，個別に，また集団で発表・検討・討論を行い，個別に考察する。

成績評価方法：授業時の発表およびレポートによる。

教科書：なし

参考書：適宜，指示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-17	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・実地研究）			
講義題目(和文)：授業の実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork on Learning in Subject Areas			
授業の目標・概要：各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。 **授業のキーワード**：フィールドワーク,学校,研究テーマ,調査,観察,記録 **授業計画**：最初２時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。 **授業の方法**：各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低２単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会および最終報告会への参加がもとめられる。 **成績評価方法**：フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。 **参考書**：必要に応じて履修中に指示する。 **履修上の注意**：フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを１５時間以上実施することが必要である。 修士１年の院生は冬学期以降の履修を原則とする。			

本研究科他コース学生	**本 学 他 研 究 科 学 生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-18	担当教員：斎藤　兆史	単位数：2	学期：冬
授業科目：教職開発・実践研究（授業研究・実地研究）			
講義題目(和文)：教科学習の実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork on Learning in Subject Areas			

授業の目標・概要：学校におけるフィールドワーク（授業観察・調査など）のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。

授業のキーワード：フィールドワーク

授業計画：最初２時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。

授業の方法：各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低２単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。

成績評価方法：フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。

教科書：使用しない。

参考書：必要に応じて指示する。

履修上の注意：フィールドワークを実施する際には、１５時間以上実施することが必要である。修士１年の院生、および初めてフィールドワークを履修する博士１年の院生は、冬学期以降の履修を原則とする。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：301-19	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教職開発・論文指導（授業研究・論文指導）			
講義題目(和文)：授業研究論文指導			
講義題目(英文)：Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons			

授業の目標・概要：授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。

授業のキーワード：授業研究,保育研究,談話分析,教師,保育者,実践研究

授業計画：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。

授業の方法：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく形をとる。

なお本論文指導は、総合教育科学専攻　教育心理学コースの教授学習分野論文指導と時間割上同時に開講される。

また研究室ＭＬへの参加によって日々検討を行う。

成績評価方法：本演習およびＭＬでの論文コメントへの参加、個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。

教科書：指定なし

参考書：指定なし

履修上の注意：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。

関連ホームページ：なし

その他：特になし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-20	**担当教員**：藤江　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教職開発・論文指導（授業研究・論文指導）			
講義題目(和文)：授業研究論文指導			
講義題目(英文)：Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons			
授業の目標・概要：授業や授業を構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。 **授業計画**：１.「授業」や「教師や子どもの学習」に関する理論や実践に関する研究のレビューを行い、自らのリサーチクエスチョンを明確にする。 ２．リサーチクエスチョンから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。 ３．研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。 **授業の方法**：１．集団指導：参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。 ２．個別指導：研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。 **成績評価方法**：授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。 **教科書**：指定しない。 **参考書**：授業で紹介する。 **履修上の注意**：履修者は藤江の指導学生に限定する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-21	**担当教員**：三宅　なほみ	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教職開発・論文指導（教職開発・論文指導）			
講義題目(和文)：教職開発論文指導			
講義題目(英文)：Mentoring Seminar of Teacher Professional Development			
授業の目標・概要：学習科学の中でも、実践による検証に重きを置いた研究について、各自のテーマと問題意識に沿った実証的理論考察に基づく論文作成を指導する。 **授業のキーワード**：協調学習,建設的相互作用,概念変化,社会文化的制約 **授業計画**：研究計画、データ分析の方法と途中結果、論文校正、執筆状況、関連する学会発表などについて、適宜、発表と相互検討を行う。可能であればテーマの近い２，３人を critical friends として互いのサポートにあたる形式を採用する。 **授業の方法**：協調的なグループ討論によって進める。 **成績評価方法**：発表内容、平常点、提出論文によって評価する。 **教科書**：指定しない。別途 Reading list を作成する予定。 **参考書**：指定しない。別途 Reading list を作成する予定。 **履修上の注意**：原則隔週で授業する他、随時個別の相談に応じる。予定が変更になることがあるため、メイル連絡などを活用するので利用して欲しい。 **関連ホームページ**：http://coref.u-tokyo.ac.jp/			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-22	**担当教員**：浅井　幸子	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教職開発・論文指導（教職開発・論文指導）			
講義題目(和文)：教職開発論文指導			
講義題目(英文)：Mentoring Seminar of Teacher Professional Development			
授業の目標・概要：研究論文を執筆するための指導を行う。 **授業計画**：具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。 **授業の方法**：個別指導とグループ指導を予定している。 **成績評価方法**：研究の成果によって評価を行う。 **教科書**：特になし。 **参考書**：特になし。 **履修上の注意**：特になし。 **その他**：特になし。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-23	**担当教員**：大桃　敏行	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・実地研究）			
講義題目(和文)：教育政策実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものを含む）を通して、教育政策の理論的・実践的問題を探求し、自らの研究構想を深めることを目標とする。 **授業のキーワード**：教育政策,フィールドワーク **授業計画**：実地研究の方法の説明、研究計画の作成、中間報告、調査結果の報告と最終レポートの作成を行う。 **授業の方法**：受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 **成績評価方法**：中間報告、最終報告、レポートによる。 **教科書**：使用しない。 **参考書**：適宜、授業で指示する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-24	担当教員：村上　祐介	単位数：2	学期：冬

授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・実地研究）

講義題目(和文)：教育行政実地研究

講義題目(英文)：Fieldwork in Educational Administration

授業の目標・概要：教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習など）を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探求し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。

受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。

授業のキーワード：調査研究, 実地調査, フィールドワーク, 事例研究, 研究計画, リサーチデザイン

授業計画：第１回：授業に関するガイダンス

第２回：実地研究の方法の説明（１）

第３回：実地研究の方法の説明（２）

第４回：研究計画の作成・検討（１）

第５回：研究計画の作成・検討（２）

第６回：中間報告（１）

第７回：中間報告（２）

第８回：中間報告（３）

第９回：中間報告までのまとめ

第１０回：調査結果報告と検討（１）

第１１回：調査結果報告と検討（２）

第１２回：調査結果報告と検討（３）

第１３回：実地研究のまとめ（１）

第１４回：実地研究のまとめ（２）

第１５回：実地研究のまとめ（３）

授業の方法：受講生による研究報告と討論によって授業を進める。

成績評価方法：中間報告とレポートによって評価を行う。

教科書：特になし

参考書：初回の授業時に指示する

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：301-25	**担当教員**：勝野　正章	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教職開発・実践研究（教職開発・実地研究）			
講義題目(和文)：学校経営実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in School Management			
授業の目標・概要：学校経営の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む）を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。 **授業のキーワード**：学校経営,フィールドワーク **授業計画**：最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。 **授業の方法**：受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 **成績評価方法**：中間報告、最終報告（レポート）によって評価する。 **教科書**：なし **参考書**：なし **履修上の注意**：なし **その他**：なし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

学校教育高度化専攻　教育内容開発コース

科目番号：302-01	**担当教員**：斎藤　兆史	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育内容開発・理論研究（言語教育・基礎研究）			
講義題目(和文)：英語教授法			
講義題目(英文)：English Language Teaching Methodologies			

授業の目標・概要：外国語教授法、特に英語教授法に関する諸理論を細かく検討し、それらが日本の英語教育に応用可能なものかどうかを議論する。

授業のキーワード：外国語教授法,英語教授法,英語教育

授業計画：Rod Ellis, Language Teaching Research and Language Pedagogy, Wiley-Blackwell, 2012 を教科書とし、それを批判的に読み進める。

第１回　授業の説明

第２回　1 Introduction: Development in Language Teaching Research

第３回　2 Methods for Researching the Second Language Classroom

第４回　3 Comparative Method Studies

第５回　4 Second Language Classroom Discourse

第６回　5 Focus on the Teacher

第７回　6 Focus on the Learner

第８回　7 Investigating the Performance of Tasks

第９回　8 Interaction and L2 Learning in the Classroom

第１０回　9 Form-Focused Instruction and Second Language Learning

第１１回　10 Instruction, Individual Differences and L2 Learning

第１２回　11 Conclusion: Research and Language Teaching

第１３回　エリスの議論に欠如しているもの１：訳

第１４回　エリスの議論に欠如しているもの２：文学

第１５回　まとめ

授業の方法：毎回発表担当者を決め、教科書１章分の内容の要約と補足説明を行い、そののち、全員で質疑応答や議論を行う。

成績評価方法：出席状況、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。

教科書：Rod Ellis, Language Teaching Research and Language Pedagogy, Wiley-Blackwell, 2012.

参考書：授業中に指示する。

履修上の注意：発表を担当する時でなくても教科書を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-02	**担当教員**：髙木　展郎	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（言語教育・基礎研究）

講義題目(和文)：ことばの教育と授業

講義題目(英文)：Language Education in School Lessons

授業の目標・概要：学校教育における授業は、それぞれの国のことばによって行われている。日本においては、そのほとんどを、母語としての日本語によって授業が行われており、国語科という教科によってその中心的な母語教育が行われている。しかし、教科国語のみでことばの教育が行われるのみでなく、様々な教科の授業を通して行われていることも事実である。そこで、ことばの教育が授業の中でどのように行われているのか、その現状をとらえつつ、ことばの教育が様々な教科の授業にどのように機能するかについて，これまでの教育課程の変遷を通して考察する。

授業のキーワード：ことばの教育,コミュニケーション

授業計画：第１回：ことばの持つ役割と教育における意味
第２回：教育課程とことばの教育Ⅰ
第３回：教育課程とことばの教育Ⅱ
第４回：教育課程とことばの教育Ⅲ
第５回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅰ
第６回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅱ
第７回：各教科等における言語活動の充実Ⅰ
第８回：各教科等における言語活動の充実Ⅱ
第９回：各教科におけることばの教育と授業
第１０回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅰ
第１１回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅱ
第１２回：指導構成と授業づくり
第１３回：指導計画と授業づくり
第１４回：授業における指導計画と評価
第１５回：ことばの教育における評価

授業の方法：基本的には、各回ごとに、資料（DVD を含む）をもとに、そこに示されている内容（小中学校の授業の様子・内容）から、授業にことばがどのように関わっているのか、ということに焦点を当て、討論をとおしてその意味を明らかにするとともに、授業のあり方を考察する。

成績評価方法：授業は、基本的に資料を基に、その資料内容について討論を通して考察を行う。授業終了後、その会の授業のリフレクションを宿題とし、各回ごとの授業を振り返り再構成して吟味し、次回の授業につなげていく。このリフレクションの内容によって、評価を行う。

教科書：学習指導要領（平成２０年版、小学校・中学校）・『言語活動の充実のための参考資料(中学校版)』(文部科学省)その他、プリント資料・DVD 等

参考書：イ・ヨンスク 『「国語」という思想』1996 岩波書店、

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-03	**担当教員**：川本　隆史	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育内容開発・理論研究（人文社会教育・基礎研究）			
講義題目(和文)：市民性の教育理論			
講義題目(英文)：Research into the Theories of Citizenship Education			
授業の目標・概要：「市民性の教育」に焦点を据えつつ、人文社会教育の基礎理論を協働して探究する演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。 現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。John Rawls, A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith: With “On My Religion”, edited by Thomas Nagel, Harvard University Press, 2009. 【参考文献】John Rawls, Über Sünde, Glaube und Religion, Mit Kommentaren von Joshua Cohen, Thomas Nagel und Robert Merrihew Adams; Mit einem Nachwort von Jürgen Habermas ; Aus dem Amerikanischen von Sebastian Schwark, Suhrkamp Verlag, 2010. **授業の方法**：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロコトルも担当者を決めて残すことにしたい。 なお適宜５時限に延長してゼミ第二部を実施することがあるので、留意されたい。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。 **履修上の注意**：基礎教育学コース開設の「西洋教育史演習Ⅰ」と共通である。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-04	担当教員：北村　友人	単位数：2	学期：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（人文社会教育・基礎研究）

講義題目(和文)：グローバル化と学校教育

講義題目(英文)：Globalization and School Education

授業の目標・概要：今日の学校教育に関する諸問題を考えるうえで、国際的な視点が重要であることは論をまたない。とりわけ知識基盤社会と称される国際社会において、国内の子どもたちを対象とする学校教育を考える際にも、国際的な観点から政策、制度、内容、実践などについて検証することが欠かせない。そのため、本講義では、教育のグローバル化について基本文献を読み込むことによって、そうした国際的な視点のあり方についての理解を深めることを目指している。

授業のキーワード：グローバル化,教育制度,教育政策,知識基盤社会,国際学力調査,国際機関

授業計画：本講義では、基本文献に沿って、以下のスケジュールで議論を行って行く。

1. 導入：講義の説明
2. 教育のグローバル化(1)
3. 教育のグローバル化(2)
4. グローバルな教育ネットワークと言説
5. 知識基盤社会と教育
6. グローバルな教育モデルと国際機関
7. 宗教と土着の教育モデル
8. 移民と言語問題
9. 国際的な教育指標
10. 教育のグローバル化に関する理論化の可能性(1)
11. 教育のグローバル化に関する理論化の可能性(2)
12. まとめ

授業の方法：基本文献を輪読する。受講者が担当箇所について発表を行い、その後、全体で討論を行う。

成績評価方法：期末レポート（50%）、担当箇所の発表（30%）、議論への参加・貢献（20%）

教科書：Joel Spring (2009) Globalization of Education: An Introduction. New York and London: Routledge.

参考書：講義のなかで適宜指示する。

履修上の注意：受講者には、議論への積極的な参加を求める。

その他：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-05	**担当教員**：中田　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（教育内容開発・基礎研究）

講義題目(和文)：教育政策と教育法

講義題目(英文)：Education Policy and Laws

授業の目標・概要：１）教育法の体系を理解し、その論理に基づいた解釈ができるようになる。
２）教育法の生成と変容の過程として、教育政策過程と教育法制の間に存在する力学を説明できるようになる。
３）日常に発生する教育法紛争について、論点を指摘し、解決策を導き出せるようになる。

授業のキーワード：教育法、教育政策、教育行政、学校経営、教育の自由、学習権

授業計画：１．教育法の体系
２．教育法理論史
３．教育課程編成と第一の教育法関係
４．生徒懲戒と第二の教育法関係
５．生徒の思想信条の自由
６．親の学校選択の自由と就学義務
７．教師の教育の自由と職務責任
９．教師の身分上と職務上の義務
10.いじめ問題と学校の教育責任
11.学校事故と学校の監督・管理責任
12.社会教育施設の利用
13.私立学校経営の自由と公教育
14.教育の政治的中立性
15.教育の宗教的中立性

授業の方法：ケーススタディに基づくディスカッション形式を中心とし、議論の整理・解説として、教育法規の基礎知識に関する講義を行う。あらかじめ用意された事例や指定された文献について、論点を自分なりに考えてきて授業に臨むことが求められる。

成績評価方法：平常点。受講者は１度は授業中に報告することが求められる。

教科書：特に指定しない。

参考書：講義中に個別に指示する。
古典として下記の文献に事前に目を通しておくことが望ましい。
兼子仁『教育法[新版]』有斐閣、1977 年
奥平康弘「教育を受ける権利」芦部信喜『憲法Ⅲ人権(2)』有斐閣、1981 年
今橋盛勝『教育法と法社会学』三省堂、1983 年

履修上の注意：積極的な参加が望まれる。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-06	**担当教員**：藤村　宣之	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（数学・科学教育・発展研究）

講義題目(和文)：数学的・科学的思考の発達と授業過程

講義題目(英文)：Development of Mathematical and Scientific Thinking and Classroom Learning

授業の目標・概要：子どもの数学的思考・科学的思考の発達とそれを促す授業過程について，教育心理学や発達心理学領域の領域で，どのような知見が得られているか，またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて，実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。数学的思考，科学的思考の発達については，概念的理解（conceptual understanding）と手続き的知識（procedural knowledge）の関係性などに焦点をあて，認知発達研究や個別介入研究の知見やそれを導く心理学の方法論について，解説と検討を行う。数学，科学に関する授業過程については，個別探究と協同的構成を重視した教科学習の認知プロセスに焦点をあて，その知見と方法論について解説と検討を行う。

授業のキーワード：数学的思考,科学的思考,教育心理学,概念的理解,手続き的知識,概念発達,社会的相互作用,探究,協同過程,学習方法

授業計画：１：オリエンテーション

２：数学的思考・科学的思考をとらえる教育心理学の方法論

３～４：児童・生徒の数学的思考の現状

５～６：児童・生徒の科学的思考・読解力の現状

７：数学的思考・科学的思考をとらえる枠組み：心理学的モデル

８～９：児童の数学的思考の国際比較

１０～１１：数学的思考の発達を促す授業過程（算数教育）

１２：数学的思考の発達を促す授業過程（数学教育）

１３：科学的思考の発達を促す授業過程（理科教育）

１４：数学的思考・科学的思考の発達とこれからの教育

１５：まとめ

授業の方法：授業の内容について，教科書，プレゼンテーションソフト，授業プリントなどを用いて教員が解説を行い，参加者全体で質疑，討論を行う。また指定した文献等について，各参加者はレポートとコメントを行い，全体で討論を行う。

成績評価方法：期末レポート，小レポート，および授業への参加状況を総合して評価する。

教科書：『数学的・科学的リテラシーの心理学ー子どもの学力はどう高まるかー』(藤村宣之著，有斐閣，2012年)

参考書：授業時に適宜，指示し，資料を配布する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-07	**担当教員**：鶴田　清司	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（言語教育・発展研究）

講義題目(和文)：対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり

講義題目(英文)：Designing the Class of Japanese for Improving the Ability of Dialogue, Criticism, Application

授業の目標・概要：ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査(PISA)の結果、日本の高校生の「読解力(reading literacy)」に問題があることが明らかになった。我が国では「PISA 型読解力」と呼ばれて、新しい学習指導要領にも大きな影響を与えている。しかし、それを新たな受験学力として試験対策に走るという傾向も一部に見られる。そうではなく、日常の授業の本質的な改善のための契機とすべきである。さまざまなテキスト（発話テキストも含む）を読み解いて自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉を通して適切に表現・伝達して、立場の異なる人々ともコミュニケーションができるようなリテラシーの育成である。

本授業では、こうした基本的立場から、「PISA 型読解力」を対話力・批評力・活用力として捉え直して、それらを育成するための国語科授業づくりの原理や方法について考えていきたい。

授業のキーワード：対話,批評,活用,PISA,PISA 型読解力,読解力,情報の取り出し,解釈,熟考・評価,OECD,キー・コンピテンシー,リテラシー,reading literacy,mathematical literacy,scientific literacy,学力調査,教育評価,全国学力・学習状況調査,文部科学省,中央教育審議会,学習指導要領,国語科教育,読むことの教育,批判読み,吟味読み,クリティカル・リーディング,教科教育,教科間連携,言語能力,言語活動,授業づくり,協同的学び合い,論理的思考力,論理的表現力,

授業計画：１：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その１）

２：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その２）

３：「読解力」の本質と意義～「キー・コンピテンシー」(DeSeCo) との関係～

４：学習指導要領や全国学力・学習状況調査（国語 B）への PISA の影響

５：「読解力向上に関する指導資料～PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」の検討

６：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その１）

７：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その２）

８：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その１）

９：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その２）

10：「PISA 型読解力」の育成に向けての国語科と他教科との連携のあり方
～国語科で育てる基礎的な「読解力」と各教科固有の「読解力」の異同～

11：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～協同的な学び合いの成立～

12：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～根拠・理由・主張の３点セット～

13：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～比べ読みによる批評～

14：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～知識・技能の柔軟な活用～

15：まとめと振り返り

授業の方法：演習形式（講義・模擬授業を含む）

成績評価方法：演習への参加状況とレポートなどを総合して評価する。

教科書：鶴田清司『対話・批評・活用の力を育てる国語の授業～PISA 型読解力を超えて～』(2010 年、明治図書)

参考書：適宜指示する。

履修上の注意：PISA および PISA 型読解力について、ある程度の予備知識を持って参加してほしい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-08	**担当教員**：佐野　靖	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育内容開発・理論研究（芸術教育・発展研究）

講義題目(和文)：芸術教育の実践研究

講義題目(英文)：Practical Research on Art Education

授業の目標・概要：芸術教育としての音楽教育に焦点をしぼり、人間と音楽の多様なかかわりを学習と教育という視点からアプローチする。実践研究として音楽科の授業研究に取り組み、そこから浮かび上がってくる事象・出来事を読み取り、解釈することを通して、理論の再構成を図る。

授業のキーワード：「芸術教育」「音楽教育と音楽科教育」「音楽科カリキュラムと授業研究」「音楽教師」

授業計画：１．芸術教育としての音楽教育
２．音楽教育における理論と実践
３．音楽教育の目的・目標
４．音楽教育の内容・方法
５．音楽教育の歴史
６．音楽科教育の現状と課題
７．音楽科カリキュラム論
８．音楽科授業論
９．音楽科における授業研究の方法論
10. 授業研究の実際①
11. 授業研究の実際②
12. 授業研究の実際③
13. 音楽教師に求められる資質・能力
14. 学び手としての教師
15. 総括
14. 芸術教育の

授業の方法：講義・ディスカッション・グループワーク

成績評価方法：授業内での発表及び議論の内容、ならびにレポート等によって総合的に評価する。

教科書：特になし。必要に応じて資料等を配布する。

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-09	担当教員：北村　友人	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育内容開発・理論研究（人文社会教育・発展研究）

講義題目(和文)：グローバル時代における教育の公共性

講義題目(英文)：Public Nature of Education in the Era of Globalization

授業の目標・概要：教育のグローバル化が進展するなか、効率性（efficiency）などを重視する「市場化」の動きが激しい。そうしなか、本来、教育が果たすべき役割は何であるのか、人々が教育に求めるものは何かといった問題について考えることが欠かせない。とくに、国内外を問わず、経済格差が開くように「教育格差」が拡大していることは明らかであり、教育をめぐる公平性（equality）や公正さ（equity）の問題について深く考えることが重要である。こうした観点から、本講義では、教育の「公共性」について、国内外のさまざまな教育改革の事例などを幅広く見渡しながら、考えていきたい。

授業のキーワード：グローバル化,公共性,市場化,競争原理,効率性,公平性,公正さ,教育改革

授業計画：基本文献にもとづきながら、以下の項目に沿って議論を行う。

1. 導入：講義の説明
2. 教育の公共性(1)
3. 教育の公共性(2)
4. 新自由主義と教育政策の流動性
5. 教育における国家と市場
6. 国際的な教育推進ネットワーク
7. 新しい教育へのアプローチ
8. 教育とビジネス
9. 21 世紀の教育改革－「公共性」とは？－(1)
10. 21 世紀の教育改革－「公共性」とは？－(2)

授業の方法：受講者が基本文献の担当箇所について発表を行い、その後、全体での討論を行う。

成績評価方法：期末レポート（50%）、基本文献の担当箇所についての発表（30%）、議論への参加・貢献（20%）

教科書：Stephen J. Ball (2012) Global Education Inc.：New Policy Networks and the Neo-liberal Imaginary. New York and London: Routledge.

参考書：講義のなかで適宜指示する。

履修上の注意：議論への積極的な参加を期待する。

その他：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-10	**担当教員**：藤原　顕	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（教育内容開発・発展研究）

講義題目(和文)：質的方法による教育経験の研究

講義題目(英文)：Qualitative Methods in Research on Teaching Experience

授業の目標・概要：この授業では、質的方法を用いて、授業等の学校教師の教育経験（一部、学習者の学習経験を含む）を研究する際に考慮すべき諸論点について検討しながら、そうした研究に関する基本枠組みを理解することが目標となる。授業では、①質的研究におけるリサーチ・クエスチョンの立て方、②研究者と研究参加者の関係の在り方（研究参加者の選定、研究関係における権力性等）、③データ収集の方法（参与観察、インタビュー等）、④データ分析の方法（談話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ等）、⑤研究成果の著述の在り方（事例の記述、個別具体的な事例の意味等）、⑥研究成果の評価規準といった諸論点を扱う。受講者は、これら論点に関する解説を聴取しつつ、論点に対応した文献（事前に読了のこと）レビューを踏まえながら、教育（学習）経験の研究の在り方についてディスカッションを行う。また、特に④に関わっては、実際に質的データを分析する活動に取り組む。

授業のキーワード：学校教師,教育経験（学習経験）,質的研究（質的方法）,リサーチ・クエスチョン,研究者－研究参加者関係,研究参加者の選定,研究における権力関係,質的データの収集方法,参与観察,インタビュー,ナラティヴ,ライフストーリー,質的データの分析方法,概念（カテゴリー）化,談話分析,グラウンデッド・セオリー・アプローチ,研究成果の著述,事例研究（事例の記述,事例の意味）,ライフヒストリー,研究の評価規準

授業計画：【１日目】
１　§０ガイダンス：授業の構成と概要の提示、藤原の研究歴の紹介
２　§１質的研究におけるリサーチ・クエスチョン：受講者からの研究テーマ聴取
３　§２研究関係　　2.1 研究参加者の選定：藤原の研究例から
【２日目】
４　§２研究関係　　2.2 研究における権力関係：文献①②のレビュー
５　§３データ収集　3.1 参与観察：文献③のレビュー
６　§３データ収集　3.2 インタビュー：文献④のレビュー
７　§４データ分析　4.1 談話分析：文献⑤のレビュー
８　§４データ分析　4.2 グラウンデッド・セオリー・アプローチ：文献⑥のレビュー
【３日目】
９　§４データ分析　4.3 インタビュー・データの分析ワークショップ
10　　〃
11　§５著述　　5.1 カテゴリー中心的記述／事例中心的記述：文献⑦のレビュー
12　§５著述　　5.2 個別具体的な事例の意味：文献⑧のレビュー
13　§５著述　　5.3 事例と理論の関係：文献⑨のレビュー
【４日目】
14　§６評価規準：文献⑩のレビュー
15　§７まとめとふり返り：授業内容全体に関わる質疑応答と議論

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップ等による

成績評価方法：各時間に提出するミニ・レポート（上記諸論点に関する解説やレビューした文献に関するコメントを記載）によって評価

教科書：○下記の書籍を購入のこと
グループ・ディダクティカ（編）.(2012). 教師になること、教師であり続けること: 困難の中の希望. 勁草書房.
☞上記「授業計画」中の文献②（８章；藤原顕・荻原伸論文）、③（10 章；吉永紀子論文）、④（７章森脇健夫論文）、⑨（６章；松崎正治論文）を所載。これらについては事前に読了のこと。
○上記「授業計画」中の以下の文献を、図書館でコピーまたはネットから DL（CiNii で検索）し、事前に読了のこと。
文献①：藤原顕（2013）. 教師のライフヒストリー研究に関する方法論の検討. 福山市立大学教育学部研究紀要, 1, ○-○（頁数未定）. ☞CiNii で検索
文献⑤：一柳智紀（2008）. 「聴くことが苦手」な児童の一斉授業における聴くという行為 ： 「対話」に関するバフチンの考察を手がかりに. 教育方法学研究: 日本教育方法学会紀要 33, 1-12. ☞CiNii で検索
文献⑥：酒井都仁子, 岡田加奈子（2005）. 学校保健: 中学校保健室頻回来室者にとっての保健室の意味深まりプロセスおよびその影響要因. 木下康仁（編）, 分野別実践編: グラウンデッド・セオリー（pp.216-261）. 弘文堂. ☞図書館に所蔵
文献⑦：藤原顕, 今宮信吾, 松崎正治（2007）. 教科内容観にかかわる国語科教師の実践的知識: 詩の創作の授業を中心とした今宮信吾実践に関する事例研究. 国語科教育, 62, 59-66. ☞CiNii で検索
文献⑧：濱田秀行（2010）. 小説の読みの対話的な交流における「専有」. 国語科教育, 68, 43-50. ☞CiNii で検索
文献⑩：シュワント, T. A., 伊藤勇ほか（監訳）.（2009）. 質的研究用語事典. 北大路書房. ☞pp.118-122 の「真実性の規準」「信用性の規準」「信頼性」、pp.147-149 の「妥当性」、pp.214-215 の「本当らしさ」の各項 ☞図書館に所蔵

参考書：デンジン, N. K., リンカン, I. S.（編）, 平山満義（監訳）, 藤原顕（編訳）.（2006）. 質的研究ハンドブック２巻: 質的研究の設計と戦略. 北大路書房.

関連ホームページ：http://www.fcu.ac.jp/dep/fujiwara.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-11	**担当教員**：西岡　加名恵	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・理論研究（教育内容開発・発展研究）

講義題目(和文)：カリキュラム開発と教育評価

講義題目(英文)：Curriculum Development and Educational Assessment

授業の目標・概要：近年、日本においても、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めることが求められている。学校におけるカリキュラム（教育課程）編成を考えるうえで、昨今、注目されているパフォーマンス評価は、新たな展望を拓くものである。そこで本科目では、カリキュラムや教育評価に関わる基本的な概念を確認するとともに、その理論と実践について検討することを通して、具体的なカリキュラム編成や教育評価の進め方について考察したい。

授業のキーワード：教育目的・教育目標,教材・教具,指導過程と学習形態,カリキュラム,教育課程,系統主義,経験主義,教育評価,学力評価,「逆向き設計」論,「本質的な問い」,「永続的理解」,パフォーマンス評価,パフォーマンス課題,ルーブリック,ポートフォリオ評価法,高大接続,入試

授業計画：下記のテーマについて、それぞれ１～３時間程度で扱う。

１．オリエンテーション
２．教育方法学の基本概念
３．様々な学力評価の方法　――パフォーマンス評価とは何か――
４．カリキュラムの編成原理
５．「逆向き設計」論にもとづくカリキュラム設計
６．パフォーマンス評価の進め方
７．高大接続・入試改革を考える
８．まとめ

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップなどを行う。

成績評価方法：授業中に指定する課題により評価する。

教科書：田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第３版)』有斐閣、2011 年

参考書：西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003 年
西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価－中学校』学事出版、2009 年
G.ウィギンズ、J.マクタイ（西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012 年
その他については、授業中に紹介する。

履修上の注意：授業中、パフォーマンス課題の作成を求めるので、パフォーマンス課題を考えてみたい教科・学年について、学習指導要領と教科書を用意しておくこと。なお、パフォーマンス課題とは、複数の知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を意味する。具体的には、レポートやプレゼンテーションなどにより評価する方法である。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-12	**担当教員**：浜田　博文	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育内容開発・理論研究（教育内容開発・発展研究）			
講義題目(和文)：学校経営とリーダーシップ			
講義題目(英文)：School Management and Leadership			

授業の目標・概要：【目標】学校を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を習得する。

【概要】「学校の自律性」に関する政策と研究の動向を踏まえて現代の学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。「組織」としての学校の特徴を確かめ、学校改善過程の事例を検討することを通じて、学校において有効なリーダーシップのあり方について考えたい。

授業のキーワード：学校の自律性、学校組織、学校経営、リーダーシップ、学校改善、組織文化、教師のエンパワーメント

授業計画：およそ下記のテーマに沿って進める。

1. 現代日本の教育改革の中の「学校の自律性」について
2. 従来の日本の学校経営をめぐる議論
3. 日本の学校経営の現状
4. アメリカの教育改革と学校経営の実態
5. アメリカの学校経営に対する本格的な問題意識と校長職研究
6. 日本における「学校の自律性」と学校改善―教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ

授業の方法：講義とディスカッションを適宜おりまぜながら進行する。

成績評価方法：ディスカッションへの貢献度および最終課題レポートの内容に基づいて評価を行う。

教科書：浜田博文編著『学校を変える新しい力』（小学館、2012 年 3 月）

ほかに、実施時に、独自に作成した資料を配布する。

参考書：浜田博文著『「学校の自律性」と校長の新たな役割』（一藝社、2007 年）

小野由美子・淵上克義・浜田博文・曽余田浩史編著,『学校経営研究における臨床的アプローチの構築―研究－実践の新たな関係性を求めて―』（北大路書房，2004 年）

など

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-13	担当教員：秋吉　貴雄	単位数：2	学期：冬
授業科目：教育内容開発・理論研究（教育内容開発・発展研究）			
講義題目(和文)：教育政策の公共政策学的分析			
講義題目(英文)：Public Policy Analysis in Education			

授業の目標・概要：本講義では、公共政策学の「of の知識（政策過程に関する知識)」の習得とそれをもとにした政策過程分析の習得を目標としています。本講義ではまず政策過程分析を行うための基礎知識及び分析ツールについて講義を行い、その後グループもしくは個人の単位で実際の政策過程分析を行い、相互に検討を行っていきます。

授業のキーワード：公共政策,政策過程

授業計画：第１回：ガイダンス

第２回：公共政策の基礎概念

第３回：政策問題の構造化

第４回：アジェンダ設定

第５回：公共政策の手段

第６回：政策決定の構造

第７回：政策決定と利益

第８回：政策決定と制度

第９回：政策決定とアイディア・言説

第１０回：政策決定と政策学習

第１１回：政策過程分析演習①（利益アプローチ）

第１２回：政策過程分析演習②（制度アプローチ）

第１３回：政策過程分析演習③（アイディアアプローチ）

第１４回：政策過程分析演習④（政策学習アプローチ）

第１５回：総合討論

授業の方法：講義、ディスカッション

成績評価方法：試験もしくは課題レポートによる評価

教科書：秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣

参考書：未定

履修上の注意：教育行政学等の講義を受講されているとより理解が深まると思われます

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-14	**担当教員**：藤村　宣之	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・事例研究）

講義題目(和文)：教科教育の心理学的事例研究

講義題目(英文)：Psychological Case Studies of Education in Subject Areas

授業の目標・概要：各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。初等・中等教育における各教科の授業について，授業の録画記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し，その方法に熟達することを目標とする。初等・中等教育における各教科（算数・数学科，理科，国語科など）の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について，発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い，心理学の視点から考察を行う。

授業計画：１：イントロダクション
２：数学科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）
３：数学科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）
４：数学科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）
５：理科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）
６：理科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）
７：理科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）
８：国語科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）
９：国語科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）
１０：国語科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）
１１：算数科授業についての事例研究（①指導案および先行実践の検討）
１２：算数科授業についての事例研究（②授業ビデオについての個別探究）
１３：算数科授業についての事例研究（③授業ビデオについての協同探究）
１４：授業時のワークシートの分析
１５：まとめ

授業の方法：各教科の授業についての指導案，ビデオ記録，ワークシート等について，個別に，また集団で発表・検討・討論を行い，個別に考察する。

成績評価方法：授業時の発表およびレポートによる。

教科書：なし

参考書：適宜，指示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-15	**担当教員**：藤江　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・事例研究）

講義題目(和文)：授業の事例研究

講義題目(英文)：Case Method of Teaching

授業の目標・概要：さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。

自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。

授業のキーワード：授業　事例 実践記録 逐語記録　分析　教室談話

授業計画：第１回：ガイダンス　授業研究、事例分析の基本的な考え方

第２回：事例検討Ａ①小学校の事例　中学年、高学年の授業

第３回：事例検討Ａ②小学校の事例　低学年の授業、幼小連携

第４回：事例検討Ａ③中学校の事例　科学教育

第５回：事例検討Ａ④中学校の事例　小中連携

第６回：事例検討Ａ⑤高等学校の事例　協働学習

第７回：事例検討Ｂ①小学校の事例　国語科、社会科、算数科、理科の授業

第８回：事例検討Ｂ②小学校の事例　生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科の授業

第９回：事例検討Ｂ③中学校の事例　国語科、社会科、数学科、理科、英語科の授業

第１０回：事例検討Ｂ④中学校の事例　音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科の授業

第１１回：事例検討Ｂ⑤高等学校の事例　理科、外国語の授業

第１２回：事例検討Ｃ①事例の抽出・記述　授業記録、エピソード記述のあり方

第１３回：事例検討Ｃ②分析視点の設定　分析カテゴリーの設定、解釈枠組みのあり方

第１４回：事例検討Ｃ③分析の実施　コーディングと集計、記述における妥当性と信頼性

第１５回：事例検討Ｃ④分析のまとめと解釈　一般化と再文脈化

授業の方法：（１）全員で１単位時間の授業事例をみて検討する。

受講者が交替で事例提供を行う。事例提供者は記録に加えて補足資料を用意する。

（２）同一授業記録をグループで検討する。

小集団で同一授業を解釈、分析、グループ内、グループ間で交流する。

同一の実践でも、見る者によって見え方、解釈の在り方が異なること、視点や解釈の多様性のなかにある共通性、などに気づくことを大切にし、参加者相互の実践を研究する際のセンスを高めることを目指す。

成績評価方法：演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。

教科書：使用しない

参考書：秋田喜代美・藤江康彦（編）『事例から学ぶ　はじめての質的研究法　教育・学習編』（東京図書）、2007

秋田喜代美・キャサリン・ルイス（編）『授業の研究　教師の学習』明石書店、2008

履修上の注意：45 分～50 分の授業を見て検討を行うため、時間が延長することがある。このことを了承のうえで参加されたい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-16	担当教員：浅井　幸子	単位数：2	学期：冬

授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・事例研究）

講義題目(和文)：教職開発事例研究

講義題目(英文)：Case Studies of Teacher Professional Development

授業の目標・概要：教育や保育の実践記録を読むこと、記録の方法に関する文献を読むこと、授業の映像を検討すること、授業研究の方法に関する文献を読むことを通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。

授業計画：大きく分けて２つの活動を予定している。一つ目は実践記録に関わる。教師や保育者による実践記録を読みあい、その記録の内容や方法について考察する。二つ目は授業に関わる。授業の映像を検討し、具体的な授業から学びたい。

授業の方法：文献や映像をもとに参加者でディスカッションを行う。

成績評価方法：参加と課題レポートによる。

教科書：特になし。

参考書：鯨岡峻『エピソード記述を読む』東京大学出版会、２０１２年。
その他、適宜授業中に紹介する。

履修上の注意：特になし。

その他：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-17	担当教員：秋田　喜代美	単位数：2	学期：夏

授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・実地研究）

講義題目(和文)：授業の実地研究

講義題目(英文)：Fieldwork on Learning in Subject Areas

授業の目標・概要：各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。

授業のキーワード：フィールドワーク,学校,研究テーマ,調査,観察,記録

授業計画：最初２時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。

授業の方法：各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低２単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない.中間報告会および最終報告会への参加がもとめられる。

成績評価方法：フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。

参考書：必要に応じて履修中に指示する。

履修上の注意：フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを１５時間以上実施することが必要である。
修士１年の院生は冬学期以降の履修を原則とする。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-18	**担当教員**：斎藤　兆史	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・実地研究）			
講義題目(和文)：教科学習の実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork on Learning in Subject Areas			
授業の目標・概要：学校におけるフィールドワーク（授業観察・調査など）のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。 **授業のキーワード**：フィールドワーク **授業計画**：最初２時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。 **授業の方法**：各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低２単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。 **成績評価方法**：フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。 **教科書**：使用しない。 **参考書**：必要に応じて指示する。 **履修上の注意**：フィールドワークを実施する際には、１５時間以上実施することが必要である。修士１年の院生、および初めてフィールドワークを履修する博士１年の院生は、冬学期以降の履修を原則とする。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：302-19	**担当教員**：金森　修	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（数学・科学教育・論文指導）			
講義題目(和文)：科学技術教育論文指導			
講義題目(英文)：Research of Dissertation			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。金森が知識論・学問論、今井が教育哲学・教育思想史、小玉が教育人間学・教育思想、福島が障害者教育・障害学、川本が西洋教育史、田中が教育臨床学を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 なお、修士学位論文は４００字詰め原稿用紙に換算して２００枚以内にまとめること。 **授業の方法**：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-20	**担当教員**：秋田　喜代美	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（言語教育・論文指導）			
講義題目(和文)：授業研究論文指導			
講義題目(英文)：Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons			
授業の目標・概要：授業研究や保育研究について、言語教育に関する視点からアプローチすることによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。 **授業のキーワード**：授業研究, 言語教育, 談話分析, 教師, 文章理解, 実践研究 **授業計画**：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当概念にできるように指導を行なう。 **授業の方法**：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の絞り方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学びあう方法を取る。 なお本論文指導は、総合教育科学専攻　教育心理学コースの教授学習分野論文指導と時間割上同時に開講される。 **成績評価方法**：本演習への参加およびＭＬへの参加、個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。 **教科書**：指定なし **参考書**：指定なし **履修上の注意**：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。 **関連ホームページ**：なし **その他**：特になし			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-21	**担当教員**：斎藤　兆史	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（言語教育・論文指導）			
講義題目(和文)：外国語教育論文指導			
講義題目(英文)：Dissertaiton Research in Foreign Language Education			
授業の目標・概要：外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。 **授業のキーワード**：外国語教育, 英語教育 **授業計画**：履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。 **授業の方法**：基本的に面談指導を行う。 **成績評価方法**：論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進度、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。 **教科書**：なし。 **参考書**：履修者それぞれの論文に合わせてそのつど指示する。 **履修上の注意**：十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-22	**担当教員**：川本　隆史	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：教育内容開発・論文指導（人文社会教育・論文指導）			
講義題目(和文)：人文社会教育論文指導			
講義題目(英文)：Instruction in Essay-Writing on Humanities and Social Sciences Education			
授業の目標・概要：教育内容開発コース（人文社会教育）の学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。なお改めて注意するまでもないことだろうが、そもそも論文（とりわけ人文社会教育に関わる論考）を執筆するにあたって、いわゆる「王道」が敷かれていたり、安直なマニュアルが用意されているわけではない。自ら鍛え上げた問題関心と事象に迫ろうとするひたむきな努力とが結びついて初めて、論文を作品化する道が拓けてくるのである。 ″QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO″ **授業の方法**：研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。 **成績評価方法**：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-23	**担当教員**：藤村　宣之	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（教育内容開発・論文指導）			
講義題目(和文)：教育内容開発・論文指導			
講義題目(英文)：Research of Dissertation			
授業の目標・概要：教科教育（特に算数・数学教育，科学教育）に関連する研究についての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に，研究の進め方，論文の書き方などに関する指導を行う。 **授業の方法**：参加者は，一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い，その発表内容について，参加者全員で集団的に検討を行う。 **成績評価方法**：授業におけるプレゼンテーションの内容，および授業への参加度にもとづいて評価する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-24	**担当教員**：佐野　靖	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（芸術教育・論文指導）			
講義題目(和文)：芸術教育論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Art Education			
授業の目標・概要：芸術教育の研究に関する方法・内容を教授し、論文を書き上げるまでの指導を行う。 **授業のキーワード**：「芸術教育」「研究手法」「論文指導」 **授業計画**：履修学生それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方等を個別に指導する。 **授業の方法**：基本的に面談指導を行う。 **成績評価方法**：研究の進捗と成果、面談への取り組みなどを総合的に評価する。 **教科書**：なし **参考書**：論文の内容に合わせてその都度指示をする。 **履修上の注意**：十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-25	**担当教員**：北村　友人	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：教育内容開発・論文指導（人文社会教育・論文指導）			
講義題目(和文)：人文社会教育論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education			
授業の目標・概要：修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。 **授業計画**：論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。 1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得 **授業の方法**：受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。 **成績評価方法**：学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-26	**担当教員**：大桃　敏行	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・実地研究）			
講義題目(和文)：教育政策実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものを含む）を通して、教育政策の理論的・実践的問題を探求し、自らの研究構想を深めることを目標とする。 **授業のキーワード**：教育政策,フィールドワーク **授業計画**：実地研究の方法の説明、研究計画の作成、中間報告、調査結果の報告と最終レポートの作成を行う。 **授業の方法**：受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 **成績評価方法**：中間報告、最終報告、レポートによる。 **教科書**：使用しない。 **参考書**：適宜、授業で指示する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-27	**担当教員**：村上　祐介	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・実地研究）

講義題目(和文)：教育行政実地研究

講義題目(英文)：Fieldwork in Educational Administration

授業の目標・概要：教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習など）を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探求し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。

受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。

授業のキーワード：調査研究, 実地調査, フィールドワーク, 事例研究, 研究計画, リサーチデザイン

授業計画：第１回：授業に関するガイダンス
第２回：実地研究の方法の説明（１）
第３回：実地研究の方法の説明（２）
第４回：研究計画の作成・検討（１）
第５回：研究計画の作成・検討（２）
第６回：中間報告（１）
第７回：中間報告（２）
第８回：中間報告（３）
第９回：中間報告までのまとめ
第１０回：調査結果報告と検討（１）
第１１回：調査結果報告と検討（２）
第１２回：調査結果報告と検討（３）
第１３回：実地研究のまとめ（１）
第１４回：実地研究のまとめ（２）
第１５回：実地研究のまとめ（３）

授業の方法：受講生による研究報告と討論によって授業を進める。

成績評価方法：中間報告とレポートによって評価を行う。

教科書：特になし

参考書：初回の授業時に指示する

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：302-28	**担当教員**：勝野　正章	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：教育内容開発・実践研究（教育内容開発・実地研究）			
講義題目(和文)：学校経営実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in School Management			
授業の目標・概要：学校経営の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む）を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。 **授業のキーワード**：学校経営,フィールドワーク **授業計画**：最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。 **授業の方法**：受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 **成績評価方法**：中間報告、最終報告（レポート）によって評価する。 **教科書**：なし **参考書**：なし **履修上の注意**：なし **その他**：なし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

学校教育高度化専攻　学校開発政策コース

科目番号：303-01	**担当教員**：大桃　敏行	**単位数**：2	**学期**：夏
授業科目：学校開発政策・理論研究（教育政策研究・基礎研究）			
講義題目(和文)：教育政策基礎論			
講義題目(英文)：Foundation of Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策研究の基本事項を学び、教育の公共管理システムの転換、教育行財政制度改革、教育政策の展開、教育保障における公教育の責任について理解を深めることを目標とする。授業計画に示す事項について講義し、討議を通じて理解を深める。日米比較の視点を含めて検討を進める。 **授業のキーワード**：教育政策,教育行政,分権改革,規制改革,公教育 **授業計画**：次の順で検討を進める。 １）教育政策と教育政策研究、２）教育の組織化と教育の公共管理システムの形成、３）教育行政制度改革、４）教育財政制度改革、５）教育政策過程、６）分権改革と教育政策、７）規制改革と教育政策、８）教育におけるスタンダード・アセスメント政策、９）教育保障における公教育の責任。 **授業の方法**：講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。 **成績評価方法**：討議への参加とレポートによる。 **教科書**：項目ごとにレジュメを作成し配布する。 **参考書**：項目ごとに授業で指示する。			

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-02	**担当教員**：中田　康彦	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（教育政策研究・基礎研究）

講義題目(和文)：教育政策と教育法

講義題目(英文)：Education Policy and Laws

授業の目標・概要：１）教育法の体系を理解し、その論理に基づいた解釈ができるようになる。
２）教育法の生成と変容の過程として、教育政策過程と教育法制の間に存在する力学を説明できるようになる。
３）日常に発生する教育法紛争について、論点を指摘し、解決策を導き出せるようになる。

授業のキーワード：教育法、教育政策、教育行政、学校経営、教育の自由、学習権

授業計画：１．教育法の体系
２．教育法理論史
３．教育課程編成と第一の教育法関係
４．生徒懲戒と第二の教育法関係
５．生徒の思想信条の自由
６．親の学校選択の自由と就学義務
７．教師の教育の自由と職務責任
９．教師の身分上と職務上の義務
10.いじめ問題と学校の教育責任
11.学校事故と学校の監督・管理責任
12.社会教育施設の利用
13.私立学校経営の自由と公教育
14.教育の政治的中立性
15.教育の宗教的中立性

授業の方法：ケーススタディに基づくディスカッション形式を中心とし、議論の整理・解説として、教育法規の基礎知識に関する講義を行う。あらかじめ用意された事例や指定された文献について、論点を自分なりに考えてきて授業に臨むことが求められる。

成績評価方法：平常点。受講者は１度は授業中に報告することが求められる。

教科書：特に指定しない。

参考書：講義中に個別に指示する。
古典として下記の文献に事前に目を通しておくことが望ましい。
兼子仁『教育法[新版]』有斐閣、1977 年
奥平康弘「教育を受ける権利」芦部信喜『憲法Ⅲ人権(2)』有斐閣、1981 年
今橋盛勝『教育法と法社会学』三省堂、1983 年

履修上の注意：積極的な参加が望まれる。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-03	担当教員：勝野　正章	単位数：2	学期：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・基礎研究）

講義題目(和文)：現代学校改革の諸問題

講義題目(英文)：Issues in Contemporary School Reforms

授業の目標・概要：現代日本の学校改革に関する政策と制度改革について広く知識を獲得するとともに、社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。学校改革に関する理論的理解が可能になるよう、内外の研究を概観する。

授業のキーワード：学校改革,教育政策,学校制度,学校経営,学校組織

授業計画：以下のようなテーマをとりあげる。

1. 学校改革の基本モデル

PA モデル

アカウンタビリティ

マネジリアリズム

市場（競争と選択）

連携・協働・パートナーシップ

2. 学校改革の具体的問題

学校組織・文化改革

リーダーシップ

学校評価

学校改善

教員評価

学校財務

授業の方法：講義とその内容に関するディスカッションにより進める。

成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。

教科書：なし

参考書：小川正人・勝野正章『教育経営論』（放送大学教育振興会）

履修上の注意：なし

その他：なし

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-04	**担当教員**：髙木　展郎	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）

講義題目(和文)：ことばの教育と授業

講義題目(英文)：Language Education in School Lessons

授業の目標・概要：学校教育における授業は、それぞれの国のことばによって行われている。日本においては、そのほとんどを、母語としての日本語によって授業が行われており、国語科という教科によってその中心的な母語教育が行われている。しかし、教科国語のみでことばの教育が行われるのみでなく、様々な教科の授業を通して行われていることも事実である。そこで、ことばの教育が授業の中でどのように行われているのか、その現状をとらえつつ、ことばの教育が様々な教科の授業にどのように機能するかについて，これまでの教育課程の変遷を通して考察する。

授業のキーワード：ことばの教育,コミュニケーション

授業計画：第１回：ことばの持つ役割と教育における意味
第２回：教育課程とことばの教育Ⅰ
第３回：教育課程とことばの教育Ⅱ
第４回：教育課程とことばの教育Ⅲ
第５回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅰ
第６回：ことばの学びと「思考力・判断力・表現力」Ⅱ
第７回：各教科等における言語活動の充実Ⅰ
第８回：各教科等における言語活動の充実Ⅱ
第９回：各教科におけることばの教育と授業
第１０回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅰ
第１１回：授業研究のあり方と授業の実際Ⅱ
第１２回：指導構成と授業づくり
第１３回：指導計画と授業づくり
第１４回：授業における指導計画と評価
第１５回：ことばの教育における評価

授業の方法：基本的には、各回ごとに、資料（DVD を含む）をもとに、そこに示されている内容（小中学校の授業の様子・内容）から、授業にことばがどのように関わっているのか、ということに焦点を当て、討論をとおしてその意味を明らかにするとともに、授業のあり方を考察する。

成績評価方法：授業は、基本的に資料を基に、その資料内容について討論を通して考察を行う。授業終了後、その会の授業のリフレクションを宿題とし、各回ごとの授業を振り返り再構成して吟味し、次回の授業につなげていく。このリフレクションの内容によって、評価を行う。

教科書：学習指導要領（平成２０年版、小学校・中学校）・『言語活動の充実のための参考資料(中学校版)』(文部科学省)その他、プリント資料・DVD 等

参考書：イ・ヨンスク 『「国語」という思想』1996 岩波書店、

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-05	**担当教員**：村上　祐介	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（教育政策研究・発展研究）

講義題目(和文)：教育政策研究のための計量分析

講義題目(英文)：Quantitative Analysis for Education Policy Studies

授業の目標・概要：この授業は，教育行政・政策研究における計量分析の方法論的基礎を理解することを目標とする。

教育行政・政策研究には様々な方法がありうるが，データを用いた計量分析はその一つである。この授業では基本的な分析手法を中心に，計量分析を用いた教育行政・政策研究の論理と技法を学ぶ。

授業のキーワード：教育行政、教育政策、計量分析、定量的研究、リサーチ・デザイン、因果的推論、記述的推論、統計学

授業計画：※初めてこの授業を担当するため，受講生と相談のうえで，予定を変更する可能性もある。

１．授業に関するガイダンス
２．リサーチ・デザインの方法（１）
３．リサーチ・デザインの方法（２）
４．教育行政・政策に関するデータ・資料の収集
５．記述統計
６．平均値の比較
７．クロス集計表の分析
８．相関分析
９．回帰分析の基礎
10．ロジスティック回帰分析
11．回帰分析の応用（１）
12．回帰分析の応用（２）
13．事例分析への応用（１）
14．事例分析への応用（２）
15．授業のまとめ

授業の方法：指定された文献をあらかじめ読んでいることを前提として，講義と討論を組み合わせながら授業を進める。

成績評価方法：授業への参加度と期末レポートにより評価を行う。

レポートは，計量分析を用いた論文に対するコメントを作成するか，もしくは自分で設計・分析したリサーチの結果をまとめる。

教科書：増山幹高・山田真裕（2004）『計量政治分析入門』東京大学出版会

参考書：伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門』東京大学出版会
浅野正彦・矢内勇生（2013）『Stata による計量政治学』オーム社
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社
その他の参考書は初回の授業時に指示する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-06	**担当教員**：浜田　博文	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）			
講義題目(和文)：学校経営とリーダーシップ			
講義題目(英文)：School Management and Leadership			

授業の目標・概要：【目標】学校を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を習得する。

【概要】「学校の自律性」に関する政策と研究の動向を踏まえて現代の学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。「組織」としての学校の特徴を確かめ、学校改善過程の事例を検討することを通じて、学校において有効なリーダーシップのあり方について考えたい。

授業のキーワード：学校の自律性、学校組織、学校経営、リーダーシップ、学校改善、組織文化、教師のエンパワーメント

授業計画：およそ下記のテーマに沿って進める。

1. 現代日本の教育改革の中の「学校の自律性」について
2. 従来の日本の学校経営をめぐる議論
3. 日本の学校経営の現状
4. アメリカの教育改革と学校経営の実態
5. アメリカの学校経営に対する本格的な問題意識と校長職研究
6. 日本における「学校の自律性」と学校改善―教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ

授業の方法：講義とディスカッションを適宜おりまぜながら進行する。

成績評価方法：ディスカッションへの貢献度および最終課題レポートの内容に基づいて評価を行う。

教科書：浜田博文編著『学校を変える新しい力』（小学館、2012 年 3 月）

ほかに、実施時に、独自に作成した資料を配布する。

参考書：浜田博文著『「学校の自律性」と校長の新たな役割』（一藝社、2007 年）

小野由美子・淵上克義・浜田博文・曽余田浩史編著,『学校経営研究における臨床的アプローチの構築―研究－実践の新たな関係性を求めて―』（北大路書房，2004 年）

など

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-07	担当教員：秋吉　貴雄	単位数：2	学期：冬

授業科目：学校開発政策・理論研究（教育政策研究・発展研究）

講義題目(和文)：教育政策の公共政策学的分析

講義題目(英文)：Public Policy Analysis in Education

授業の目標・概要：本講義では、公共政策学の「of の知識（政策過程に関する知識)」の習得とそれをもとにした政策過程分析の習得を目標としています。本講義ではまず政策過程分析を行うための基礎知識及び分析ツールについて講義を行い、その後グループもしくは個人の単位で実際の政策過程分析を行い、相互に検討を行っていきます。

授業のキーワード：公共政策,政策過程

授業計画：第１回：ガイダンス

第２回：公共政策の基礎概念

第３回：政策問題の構造化

第４回：アジェンダ設定

第５回：公共政策の手段

第６回：政策決定の構造

第７回：政策決定と利益

第８回：政策決定と制度

第９回：政策決定とアイディア・言説

第１０回：政策決定と政策学習

第１１回：政策過程分析演習①（利益アプローチ）

第１２回：政策過程分析演習②（制度アプローチ）

第１３回：政策過程分析演習③（アイディアアプローチ）

第１４回：政策過程分析演習④（政策学習アプローチ）

第１５回：総合討論

授業の方法：講義、ディスカッション

成績評価方法：試験もしくは課題レポートによる評価

教科書：秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣

参考書：未定

履修上の注意：教育行政学等の講義を受講されているとより理解が深まると思われます

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-08	**担当教員**：藤原　顕	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）

講義題目(和文)：質的方法による教育経験の研究

講義題目(英文)：Qualitative Methods in Research on Teaching Experience

授業の目標・概要：この授業では、質的方法を用いて、授業等の学校教師の教育経験（一部、学習者の学習経験を含む）を研究する際に考慮すべき諸論点について検討しながら、そうした研究に関する基本枠組みを理解することが目標となる。授業では、①質的研究におけるリサーチ・クエスチョンの立て方、②研究者と研究参加者の関係の在り方（研究参加者の選定、研究関係における権力性等）、③データ収集の方法（参与観察、インタビュー等）、④データ分析の方法（談話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ等）、⑤研究成果の著述の在り方（事例の記述、個別具体的な事例の意味等）、⑥研究成果の評価規準といった諸論点を扱う。受講者は、これら論点に関する解説を聴取しつつ、論点に対応した文献（事前に読了のこと）レビューを踏まえながら、教育（学習）経験の研究の在り方についてディスカッションを行う。また、特に④に関わっては、実際に質的データを分析する活動に取り組む。

授業のキーワード：学校教師,教育経験（学習経験）,質的研究（質的方法）,リサーチ・クエスチョン,研究者－研究参加者関係,研究参加者の選定,研究における権力関係,質的データの収集方法,参与観察,インタビュー,ナラティヴ,ライフストーリー,質的データの分析方法,概念（カテゴリー）化,談話分析,グラウンデッド・セオリー・アプローチ,研究成果の著述,事例研究（事例の記述,事例の意味）,ライフヒストリー,研究の評価規準

授業計画：【１日目】
１　§０ガイダンス：授業の構成と概要の提示、藤原の研究歴の紹介
２　§１質的研究におけるリサーチ・クエスチョン：受講者からの研究テーマ聴取
３　§２研究関係　　2.1 研究参加者の選定：藤原の研究例から
【２日目】
４　§２研究関係　　2.2 研究における権力関係：文献①②のレビュー
５　§３データ収集　3.1 参与観察：文献③のレビュー
６　§３データ収集　3.2 インタビュー：文献④のレビュー
７　§４データ分析　4.1 談話分析：文献⑤のレビュー
８　§４データ分析　4.2 グラウンデッド・セオリー・アプローチ：文献⑥のレビュー
【３日目】
９　§４データ分析　4.3 インタビュー・データの分析ワークショップ
10　　〃
11　§５著述　　5.1 カテゴリー中心的記述／事例中心的記述：文献⑦のレビュー
12　§５著述　　5.2 個別具体的な事例の意味：文献⑧のレビュー
13　§５著述　　5.3 事例と理論の関係：文献⑨のレビュー
【４日目】
14　§６評価規準：文献⑩のレビュー
15　§７まとめとふり返り：授業内容全体に関わる質疑応答と議論

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップ等による

成績評価方法：各時間に提出するミニ・レポート（上記諸論点に関する解説やレビューした文献に関するコメントを記載）によって評価

教科書：○下記の書籍を購入のこと
グループ・ディダクティカ（編）.(2012). 教師になること、教師であり続けること: 困難の中の希望. 勁草書房.
☞上記「授業計画」中の文献②（８章；藤原顕・荻原伸論文）、③（10 章；吉永紀子論文）、④（７章森脇健夫論文）、⑨（６章；松崎正治論文）を所載。これらについては事前に読了のこと。
○上記「授業計画」中の以下の文献を、図書館でコピーまたはネットから DL（CiNii で検索）し、事前に読了のこと。
文献①：藤原顕（2013）. 教師のライフヒストリー研究に関する方法論の検討. 福山市立大学教育学部研究紀要, 1, ○-○（頁数未定）. ☞CiNii で検索
文献⑤：一柳智紀（2008）. 「聴くことが苦手」な児童の一斉授業における聴くという行為 ： 「対話」に関するバフチンの考察を手がかりに. 教育方法学研究: 日本教育方法学会紀要 33, 1-12. ☞CiNii で検索
文献⑥：酒井都仁子, 岡田加奈子（2005）. 学校保健: 中学校保健室頻回来室者にとっての保健室の意味深まりプロセスおよびその影響要因. 木下康仁（編）, 分野別実践編: グラウンデッド・セオリー（pp.216-261）. 弘文堂. ☞図書館に所蔵
文献⑦：藤原顕, 今宮信吾, 松崎正治（2007）. 教科内容観にかかわる国語科教師の実践的知識: 詩の創作の授業を中心とした今宮信吾実践に関する事例研究. 国語科教育, 62, 59-66. ☞CiNii で検索
文献⑧：濱田秀行（2010）. 小説の読みの対話的な交流における「専有」. 国語科教育, 68, 43-50. ☞CiNii で検索
文献⑩：シュワント, T. A., 伊藤勇ほか（監訳）.（2009）. 質的研究用語事典. 北大路書房. ☞pp.118-122 の「真実性の規準」「信用性の規準」「信頼性」、pp.147-149 の「妥当性」、pp.214-215 の「本当らしさ」の各項 ☞図書館に所蔵

参考書：デンジン, N. K., リンカン, I. S.（編）, 平山満義（監訳）, 藤原顕（編訳）.（2006）. 質的研究ハンドブック２巻: 質的研究の設計と戦略. 北大路書房.

関連ホームページ：http://www.fcu.ac.jp/dep/fujiwara.html

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-09	**担当教員**：西岡　加名恵	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）

講義題目(和文)：カリキュラム開発と教育評価

講義題目(英文)：Curriculum Development and Educational Assessment

授業の目標・概要：近年、日本においても、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めることが求められている。学校におけるカリキュラム（教育課程）編成を考えるうえで、昨今、注目されているパフォーマンス評価は、新たな展望を拓くものである。そこで本科目では、カリキュラムや教育評価に関わる基本的な概念を確認するとともに、その理論と実践について検討することを通して、具体的なカリキュラム編成や教育評価の進め方について考察したい。

授業のキーワード：教育目的・教育目標,教材・教具,指導過程と学習形態,カリキュラム,教育課程,系統主義,経験主義,教育評価,学力評価,「逆向き設計」論,「本質的な問い」,「永続的理解」,パフォーマンス評価,パフォーマンス課題,ルーブリック,ポートフォリオ評価法,高大接続,入試

授業計画：下記のテーマについて、それぞれ１～３時間程度で扱う。

１．オリエンテーション
２．教育方法学の基本概念
３．様々な学力評価の方法　――パフォーマンス評価とは何か――
４．カリキュラムの編成原理
５．「逆向き設計」論にもとづくカリキュラム設計
６．パフォーマンス評価の進め方
７．高大接続・入試改革を考える
８．まとめ

授業の方法：講義、ディスカッション、ワークショップなどを行う。

成績評価方法：授業中に指定する課題により評価する。

教科書：田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第３版)』有斐閣、2011 年

参考書：西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003 年
西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価－中学校』学事出版、2009 年
G.ウィギンズ、J.マクタイ（西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012 年
その他については、授業中に紹介する。

履修上の注意：授業中、パフォーマンス課題の作成を求めるので、パフォーマンス課題を考えてみたい教科・学年について、学習指導要領と教科書を用意しておくこと。なお、パフォーマンス課題とは、複数の知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を意味する。具体的には、レポートやプレゼンテーションなどにより評価する方法である。

本研究科他コース学生	**本学他研究科学生**	**他大学学生(特別聴講学生等)**
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-10	**担当教員**：鶴田　清司	**単位数**：2	**学期**：夏

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）

講義題目(和文)：対話・批評・活用の力を育てる国語の授業づくり

講義題目(英文)：Designing the Class of Japanese for Improving the Ability of Dialogue, Criticism, Application

授業の目標・概要：ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査(PISA)の結果、日本の高校生の「読解力(reading literacy)」に問題があることが明らかになった。我が国では「PISA 型読解力」と呼ばれて、新しい学習指導要領にも大きな影響を与えている。しかし、それを新たな受験学力として試験対策に走るという傾向も一部に見られる。そうではなく、日常の授業の本質的な改善のための契機とすべきである。さまざまなテキスト（発話テキストも含む）を読み解いて自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉を通して適切に表現・伝達して、立場の異なる人々ともコミュニケーションができるようなリテラシーの育成である。

本授業では、こうした基本的立場から、「PISA 型読解力」を対話力・批評力・活用力として捉え直して、それらを育成するための国語科授業づくりの原理や方法について考えていきたい。

授業のキーワード：対話,批評,活用,PISA,PISA 型読解力,読解力,情報の取り出し,解釈,熟考・評価,OECD,キー・コンピテンシー,リテラシー,reading literacy,mathematical literacy,scientific literacy,学力調査,教育評価,全国学力・学習状況調査,文部科学省,中央教育審議会,学習指導要領,国語科教育,読むことの教育,批判読み,吟味読み,クリティカル・リーディング,教科教育,教科間連携,言語能力,言語活動,授業づくり,協同的学び合い,論理的思考力,論理的表現力,

授業計画：１：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その１）

２：PISA の概要と「読解力」の出題事例の分析・検討（その２）

３：「読解力」の本質と意義～「キー・コンピテンシー」(DeSeCo) との関係～

４：学習指導要領や全国学力・学習状況調査（国語 B）への PISA の影響

５：「読解力向上に関する指導資料～PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」の検討

６：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その１）

７：国語教育実践史における先導的実践の検討～批判読み・吟味読み～（その２）

８：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その１）

９：静岡県沼津市の「言語科・読解の時間」の実践的取り組みの検討（その２）

10：「PISA 型読解力」の育成に向けての国語科と他教科との連携のあり方
～国語科で育てる基礎的な「読解力」と各教科固有の「読解力」の異同～

11：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～協同的な学び合いの成立～

12：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～根拠・理由・主張の３点セット～

13：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～比べ読みによる批評～

14：対話・批評・活用の力を育てる授業づくり～知識・技能の柔軟な活用～

15：まとめと振り返り

授業の方法：演習形式（講義・模擬授業を含む）

成績評価方法：演習への参加状況とレポートなどを総合して評価する。

教科書：鶴田清司『対話・批評・活用の力を育てる国語の授業～PISA 型読解力を超えて～』(2010 年、明治図書)

参考書：適宜指示する。

履修上の注意：PISA および PISA 型読解力について、ある程度の予備知識を持って参加してほしい。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-11	**担当教員**：佐野　靖	**単位数**：2	**学期**：冬

授業科目：学校開発政策・理論研究（学校教育経営・発展研究）

講義題目(和文)：芸術教育の実践研究

講義題目(英文)：Practical Research on Art Education

授業の目標・概要：芸術教育としての音楽教育に焦点をしぼり、人間と音楽の多様なかかわりを学習と教育という視点からアプローチする。実践研究として音楽科の授業研究に取り組み、そこから浮かび上がってくる事象・出来事を読み取り、解釈することを通して、理論の再構成を図る。

授業のキーワード：「芸術教育」「音楽教育と音楽科教育」「音楽科カリキュラムと授業研究」「音楽教師」

授業計画：１．芸術教育としての音楽教育
２．音楽教育における理論と実践
３．音楽教育の目的・目標
４．音楽教育の内容・方法
５．音楽教育の歴史
６．音楽科教育の現状と課題
７．音楽科カリキュラム論
８．音楽科授業論
９．音楽科における授業研究の方法論
10. 授業研究の実際①
11. 授業研究の実際②
12. 授業研究の実際③
13. 音楽教師に求められる資質・能力
14. 学び手としての教師
15. 総括
14. 芸術教育の

授業の方法：講義・ディスカッション・グループワーク

成績評価方法：授業内での発表及び議論の内容、ならびにレポート等によって総合的に評価する。

教科書：特になし。必要に応じて資料等を配布する。

参考書：授業の中で適宜紹介する。

履修上の注意：特になし。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-12	**担当教員**：大桃　敏行	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（教育政策研究・事例研究）			
講義題目(和文)：教育政策事例研究Ⅰ			
講義題目(英文)：Case Study in Education Policy Ⅰ			
授業の目標・概要：教育政策に関する事例研究を通して、教育政策の理論的・実践的課題について理解を深めることを目標とする。今日の教育改革は「新自由主義」あるいは「新自由主義的」と表現されることがある。今年度はこの「新自由主義」教育改革に関する政策をテーマとする。関連文献の分析を通じて「新自由主義」教育改革についてＮＰＭ改革などとの関連を含めて理解を深め、それに基づき政策の事例分析を行う。日米比較を中心とするが、受講生の研究テーマ・関心と関わって他の国もとりあげる。 **授業のキーワード**：教育政策,教育改革,新自由主義,ＮＰＭ改革 **授業計画**：次の順で授業を進める。 事例研究の方法の説明／「新自由主義」教育改革に関する事前研究／日本と諸外国の政策の事例研究／分析結果のまとめ **授業の方法**：受講生は「新自由主義」教育改革に関する文献や政策事例について報告し、討議を通じて理解を深める。報告内容と検討結果を最終レポートにまとめる。 **成績評価方法**：授業での報告、討議への参加、最終レポートによる。 **教科書**：特に指定しない。 **参考書**：藤田英典・大桃敏行編著『学校改革』日本図書センター、2010 年／北野秋男・吉良直・大桃敏行編著『アメリカ教育改革の最前線―頂点への競争―』学術出版会、2012 年など。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-13	担当教員：村上　祐介	単位数：2	学期：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（教育政策研究・事例研究）			
講義題目(和文)：教育行政事例研究Ⅱ			
講義題目(英文)：Case Study in Educational Administration Ⅱ			

授業の目標・概要：この授業では，近年刊行された教育行政研究の学術書を取り上げ，教育行政に関する様々な事例の検討と，最近の教育行政研究の動向を理解することを目標とする。
授業のキーワード：教育行政,教育政策,文献講読
授業計画：授業は，主に単行本として最近数年間に出版された学術論文を，１冊につき１～２回で講読する。授業で講読する候補となる文献のリスト（下記の参考書はその一部）を初回の授業までに提示し，受講生と相談の上，講読する文献を決定する。
授業の方法：受講者のコメントを基に，相互に議論を行う方法で授業を進める。
なお，報告者は設けず，受講者全員が毎回討論のための論点をメモにまとめて持参することとする。
成績評価方法：授業への参加度（議論への参加を含む）と毎回のコメントの内容により評価を行う。
教科書：教科書は特に指定しない。
取り上げる文献候補のリストは初回の授業までに提示する。
参考書：日本教育行政学会研究推進委員会編（2012)『地方政治と教育行財政改革』福村出版
川上泰彦（2013)『公立学校の教員人事システム』学術出版会
末冨芳（2010)『教育費の政治経済学』勁草書房
藤田祐介・貝塚茂樹（2011)『教育における政治的中立の誕生』ミネルヴァ書房
その他の参考書（文献リスト）は初回の授業までに提示する。
履修上の注意：毎回事前に文献を読んだうえでメモを作成することが求められるので，そのための時間を確保する必要がある。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-14	担当教員：勝野　正章	単位数：2	学期：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（学校教育経営・事例研究）			
講義題目(和文)：学校経営実践の開発Ⅰ			
講義題目(英文)：Developmental Study of School Management Ⅰ			

授業の目標・概要：学校改革の事例をとりあげ、夏学期の「現代学校改革の諸問題で習得した理論や概念をもとに、社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。とりあげる事例については未定。
授業の方法：文献研究のほか、学校の依頼を受けて第三者評価を行うなどの方法を考えているが、詳細は未定。
成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　可	履修　可

科目番号：303-15	担当教員：大桃　敏行	単位数：2	学期：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（教育政策研究・実地研究）			
講義題目(和文)：教育政策実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものを含む）を通して、教育政策の理論的・実践的問題を探求し、自らの研究構想を深めることを目標とする。 授業のキーワード：教育政策,フィールドワーク 授業計画：実地研究の方法の説明、研究計画の作成、中間報告、調査結果の報告と最終レポートの作成を行う。 授業の方法：受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法：中間報告、最終報告、レポートによる。 教科書：使用しない。 参考書：適宜、授業で指示する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：303-16	**担当教員**：村上　祐介	**単位数**：2	**学期**：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（教育政策研究・実地研究）			
講義題目(和文)：教育行政実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in Educational Administration			

授業の目標・概要：教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習など）を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探求し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。

受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。

授業のキーワード：調査研究, 実地調査, フィールドワーク, 事例研究, 研究計画, リサーチデザイン

授業計画：第１回：授業に関するガイダンス
第２回：実地研究の方法の説明（１）
第３回：実地研究の方法の説明（２）
第４回：研究計画の作成・検討（１）
第５回：研究計画の作成・検討（２）
第６回：中間報告（１）
第７回：中間報告（２）
第８回：中間報告（３）
第９回：中間報告までのまとめ
第１０回：調査結果報告と検討（１）
第１１回：調査結果報告と検討（２）
第１２回：調査結果報告と検討（３）
第１３回：実地研究のまとめ（１）
第１４回：実地研究のまとめ（２）
第１５回：実地研究のまとめ（３）

授業の方法：受講生による研究報告と討論によって授業を進める。

成績評価方法：中間報告とレポートによって評価を行う。

教科書：特になし

参考書：初回の授業時に指示する

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：303-17	担当教員：勝野　正章	単位数：2	学期：冬
授業科目：学校開発政策・実践研究（学校教育経営・実地研究）			
講義題目(和文)：学校経営実地研究			
講義題目(英文)：Fieldwork in School Management			
授業の目標・概要：学校経営の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む）を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。 授業のキーワード：学校経営,フィールドワーク 授業計画：最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。 授業の方法：受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法：中間報告、最終報告（レポート）によって評価する。 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　可	履修　不可	履修　不可

科目番号：303-18	担当教員：大桃　敏行	単位数：2	学期：夏冬
授業科目：学校開発政策・論文指導			
講義題目(和文)：教育政策研究論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Education Policy			
授業の目標・概要：修士課程の学生については修士論文の作成、執筆を目的とした指導を、博士課程の学生については博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。 授業のキーワード：教育政策,教育改革 授業計画：具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。 授業の方法：学校経営研究論文指導（勝野准教授)、教育行政研究論文指導（村上准教授）との共同の論文指導となる。 成績評価方法：平常点 教科書：使用しない。 参考書：適宜、指示する。			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：303-19	**担当教員**：村上　祐介	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：学校開発政策・論文指導			
講義題目(和文)：教育行政研究論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in Educational Administration			
授業の目標・概要：修士課程の学生については修士論文の作成、執筆を目的とした指導を、博士課程の学生については博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。 **授業計画**：具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。 **授業の方法**：教育政策研究論文指導（大桃教授），学校経営研究論文指導（勝野准教授）との共同の論文指導となる。 **成績評価方法**：平常点 **教科書**：特になし **参考書**：特になし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

科目番号：303-20	**担当教員**：勝野　正章	**単位数**：2	**学期**：夏冬
授業科目：学校開発政策・論文指導			
講義題目(和文)：学校経営研究論文指導			
講義題目(英文)：Dissertation Research in School Management			
授業の目標・概要：修士課程の院生については、修士論文の作成、執筆を目的とした指導を、博士課程の院生については、博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。 **授業計画**：具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。 **授業の方法**：教育政策研究営論文指導（大桃教授)、教育行政研究論文指導（村上准教授）との共同の論文指導となる。 **成績評価方法**：平常点 **教科書**：なし **参考書**：なし **履修上の注意**：なし **その他**：なし			

本研究科他コース学生	本学他研究科学生	他大学学生(特別聴講学生等)
履修　不可	履修　不可	履修　不可

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　基礎教育学専修　基礎教育学コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
川本　隆史(教授)	授業中に指示する kawamoto@p.u-tokyo.ac.jp
金森　修(教授)	要アポイントメント kanamori1@jcom.home.ne.jp
田中　智志(教授)	授業中に指示する sgtanaka@p.u-tokyo.ac.jp
小玉　重夫(教授)	授業中に指示する skodama@p.u-tokyo.ac.jp
小国　喜弘(教授)	授業中に指示する kokuni@p.u-tokyo.ac.jp
片山　勝茂(准教授)	授業中に指示する QZX04574@nifty.ne.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　比較教育社会学コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
恒吉　僚子(教授)	ゼミメールで伝達する tsuney@p.u-tokyo.ac.jp
本田　由紀(教授)	予めメールでアポイントメントをとること yuki@p.u-tokyo.ac.jp
橋本　鉱市(教授)	予めメールでアポイントメントをとること hasimoto@p.u-tokyo.ac.jp
中村　高康(教授)	予めメールでアポイントメントをとること tnaka@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　生涯学習基盤経営コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
根本　彰(教授)	火曜日午後、それ以外は予めメールでアポイントをとること anemoto@p.u-tokyo.ac.jp
牧野　篤(教授)	随時、但し予めメールでアポイントメントをとること makino@p.u-tokyo.ac.jp
影浦　峡(教授)	講義の前後、それ以外は予めメールでアポイントをとること kyo@p.u-tokyo.ac.jp
李　正連(准教授)	随時、但し予めメールでアポイントメントをとること jylee@p.u-tokyo.ac.jp
新藤　浩伸(講師)	随時、但し予めメールでアポイントメントをとること shindo@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　教育社会科学専修　大学経営・政策コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
山本　清(教授)	コース事務室に問い合わせること
小方　直幸(准教授)	予めメールでアポイントメントをとること nogata@p.u-tokyo.ac.jp
福留　東土(准教授)	2013.8.1 着任予定
両角　亜希子(准教授)	予めメールでアポイントメントをとること morozumi@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　教育心理学コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
佐々木　正人(教授)	要アポイントメント msasaki@p.u-tokyo.ac.jp
市川　伸一(教授)	要アポイントメント ichikawa@p.u-tokyo.ac.jp
南風原　朝和(教授)	要アポイントメント haebara@p.u-tokyo.ac.jp
秋田　喜代美(教授)	要アポイントメント kakita@p.u-tokyo.ac.jp
岡田　猛(教授)	要アポイントメント okadatak@p.u-tokyo.ac.jp
遠藤　利彦(准教授)	要アポイントメント ghh00052@nifty.ne.jp
針生　悦子(准教授)	要アポイントメント haryu@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　臨床心理学コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
下山　晴彦(教授)	要アポイントメント h3954s@p.u-tokyo.ac.jp
能智　正博(教授)	要アポイントメント mnochi@p.u-tokyo.ac.jp
高橋　美保(准教授)	要アポイントメント TSN79503@biglobe.ne.jp
石丸　径一郎(講師)	要アポイントメント ismrk@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻　心身発達科学専修　身体教育学コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
山本　義春(教授)	アポイントメントがあればいつでも良い yamamoto@p.u-tokyo.ac.jp
多賀　厳太郎(教授)	アポイントメントがあればいつでも良い taga@p.u-tokyo.ac.jp
佐々木　司(教授)	アポイントメントがあればいつでも良い sasaki@p.u-tokyo.ac.jp
野崎　大地(教授)	アポイントメントがあればいつでも良い nozaki@p.u-tokyo.ac.jp
東郷　史治(准教授)	アポイントメントがあればいつでも良い tougou@p.u-tokyo.ac.jp
森田　賢治(講師)	アポイントメントがあればいつでも良い morita@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻　教職開発コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
秋田　喜代美(教授)	要アポイントメント kakita@p.u-tokyo.ac.jp
三宅　なほみ(教授)	要アポイントメント nmiyake@p.u-tokyo.ac.jp
藤江　康彦(准教授)	要アポイントメント yfujie@p.u-tokyo.ac.jp
浅井　幸子(准教授)	要アポイントメント asai@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻　教育内容開発コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
斎藤　兆史(教授)	要アポイントメント ysaito@p.u-tokyo.ac.jp
川本　隆史(教授)	授業中に指示する kawamoto@p.u-tokyo.ac.jp
金森　修(教授)	要アポイントメント kanamori1@jcom.home.ne.jp
藤村　宣之(教授)	要アポイントメント fujimura@p.u-tokyo.ac.jp
北村　友人(准教授)	要アポイントメント yuto@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻　学校開発政策コース

教員(職名)	オフィスアワー／連絡方法
大桃　敏行(教授)	要アポイントメント omomo@p.u-tokyo.ac.jp
勝野　正章(准教授)	予めメールでアポイントメントをとること mkatsuno@p.u-tokyo.ac.jp
村上　祐介(准教授)	予めメールでアポイントメントをとること murakami@p.u-tokyo.ac.jp

事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学生支援チーム　　平日　９：００～１７：００

（１２：００～１３：００はボックスでの書類受領のみ）

メール　　gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp

電話

（大学院担当）　０３－５８４１－３９０８

（留学生担当）　０３－５８４１－３９０８（１０：００～１７：００）

（教職担当）　０３－５８４１－３９０９

（学部担当）　０３－５８４１－３９０７

ＦＡＸ　　０３－５８４１－３９１４

学生支援チームホームページ

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm

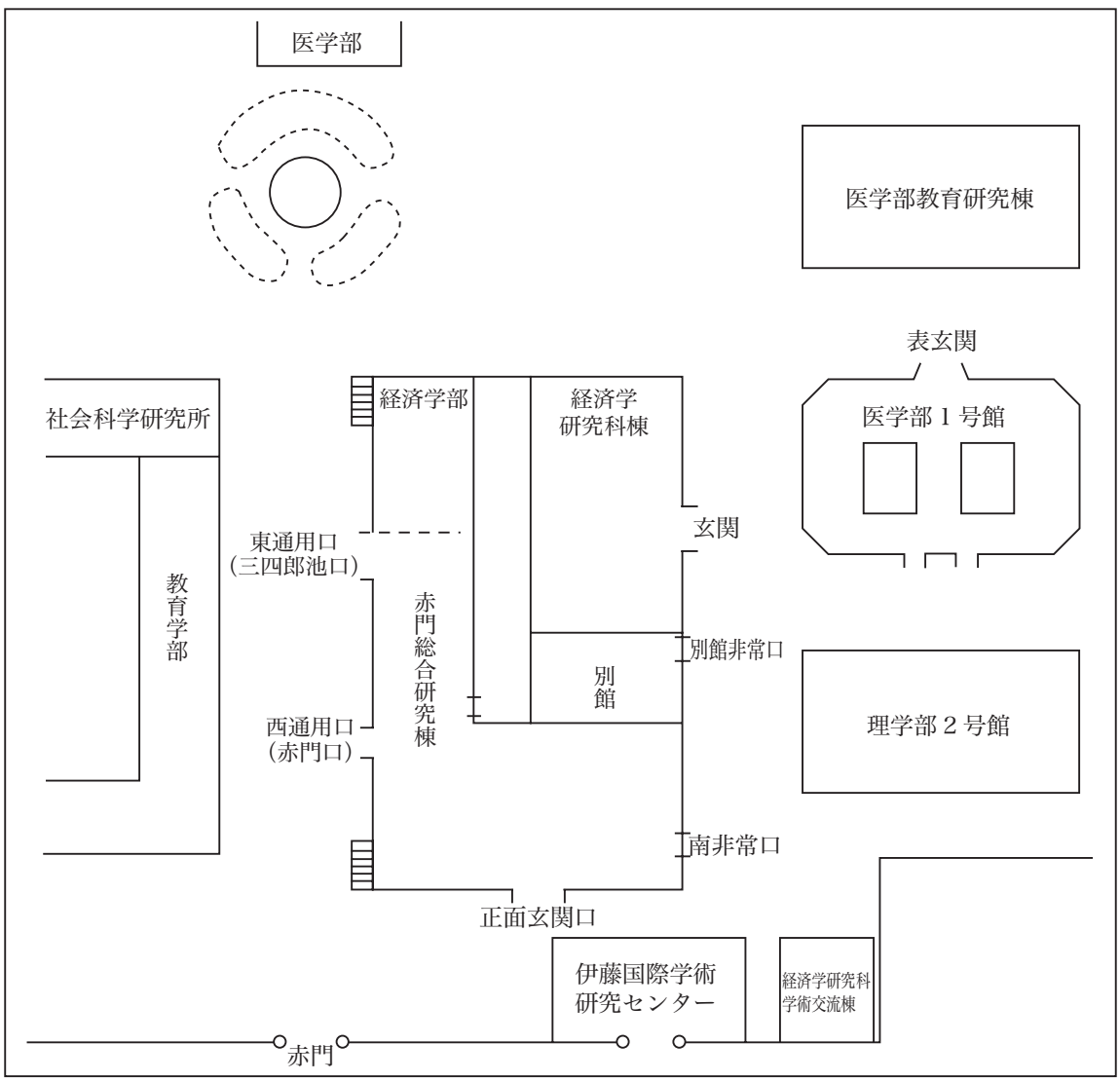
UT-mate

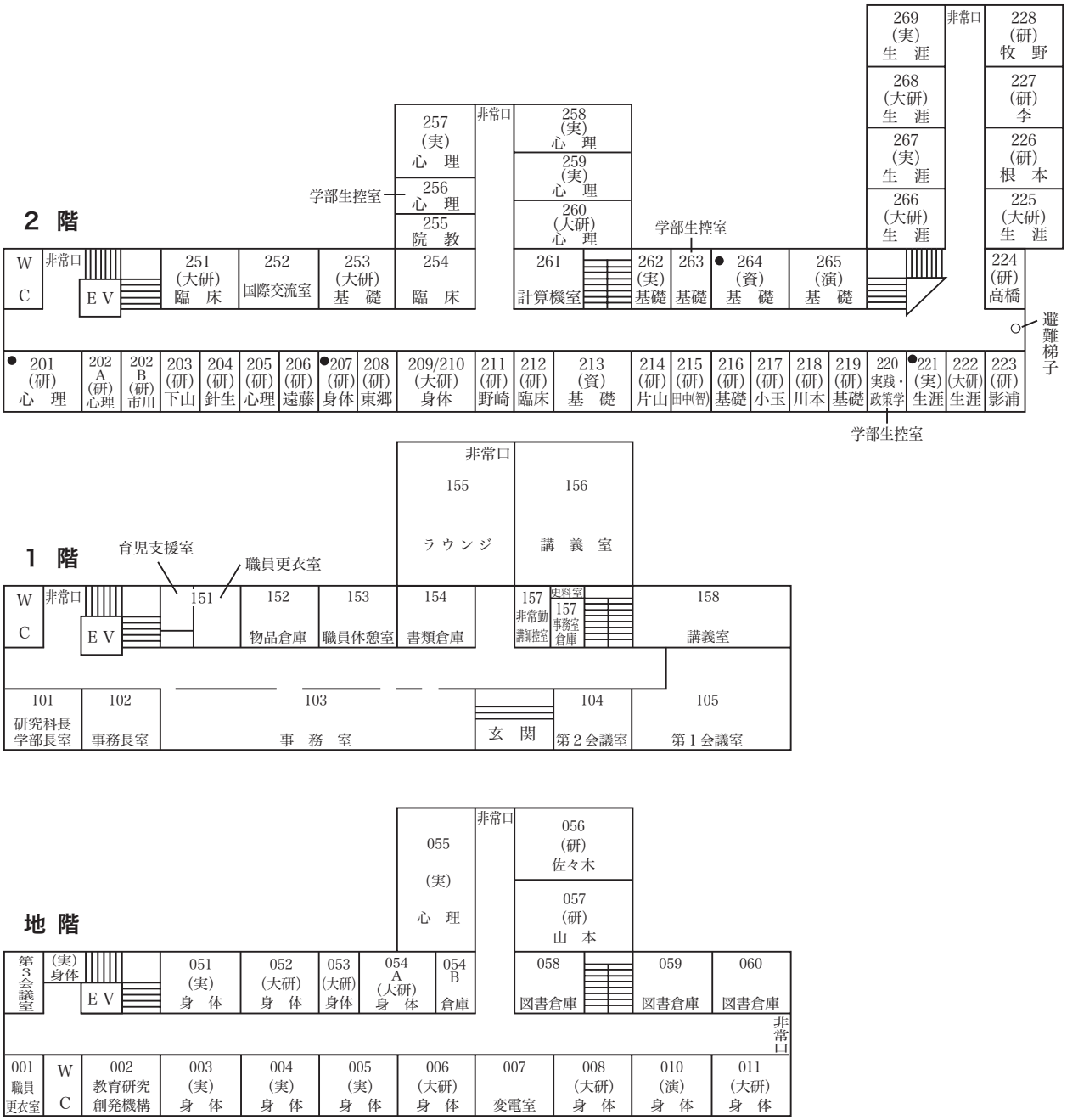
https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus

自動証明書発行機利用時間（教育学部棟）

平日・土曜日　９：００～２０：００

19. 教育学部教室・研究室等案内図

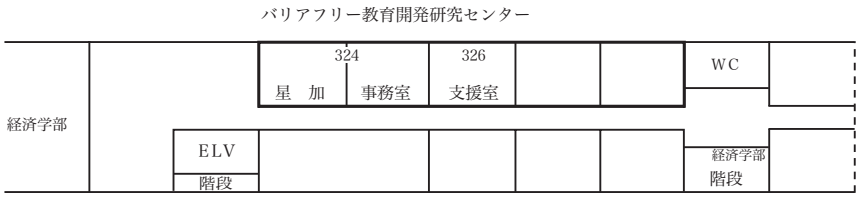



2 階
W C
非常口
E V
251 (大研) 臨 床
252 国際交流室
253 (大研) 基 礎
254 臨 床
255 院 教
256 心 理
257 (実) 心 理
学部生控室
非常口
258 (実) 心 理
259 (実) 心 理
260 (大研) 心 理
261 計算機室
262 (実) 基礎
263 基礎
学部生控室
264 (資) 基 礎
265 (演) 基 礎
269 (実) 生 涯
268 (大研) 生 涯
267 (実) 生 涯
266 (大研) 生 涯
非常口
228 (研) 牧 野
227 (研) 李
226 (研) 根 本
225 (大研) 生 涯
224 (研) 高橋
避難梯子
201 (研) 心 理
202 A (研) 心理
202 B (研) 市川
203 (研) 下山
204 (研) 針生
205 (研) 心理
206 (研) 遠藤
207 (研) 身体
208 (研) 東郷
209/210 (大研) 身体
211 (研) 野崎
212 (研) 臨床
213 (資) 基 礎
214 (研) 片山
215 (研) 田中(智)
216 (研) 基礎
217 (研) 小玉
218 (研) 川本
219 (研) 基礎
220 実践・政策学
221 (実) 生涯
222 (大研) 生涯
223 (研) 影浦
学部生控室
1 階
W C
非常口
育児支援室
職員更衣室
E V
151
152 物品倉庫
153 職員休憩室
154 書類倉庫
非常口
155 ラウンジ
156 講 義 室
157 非常勤講師控室
史料室
157 事務室 倉庫
158 講義室
101 研究科長 学部長室
102 事務長室
103 事 務 室
玄 関
104 第２会議室
105 第１会議室
地 階
第３会議室
(実) 身体
E V
051 (実) 身 体
052 (大研) 身 体
053 (大研) 身体
054 A (大研) 身 体
054 B 倉庫
非常口
055 (実) 心 理
056 (研) 佐々木
057 (研) 山 本
058 図書倉庫
059 図書倉庫
060 図書倉庫
非常口
001 職員更衣室
W C
002 教育研究創発機構
003 (実) 身 体
004 (実) 身 体
005 (実) 身 体
006 (大研) 身 体
007 変電室
008 (大研) 身 体
010 (演) 身 体
011 (大研) 身 体

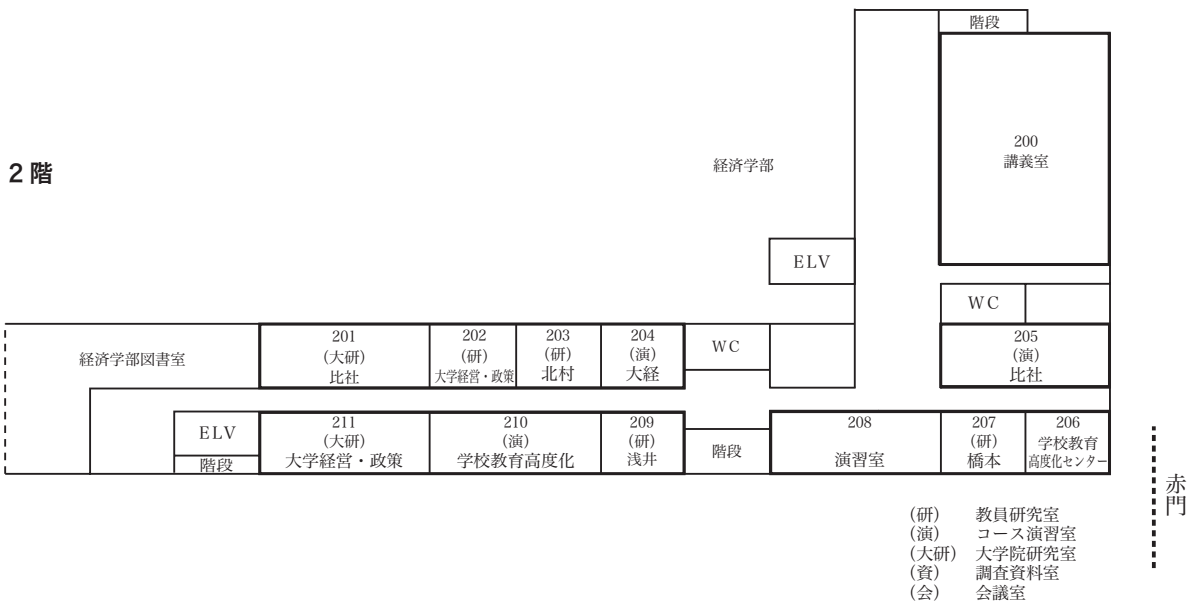
4 階
451 非常口
図書閲覧室
屋 上
W C
E V
456B (大研) 身 体
456A (研) 多賀
457 (研) 森田
401
図書閲覧室
救助袋
452
453 図書書庫
454 図書書庫
455 図書書庫
非常口
410 心理
緩降機
411 (大研) 心 理
412 (実) 心 理
413 (研)
414 (研) 能智
415 (研) 石丸
416 (研) 南風原
402 図書閲覧室
403 404 図書閲覧室
405A 図書書庫
405B 図書書庫
406 図書書庫
407 (研) 金森
408 (研) 基礎
409 (演) 心 理
3 階
357 (資) 大経
非常口
358 講義室
356 学部生控室 比 社
355 (大研) 基 礎
359 演習室
366 (実) 心 理
365 (大研) 基 礎
364 (大研) 基 礎
363 (研) 基 礎
326 (実) 心 理
325 (資) 心 理
324 (研) 小 方
323 (研)
W C
非常口
E V
351 (資) 比 社
352 (実) 比 社
353 (大研) 開発政策
354 (大研) 基 礎
360 計算機室
361 演習室
362 演習室
W C
322 (研) 新藤
緩降機
301 (演) 比 社
302/303 (演) 比 社
304 (研) 比社
305 (研) 本田
306 (研) 藤村
307 (研) 村上
308 (研) 大桃
309 (大研) 開発
310 (演) 大 経
311 (研) 山本(清)
312 (大研) 比社
313A (資) 大経
313B コンピュータ
314A (研) 中村
314B (研) 両角
315 (研) 秋田
316 (研) 岡田
317 (研) 心 理
318 (研) 恒吉
319 (研) 基礎
320 (研) 小国
321 (研) 佐々木
(研)—— 教育研究室
(演)—— コース演習室
(実)—— 実験室
(大研)—— 大学院研究室
(資)—— 調査資料室室
○—— 避難器具
●—— コース事務室

赤門総合研究棟

3 階



2 階



弥生地区総合研究棟　3 階

医学部１号館

１階

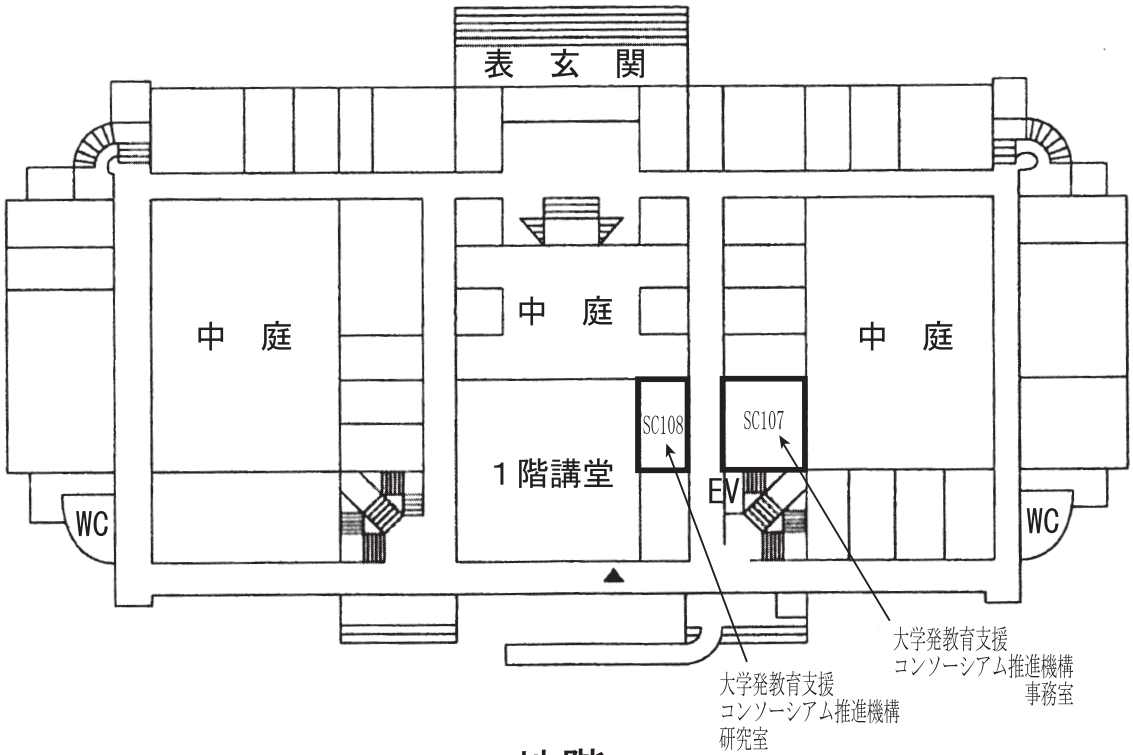
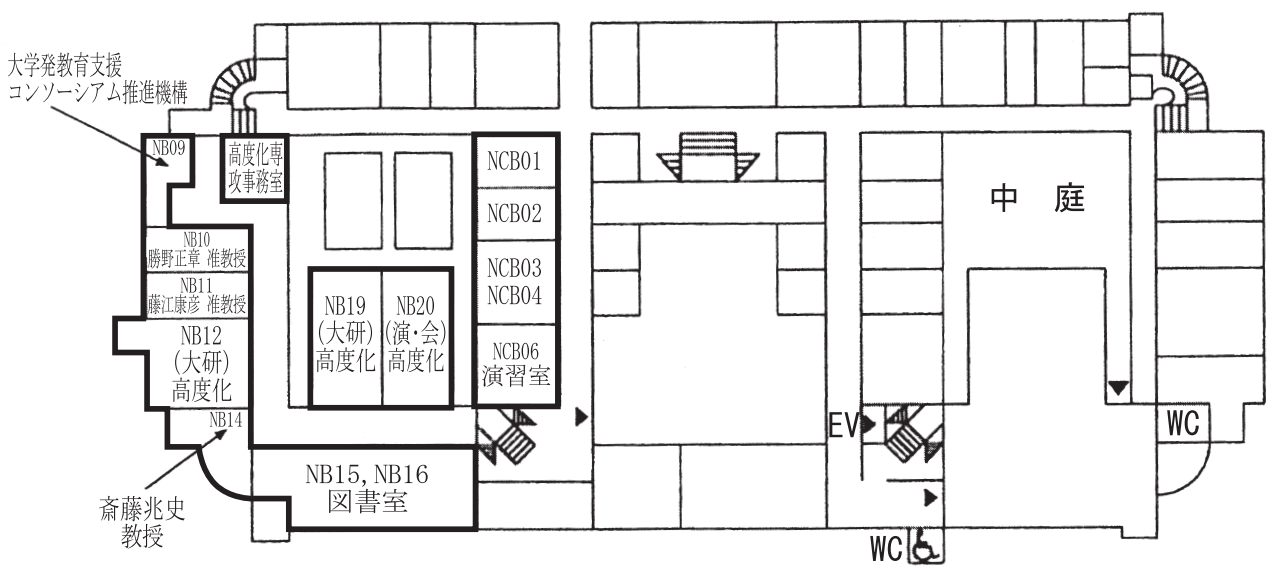
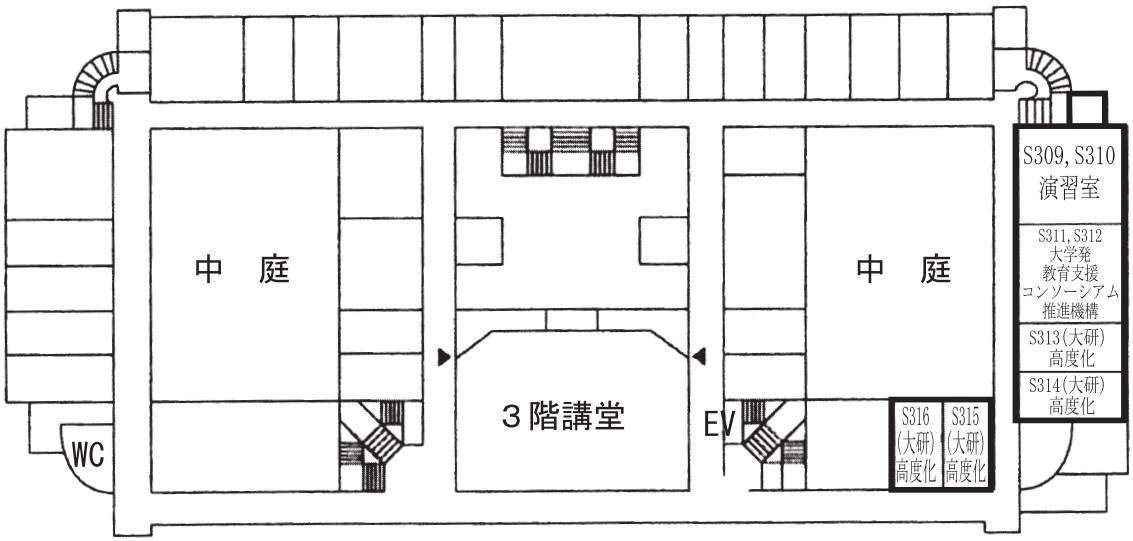


表　玄　関
中　庭
中　庭
中　庭
１階講堂
SC108
SC107
EV
WC
WC
大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
研究室
大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
事務室

地階


大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
NB09
高度化専攻事務室
NB10
勝野正章 准教授
NB11
藤江康彦 准教授
NB12
(大研)
高度化
NB14
斎藤兆史
教授
NB19
(大研)
高度化
NB20
(演・会)
高度化
NB15, NB16
図書室
NCB01
NCB02
NCB03
NCB04
NCB06
演習室
中　庭
EV
WC
WC

３階


N
中　庭
３階講堂
中　庭
WC
EV
S309, S310
演習室
S311, S312
大学発
教育支援
コンソーシアム
推進機構
S313(大研)
高度化
S314(大研)
高度化
S316
(大研)
高度化
S315
(大研)
高度化

医学部１号館

１階

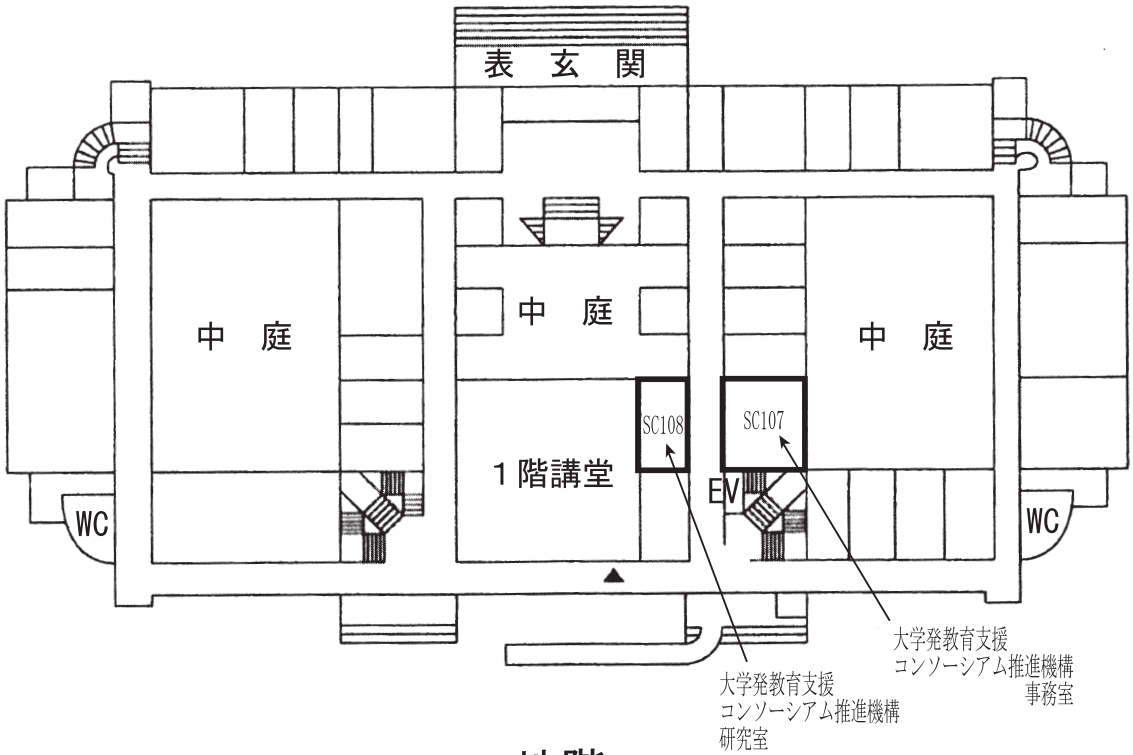
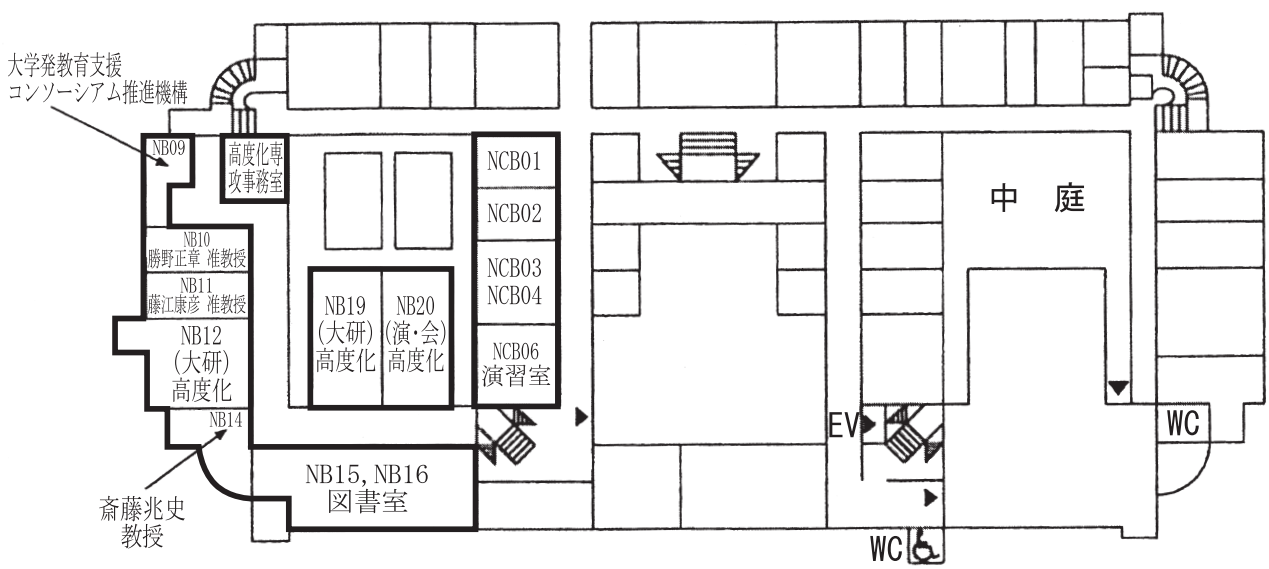
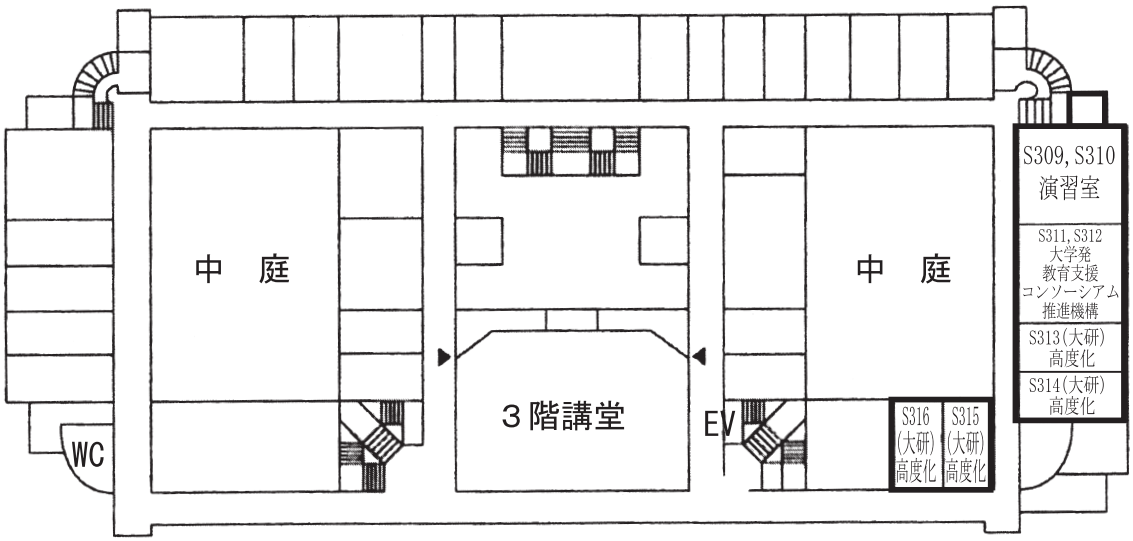


表　玄　関
中　庭
中　庭
中　庭
１階講堂
SC108
SC107
EV
WC
WC
大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
研究室
大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
事務室

地階


大学発教育支援
コンソーシアム推進機構
NB09
高度化専攻事務室
NB10
勝野正章 准教授
NB11
藤江康彦 准教授
NB12
(大研)
高度化
NB14
斎藤兆史
教授
NB19
(大研)
高度化
NB20
(演・会)
高度化
NB15, NB16
図書室
NCB01
NCB02
NCB03
NCB04
NCB06
演習室
中　庭
EV
WC
WC

３階


N
中　庭
３階講堂
中　庭
WC
EV
S309, S310
演習室
S311, S312
大学発
教育支援
コンソーシアム
推進機構
S313(大研)
高度化
S314(大研)
高度化
S316
(大研)
高度化
S315
(大研)
高度化